

岐阜県博物館調査研究報告

第 36 号

BULLETIN

OF

THE GIFU PREFECTURAL MUSEUM

No.36

岐 阜 県 博 物 館

GIFU PREFECTURAL MUSEUM

1989 Oyana, Seki City, Japan

March, 2015

目 次

岐阜県揖斐郡大野町石山石灰岩体の生層序学的研究……………	1-17
高橋 健・河部壮一郎	
長良川で採集されたレッドテールキャットフィッシュとマダラロリカリア……………	19-24
向井貴彦・説田健一	
復活する祭礼と民俗芸能 東日本大震災と岐阜県の事例から……………	25-38
南本有紀	
加茂郡八百津町採集の石器類……………	39-44
長屋幸二	
特別展「奇なるものへの挑戦 明治大正／異端の科学」について 参考文献リストと年表 ……………	45-59
南本有紀	

Contents

- Biostratigraphical Study of the Ishiyama Limestone, Ono Town, Ibi County, Gifu Prefecture, Central Japan 1–17
Takeshi Takahashi, Soichiro Kawabe
- Records of Redtail catfish *Phractocephalus hemioliopterus* and Suckermouth armored catfish *Pterygoplichthys disjunctivus* in the Nagara River, Gifu Prefecture, Japan 19–24
Takahiko Mukai, Ken-ichi Setsuda
- The Restoration of Festivals and Folk Performances
Case Study of the Great East Japan Earthquake Disaster and Gifu 25–38
Yuki Minamimoto
- Introduction to Stone-tools Collected at Yaotsu-town Kamo-district 39–44
Koji Nagaya
- The Introduction of Exhibition "Challenging heretic scientists in Meiji and Taisho era"
: A List of References 45–59
Yuki Minamimoto

岐阜県揖斐郡大野町石山石灰岩体の生層序学的研究

Biostratigraphical Study of the Ishiyama Limestone, Ono Town, Ibi County, Gifu Prefecture, Central Japan.

高橋 健¹・河部壮一郎²

*Takeshi Takahashi*¹, *Soichiro Kawabe*²

¹飛騨教育事務所; ²岐阜県博物館

Abstract

Ishiyama, Ono Town, Ibi County, Gifu Prefecture, Central Japan is one of the few distributional areas of limestone of the Mino terrane. The purposes of this study were to investigate the Ishiyama Limestone litho-biostratigraphically and to examine the depositional environments of the limestone. Results of this study are as follows: (1) the Ishiyama Limestone Group can be divided into three parts lithostratigraphically, that is lower, middle, and upper part, (2) fusulinecan biostratigraphically, the Ishiyama Limestone Group is composed eight zones, (3) the Ishiyama Limestone contains five types of limestone, (4) the fusuline-crinoid pack/wackestone of the lower formation deposited under well-running current, (5) the fusuline pack/wackestone of the middle formation deposited in the calm lagoon, and, (6) the ooid and fusuline-foraminifer grainstones of the upper formation deposited under the heavy current circumstance.

はじめに

岐阜県揖斐郡大野町の石山石灰岩体は、美濃帯に点在する石灰岩体のひとつである。本岩体については、藤本ほか(1962)によりフズリナを用いた地質区分がなされ、千坂・高岡(1977)はその東部の白山地域において地質図・柱状図の作成を、Igo(1983)はペルム系上部層のフズリナ化石の産出報告を行っている。しかし、いずれの報告においても石灰岩体全体についての詳細な地質図・柱状図の作成、あるいはその堆積環境の考察は行われていない。本研究では、これらの先行研究の結果を踏まえたうえで、石山石灰岩体における岩相・フズリナ生層序に基づいた地質図・柱状図の作成及び堆積環境の考察を行った。

地質概要

本岩体は、岐阜県揖斐郡大野町に位置し、南北約1.5km、東西約2kmの範囲に見られる(図1, 2)。西部の白山地域と東部の石山地域で石灰岩の採掘が行われており、きわめて露出の良い露頭が見られる。岩体の周辺にはチャート

や粘板岩が分布しており、それらは石灰岩体と断層を挟んで接している(千坂・高岡, 1977)。

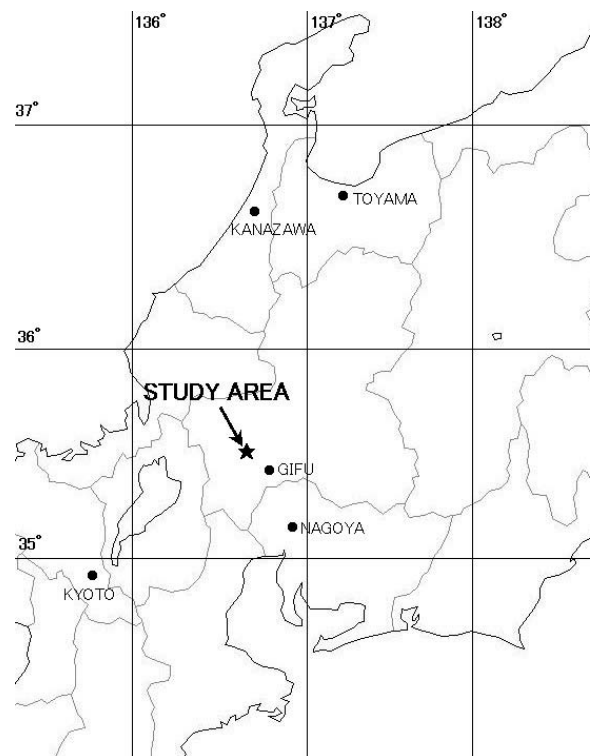


図1 調査地域

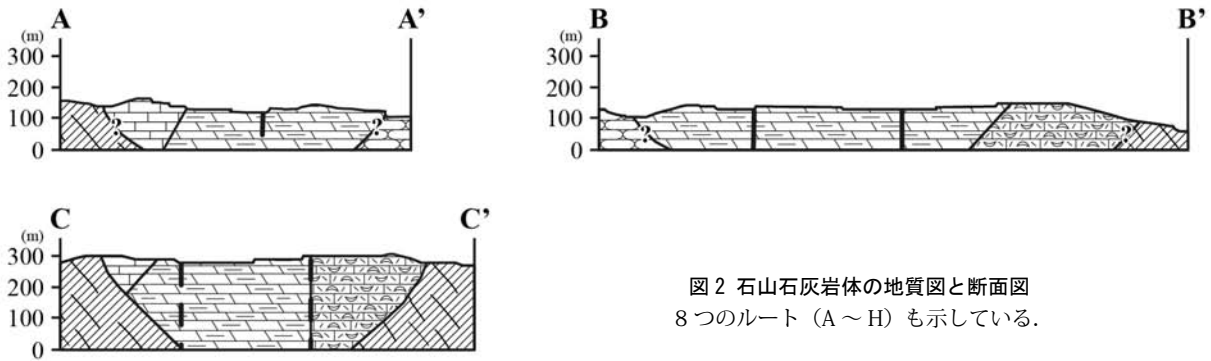
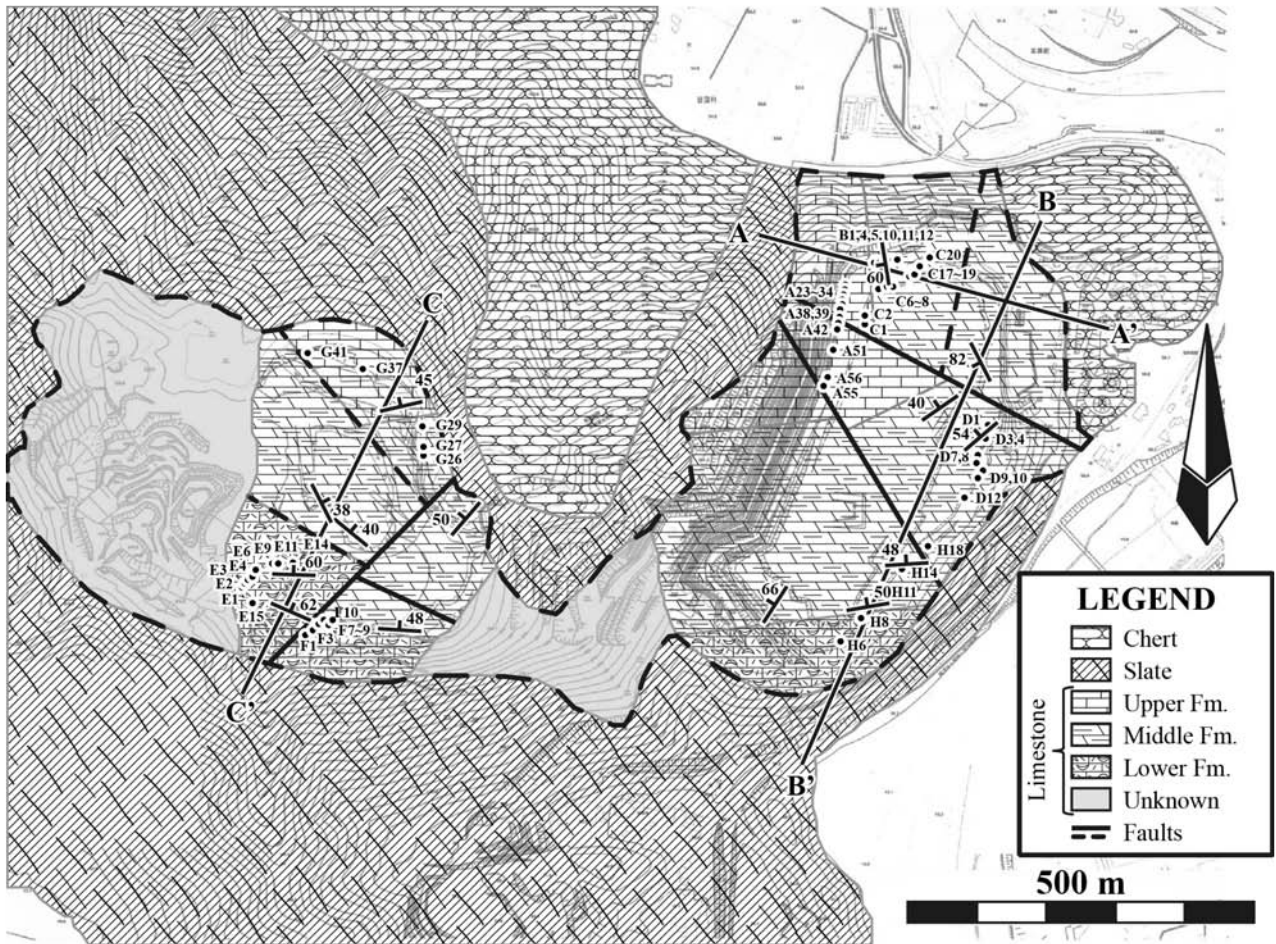


図2 石山石灰岩体の地質図と断面図
8つのルート (A~H) も示している。

本研究では露頭に沿って8つのルート(図2)をとり、岩相や産出化石の記録などを行いながら岩石試料を採取した。採取した試料から岩石薄片を作成し、鏡下観察を行った。

その結果、岩相や含有化石などから石山石灰岩体は下部層・中部層・上部層の3層に分けることができた(図2)。以下に各層の詳細を記載する。

下部層

石山地域の南部及び白山南東部に分布する。灰白色から灰黒色の緻密な石灰岩で特徴づけられ、少量のドロマイトを伴う。比較的明瞭な層理面を示す。層厚は100m以上。フズリナ化石 *Parafusulina japonica*, *Cancellina nipponica*,

Pseudodoliolina ozawai, *Schubertella giraudi*, *Codonofusiella* sp. が産出し、その他ウミユリ類化石なども産出する。ペルム紀中期に対比される。

中部層

石山地域の北東部から中央部及び白山地域の北東部から南西部にかけて分布し、石山石灰岩体でもっとも広く見られる。灰黒色から黒色の泥質石灰岩で特徴づけられる層状石灰岩からなる。層厚は約220m。下部層との境に30mほどの方解石の脈が発達した黒色石灰岩が狭在する。フズリナ化石 *Yabeina globosa*, *Yabeina katoi*, *Yabeina* sp., *Neoschwagerina margaritae*, *Neoschwagerina craticulifera*, *Neoschwagerina simplex*, *Colania*

gifuensis, *Verbeekina verbeeki*, *Pseudodoliolina ozawai*, *Parafusulina japonica*, *Parafusulina* sp., *Shubertella giraudi*, *Shubertella* sp., *Codonofusiella* sp., *Reichelina* sp., *Nankinella* sp., *Kahlerina* sp., *Paradoxiella* sp. が見られ, その他に石灰藻類, *Shikamaia* などの二枚貝, *Waagenophylum*, 巻貝, 腕足動物が産出する. また, 上部層との境に *Waagenophylum* 層が存在する. ペルム紀中期から後期に対比される.

白色から灰黒色の石灰岩で特徴づけられ, ドロマイトを伴う. 塊状で, 層理面は不明瞭である. 層厚は130m以上. フズリナ化石 *Codonofusiella keichowensis*, *Reichelina changsingensis*, *Dunbarula suzukii*, *Nankinella* sp. が産出し, その他小型の有孔虫や石灰藻類も見られる. ペルム紀後期に対比される.

化石帯の設定

上部層

石山地域の北西部及び白山地域の北西部に分布する. 灰

フズリナ化石をもとに以下の8つの化石帯を設定した(図3, 4).

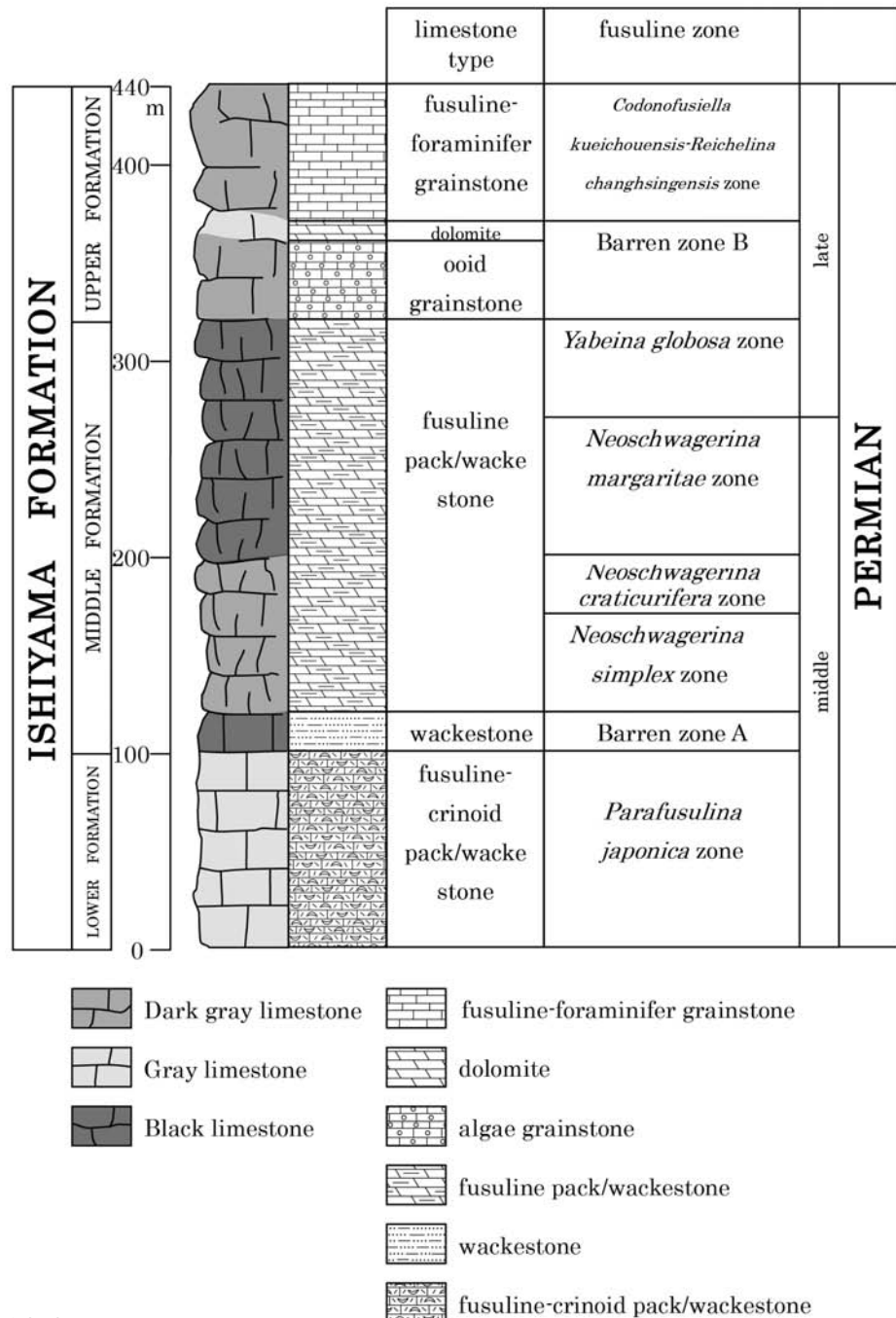


図3 石山石灰岩体の総合柱状図

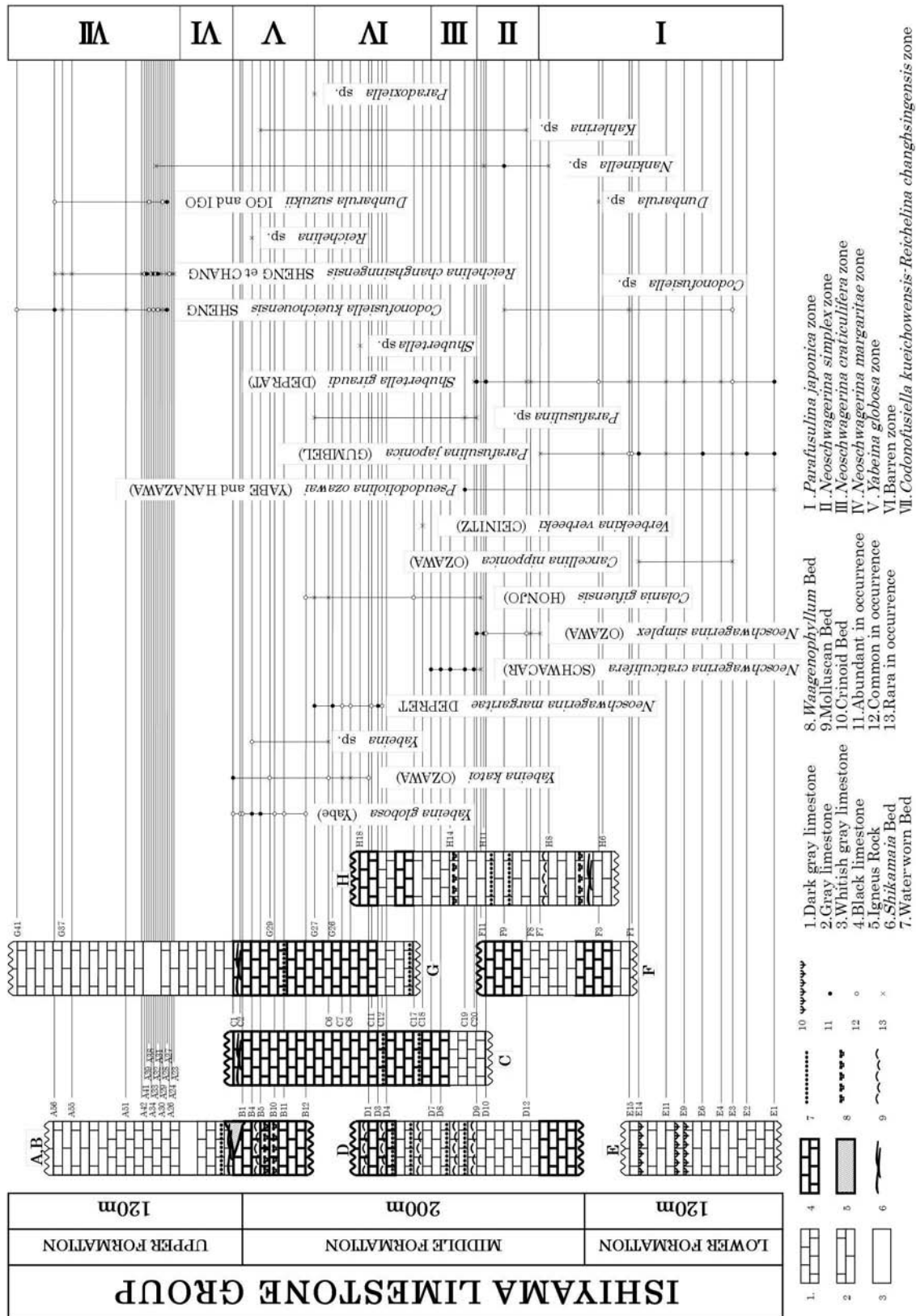


図4 石山石灰岩体のルーフト柱状図

1) *Parafusulina japonica* 帯

Parafusulina japonica が多産し、灰白色から灰黒色の緻密な石灰岩で構成される。フズリナ化石として他に *Cancellina nipponica*, *Pseudodoliolina ozawai*, *Shubertella giraudi*, *Codonofusiella sp.* が産出する。場所によ

り、*Shubertella giraudi* が多産する (図2, 4: E1)。その他にウミユリ類が産出する。層厚は100m以上。

2) Barren 帯 A

化石が含まれておらず、泥質の黒色石灰岩で構成され、方解石の脈が多いのが特徴である。層厚は約30m。

3) *Neoschwagerina simplex* 帯

Neoschwagerina simplex が多く産出する。黒灰色から黒色の泥質石灰岩で構成される。フズリナ化石として他に *Colania gifuensis*, *Parafusulina japonica*, *Schubertella giraudi*, *Codonofusiella* sp., *Nankinella* sp., *Kahlerina* sp. を産出する。他に石灰藻類, *Shikamaia* などの二枚貝, *Waagenophyllum* を産出する。層厚は約 40m.

4) *Neoschwagerina craticulifera* 帯

Neoschwagerina craticulifera が多く産出する。黒灰色から黒色の泥質石灰岩で構成される。フズリナ化石として他に *Colania gifuensis*, *Pseudodoliolina ozawai*, *Parafusulina* sp., *Schubertella giraudi* が産出する。他に石灰藻類や二枚貝が産出する。層厚は約 20m.

5) *Neoschwagerina margaritae* 帯

Neoschwagerina margaritae が多く産出する。黒灰色から黒色の泥質石灰岩で構成される。フズリナ化石として他に *Yabeina katoi*, *Yabeina* sp., *Colania gifuensis*, *Parafusulina* sp., *Schubertella* sp., *Paradoxiella* sp. が産出する。他に石灰藻類や二枚貝が産出する。層厚は約 70m.

6) *Yabeina globosa* 帯

Yabeina globosa が多く産出する。泥質の黒色石灰岩で構成される。フズリナ化石として他に *Yabeina katoi*, *Yabeina* sp., *Colania gifuensis*, *Reichelina* sp., *Kahlerina* sp. を産出する。他に *Waagenophyllum*, 石灰藻類, 二枚貝, 巻貝, 腕足動物が産出する。層厚は約 60m.

7) Barren 帯 B

フズリナ化石は含まれず, 灰黒色から灰白色の塊状石灰岩とドロマイトで構成される。ただし, 石灰藻類が産出する。層厚は約 30m.

8) *Codonofusiella kueichouensis*

—*Reichelina changhsingensis* 帯

Codonofusiella kueichouensis と *Reichelina changhsingensis* が多産し, 灰色から灰黒色の塊状石灰岩で構成される。他のフズリナ化石として *Dunbarula suzukii*, *Nankinella* sp. が産出する。他に小型の有孔虫が産出する。層厚は約 90m.

石灰岩の分類

Dunham (1962) に基づき, 石灰岩を下位から以下の 5 つに分類した (図 3).

1) fusuline-crinoid wack/packstone

石山地域南部に分布する。フズリナとウミユリ類を主な構成粒子とする, 石灰泥基質石灰岩。少量の方解石セメントも見られる。

2) wackestone

石山地域南部に分布する。石灰泥基質で, 方解石の脈が多い。化石は見られない。

3) fusuline pack/wackestone

石山地域中央部及び白山地域北東部から南部にかけて分布する。石山石灰岩体でもっとも頻繁に見られる石灰岩である。フズリナを主な構成粒子とした石灰泥基質である。他の化石も多く産出し, *Waagenophyllum*, 石灰藻類, 二枚貝, 巻貝, 腕足動物なども含む。

4) algal grainstone

石山地域北部と白山地域北西部に分布する。石灰藻類や peloid 粒子, ooid 粒子を主な構成粒子とし, 方解石セメントで充填されている。

5) fusuline-foraminifer grainstone

石山地域北部と白山地域北西部に分布する。小型のフズリナと小型の有孔虫を主な構成粒子とし, 方解石セメントで充填されているが, 石灰泥の割合も比較的多い。他の化石はみられない。

先行研究との比較

本研究における下部層は, 藤本ほか (1962) における“下部層”, 千坂・高岡 (1977) の“*Parafusulina* 帯”に対応する (図 5)。ただし, 千坂・高岡 (1977) で確認された *Schwagerina gifuensis*, *S. kinosakii*, *Pseudofusulina granumavenae* を本研究では確認できなかった。

中部層は, 藤本ほか (1962) における“中部層”と“上部層”の一部, 千坂・高岡 (1977) の“*Neoschwagerina* 帯”と“*Yabeina* 帯”に対応する (図 5)。

上部層は, 藤本ほか (1962) における“上部層”の“ドロマイト質を含んだ石灰岩礫岩”の部分に対応する。また, Igo (1983) で報告されているフズリナや有孔虫化石などを, 本研究でも確認した。

古環境の考察

石山石灰岩体を構成する石灰岩は, 陸源性の粗粒子を含まず, 浅海性生物の化石を多く産出することから, 舟伏山岩体 (Sano, 1988) と同じように, ホットスポット海山の頂部で形成された石灰岩体であると考えられる。

以下, 石灰岩の構成要素の中で, 石灰泥は静穏な堆積環境を, 方解石セメントは高エネルギーな堆積環境を示していると仮定し, 石山石灰岩体における堆積環境の考察を行う。

		Fujimoto et al. (1962)	Chisaka & Takaoka(1977)	This Study		
Permian	Late	Upper Formation		Upper Formation	<i>Codonofusiella kueichouensis</i> - <i>Reichelina cangsingensis</i> zone	
					Barren zone B	
	Middle	Middle Formation	<i>Neoschwagerina</i> zone		Middle Formation	<i>Yabeina globosa</i> zone
						<i>Neoschwagerina margaritae</i> zone
						<i>Neoschwagerina craticurifera</i> zone
						<i>Neoschwagerina simplex</i> zone
	Barren zone A					
	Lower Formation	<i>Parafusulina</i> zone	Lower Formation	<i>Parafusulina japonica</i> zone		

図5 先行研究との対比

下部層を形成している主な石灰岩である *fusuline-crinoid pack/wacke stone* は石灰泥基質であるが、少量の方解石セメントを含む。ここで多産する *Parafusulina japonica* は海水の流れに耐えられるような細長い形態をしている。また、ウミユリ類は海水の流れのよい浅海性の環境に多産することから、下部層はラグーン形成段階のまだ海水の流れのよい浅海環境下で堆積したものと考えられる。

中部層を形成している主な石灰岩である *fusuline pack/wackestone* は下部層と同じく石灰泥基質であるが、より粒子が細かく、方解石セメントも含まれていない。また、他の層準に比べて産出化石の量も豊富であることや、石灰岩が黒灰色から黒色で有機質に富むことなどから、中部層はラグーンが十分に発達した内部の静穏な富栄養環境下で堆積したものと考えられる。

上部層は、下部から、*algal grainstone*、ドロマイト、*fusuline-foraminifer grainstone* で形成されている。*algal grainstone* は中部層と比較して、より方解石セメント基質であり、石灰泥も含まれていないため、海水の流れのよい高エネルギー環境下で堆積したことを示唆している。中部層から急激に高エネルギー環境へ変化した要因として、海水面の上昇もしくはラグーンの崩壊による海水の流入が考えられる。ただ、ラグーンが破壊された場合、それを示す礫などが産出するのが一般的だが、そういった礫は確認されていない。よって、堆積環境の変化を生じさせた原因は海水面の上昇であると考えられる。

礫性石灰岩体中のドロマイトは、海水の塩分濃度が濃くなることにより、堆積している未固結石灰岩の Ca が Mg に置換されることで形成される (Seepage-reflux model: Deffeyes et al., 1965)。このことから上部層の中ほどで見られるドロマイトは、海水面が後退したことでラグーン内部に海水が滞留するようになった高塩分濃度環境下で形成されたと考えられる。

ドロマイトの上位にある *fusuline-foraminifer grainstone* は方解石セメント基質であるため、*algal grainstone* と同様に高エネルギー環境下で堆積したものであると考えられる。しかし、*algal grainstone* に比べて石灰泥の割合が多く、産出する小型のフズリナや有孔虫の保存状態がよいことから、そこまで高エネルギー環境下で堆積したものではなかったと考えられるが、小規模な海水面の上昇による堆積場エネルギーの上昇があったと考えられる。

以上のことから石山石灰岩体は、①海山頂部のラグーンが形成されていく過程で *fusuline-crinoid pack/wackestone* や *fusuline pack/wacke-stone* が堆積、②海面上昇により *algal grainstone* が堆積、③その後の海退によりドロマイトが形成、④小規模の海面上昇により *fusuline-foraminifer grainstone* が堆積して形成されたと考えられる。

また、岐阜県大垣市の赤坂石灰岩の市橋地区を調査した青木 (2007) は、既に知られていた *Yabeina* 帯と *Codonofusiella-Reichelina* 帯の間に Barren 帯を見出し、

Yabeina 帯から *Barren* 帯への変化の原因は海面上昇であるとした。赤坂石灰岩の大久保地区を調査した川合(1984)は、本研究における *Barren* 帯 B にあたる層準に少量の *Sichotenella* sp.を確認し、*Sichotenella* sp. zone を設定している。したがって、赤坂石灰岩及び石山石灰岩堆積時のペルム紀後期は、*Yabeina* 帯と *Barren* 帯、または *Sichotenella* zone との間で海面上昇が起こり、フズリナなどの生物が生息しにくい環境になったと考えられる。

ま と め

1. 石山石灰岩体の地質層序は下部層、中部層、上部層の3つに区分される。本岩体は白山地域、石山地域ともに多くの断層によって区切られブロック化しているが、白山地域ではおおむね南東から北西にかけて、石山地域ではおおむね北から南にかけて上記3部層が分布している。
2. 化石帯は以下の8つに分帯される。
 - 1) *Parafusulina japonica* 帯
 - 2) *Barren* 帯 A
 - 3) *Neoschwagerina simplex* 帯
 - 4) *Neoschwagerina craticulifera* 帯
 - 5) *Neoschwagerina margaritae* 帯
 - 6) *Yabeina globosa* 帯
 - 7) *Barren* 帯 B
 - 8) *Codonofusiella kwenchouensis*
-*Reichelina cangsingensis* 帯
3. 石灰岩は以下の5つに分類される。
 - 1) fusuline-crinoid pack/wackestone
 - 2) wackestone
 - 3) fusuline pack/wackestone
 - 4) algal grainstone
 - 5) fusuline-foraminifer grainstone
4. 石山石灰岩体は他の美濃帯の石灰岩体と同じように礁性の石灰岩体であると考えられる。fusuline-crinoid pack/wackestone から成る下部層は、ラグーン形成過程における海水の流通がよい環境で堆積したと考えられる。fusuline pack/wackestone から成る中部層は、十分に発達したラグーン内部の静穏な環境下で堆積したと考えられる。上部層においては、海面上昇により algal grainstone が堆積し、次に海面の後退によりドロマイトが形成され、さらに小規模の海面上昇が起こって fusuline-foraminifer grainstone が堆積したと考えられる。

謝 辞

本調査では、川合康司氏に、現地での調査の指導等で大変お世話になった。また、小井土由光教授をはじめ、岐阜大学教育学部の皆様には貴重なご意見、ご指摘をいただいた。また、住友大阪セメント株式会社の皆様には数多くの便宜を図っていただいた。ここに深く感謝の意を表し謝辞としたい。

引 用 文 献

- 青木 理恵 (2007) : 大垣市市橋地区に分布する赤坂石灰岩の生層序学的研究。岐阜大学卒業論文。
- Dunham, R. J. (1962): Classification of Carbonate Rocks According to Depositional Texture. Hamm W. E. ed., *Classification of Carbonate Rocks, A Symposium. American Association of Petroleum Geologists*, p. 108-121.
- Deffeyes, K. S., Lucia, F. J. and Weyl, P. K. (1965): Dolomitization of Recent and Plio-Pleistocene Sediments by Marine Evaporite Waters on Bonaire, Netherlands Antilles, Pray, L. C., and Murray, R. C., eds., *Dolomitization and Limestone Diagenesis: A Symposium: Society of Economic Paleontologists and Mineralogists Publication no. 13*, p. 71-88.
- 藤本 治義・鹿沼 茂三郎・猪郷 久義 (1962) : 飛騨山地の上部古生界について。飛騨山地の地質研究, 44-70.
- Igo, H. (1983): Upper Permian Foraminifers from the Ishiyama Limestone, Ono Town, Ibi County, Gifu Prefecture. *Bulletin of Tokyo Gakugei University Section IV Mathematics and Natural Sciences*, 35, 101-115.
- 川合 康司 (1984) : 岐阜県赤坂石灰岩の生層位学的研究—進化教材の基礎的研究—。兵庫教育大学大学院学校教育研究科修士論文。
- Sano, H. (1988): Permian Oceanic-Rocks of Mino Terrane, Central Japan Part II. Limestone Facies. *Journal of Geological Society of Japan*, 94, 963-976.
- 千坂 武志・高岡 善成 (1977) : 岐阜県揖斐郡白山石灰岩の地質。千葉大学教育学部研究紀要, 第2部 26, 19-27.

Plate 1.

Fig. 1. Fusuline-crinoid packstone, from Point E1.

Fig. 2. Wackestone, from Point F5.

All figures, $\times 20$.

Plate 2.

Fig. 1. Fusuline packstone, from Point B5.

Fig. 2. Algal grainstone, from Point A16.

All figures, $\times 20$.

Plate 3.

Fig. 1. Fusuline-foraminifer grainstone, from Point A27,
 $\times 20$.

Plate 4.

Fig. 1, 2. *Yabeina globasa* (YABE), axial sections, from
Point J6, $\times 10$.

Plate 5.

Fig. 1–4. *Yabeina globasa* (YABE)

1. Sagittal section, from Point J6.

2. Sagittal section, from Point D22

3. Sagittal section, from Point C1.

4. Sagittal section, from Point B5.

Fig. 5. *Yabeina katoi* (OZAWA), sagittal section, from
Point D1.

All figures, $\times 10$.

Plate 6.

Fig. 1. *Yabeina* sp., axial section, from Point A62.

Fig. 2. *Colania* sp., axial section, from Point D22.

Fig. 3, 4. *Neoschwagerina margaritae* (DEPRAT),
sagittal sections, from Point J29.

All figures, $\times 10$.

Plate 7.

Fig. 1–3. *Neoschwagerina craticurifera* (SCHWAGAR)

1. Axial section, from Point C20.

2, 3. Sagittal sections, from Point C19.

All figures, $\times 20$.

Plate 8.

Fig. 1. *Neoschwagerina simplex* (OZAWA), sagittal
section, from Point D12.

Fig. 2. *Cancelina nipponica* (OZAWA), sagittal section,
from Point E2.

Fig. 3–6. *Parafusulina japonica* (GUMBEL)

3, 4. Axial sections, from Point E15.

5. Sagittal section, from Point E13.

6. Sagittal section, from Point E15.

All figures, $\times 20$.

Plate 9.

Fig. 1, 2. *Kahlerina* sp.

1. Axial section, from Point J9.

2. Sagittal section, from Point B5.

Fig. 3–5. *Schubertella giraudi* (DEPRAT), axial
sections, from Point E2.

Fig. 6, 7. *Nankinella* sp.

6. Axial section, from Point D9.

7. Tangential section, from Point D9.

Fig. 8. *Reichelina canghsingensis* SHENG and CHANG,
axial section, from Point A31.

Fig. 9. *Reichelina* sp., axial section, from B4.

Fig. 10. *Codonofusiella kueichouensis* SHENG, sagittal
section, from Point A55.

Fig. 11. *Codonofusiella* sp., sagittal section, from Point
E2.

Fig. 12, 13. *Dunbarula suzukii* IGO and IGO

12. Sagittal section, from Point A27.

13. Sagittal section, from Point A68.

Fig. 14. *Dunbarula* sp., sagittal section, from Point F3.

All figures, $\times 40$.

Plate 1

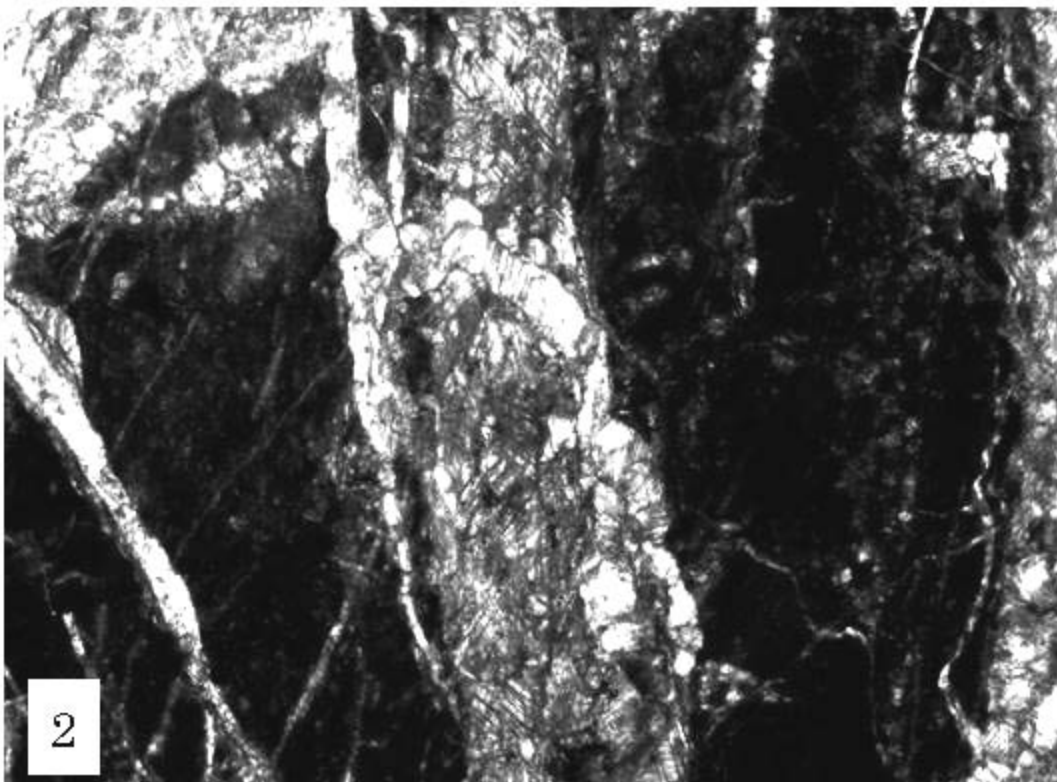
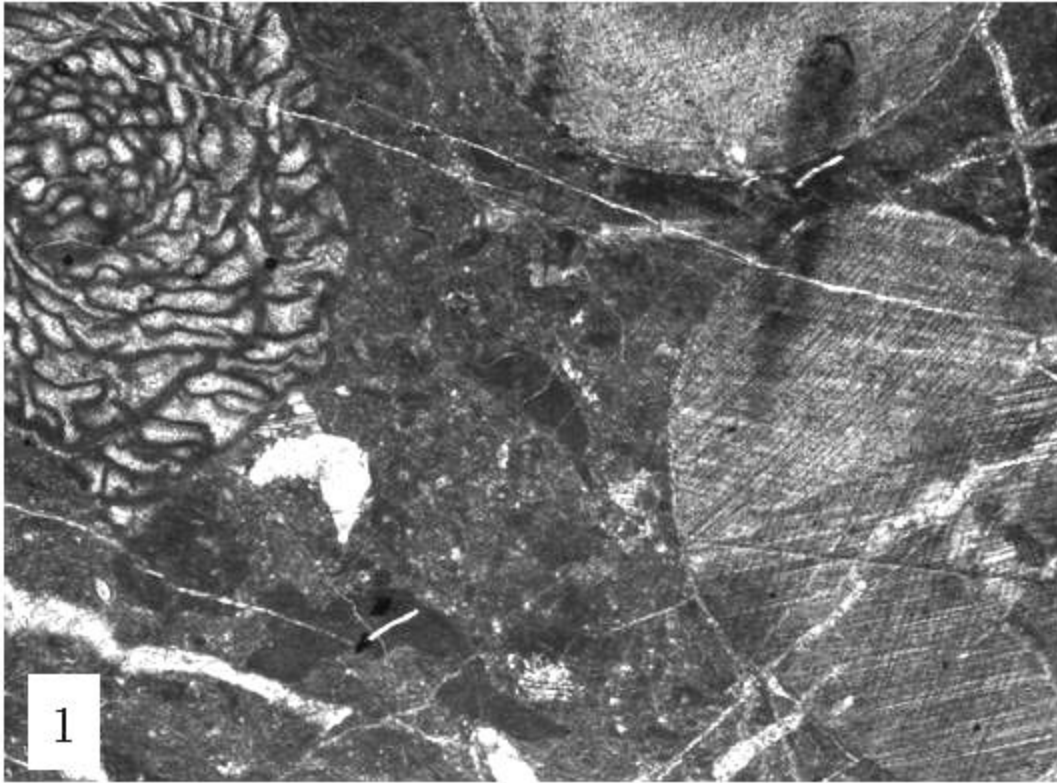


Plate 2

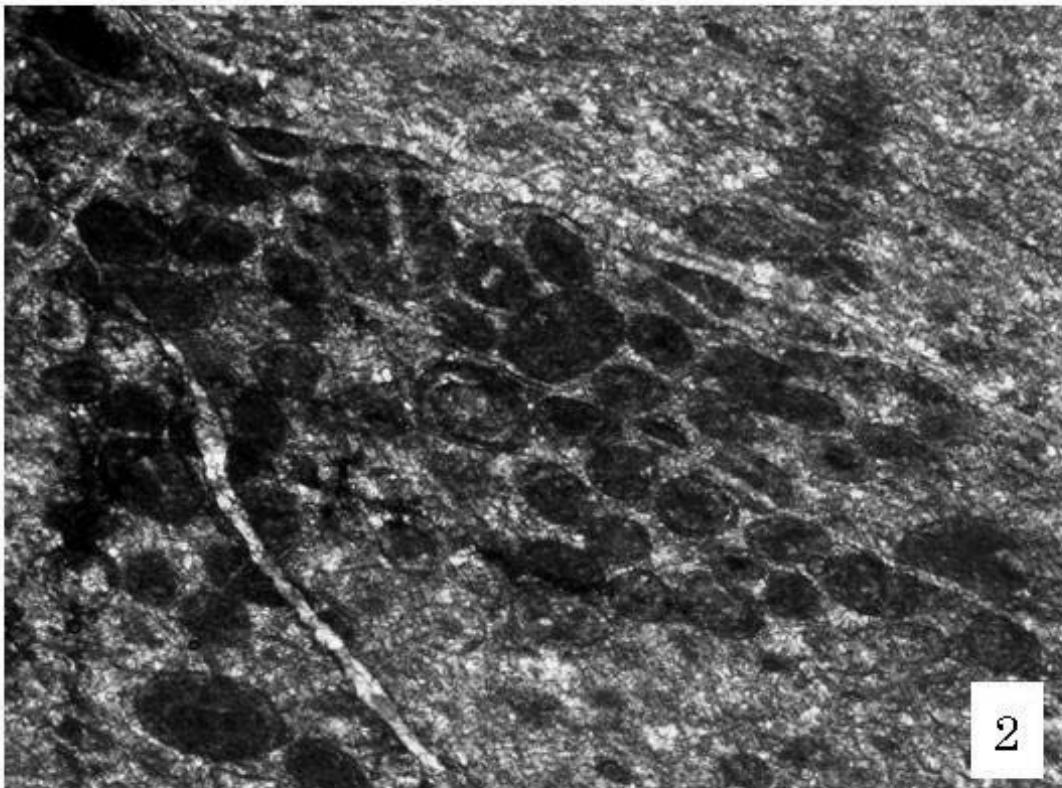


Plate 3

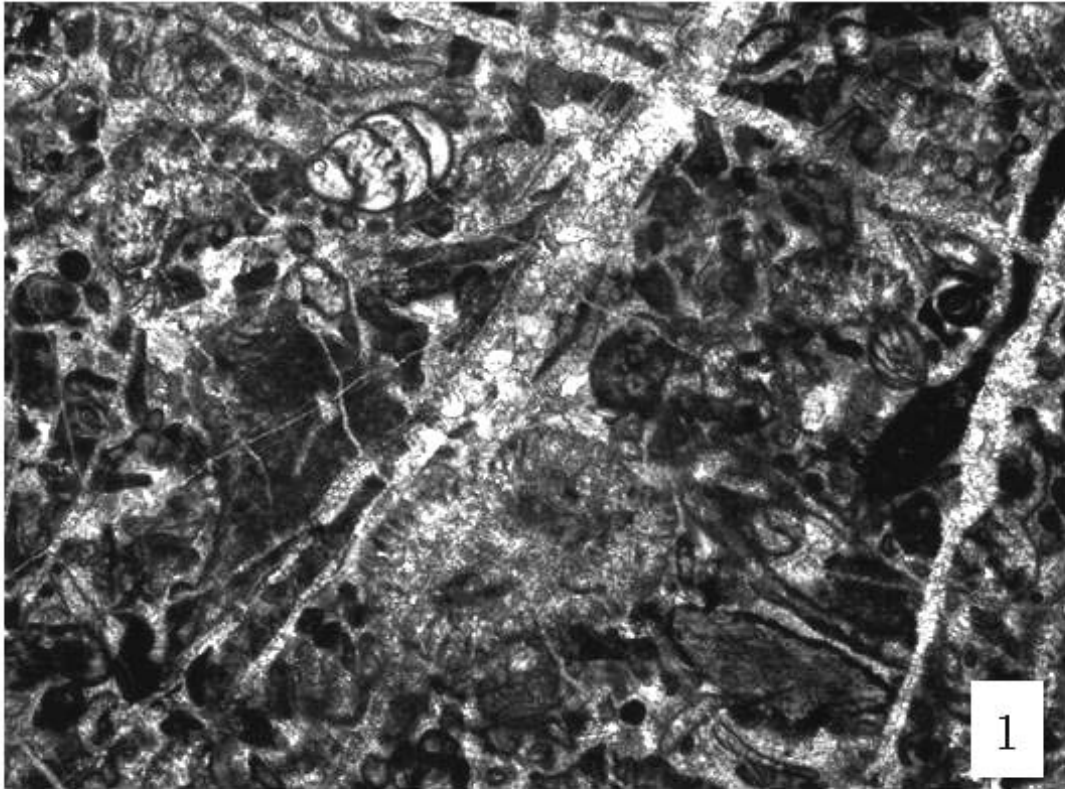
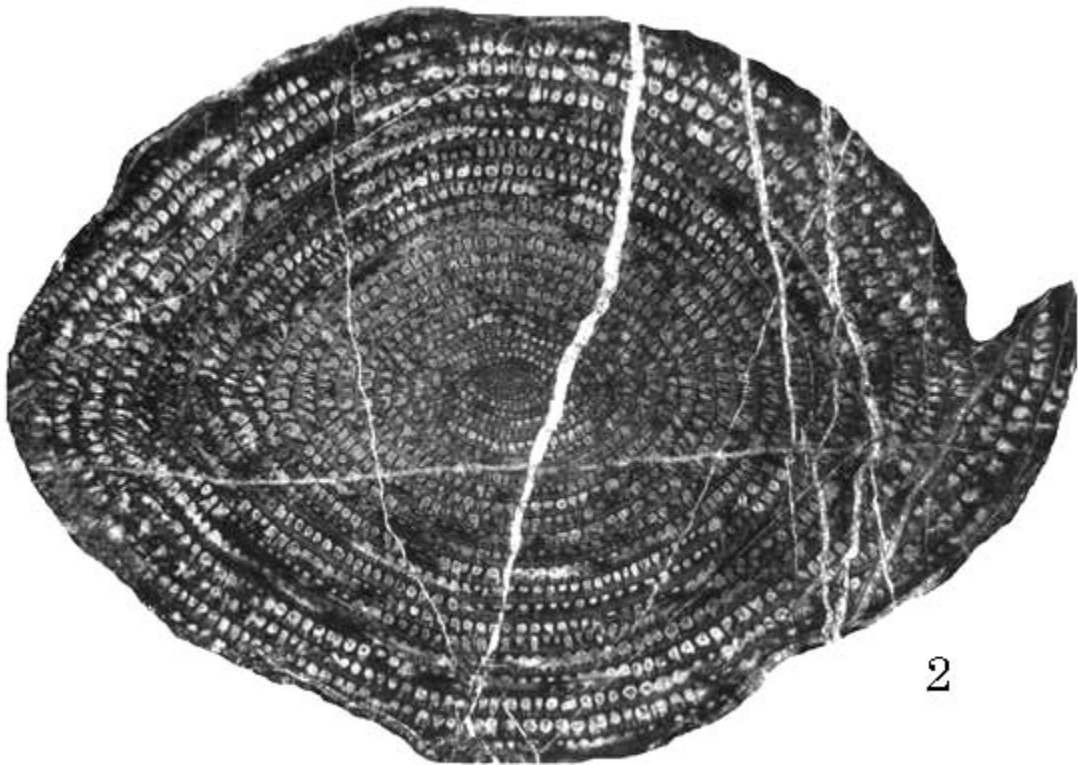


Plate 4



1



2

Plate 5

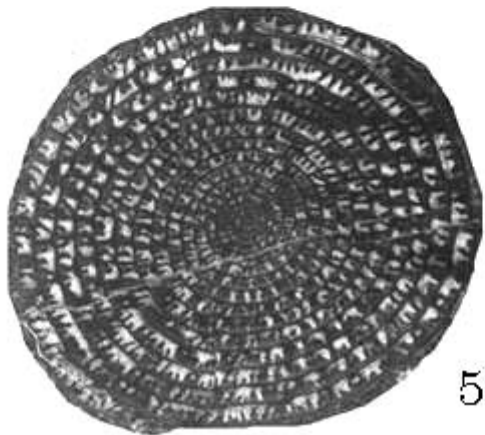
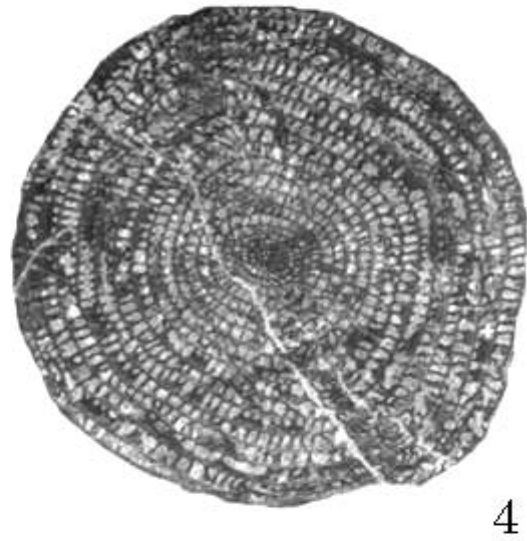
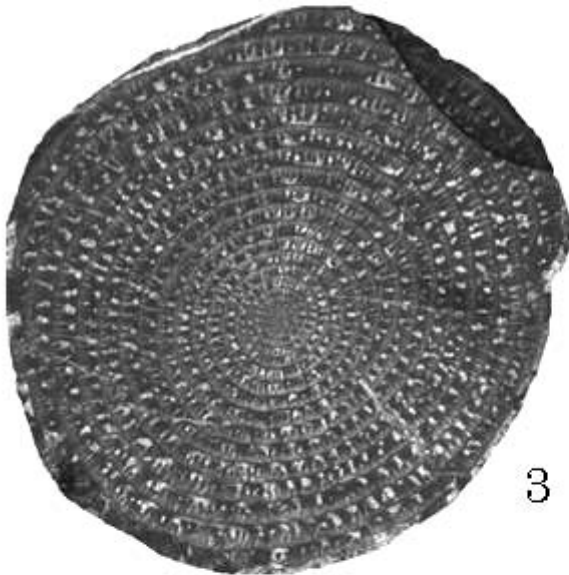
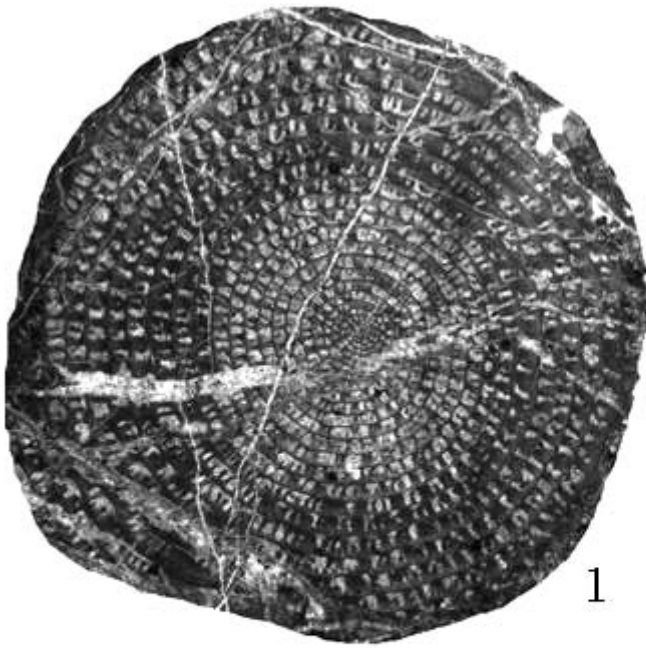
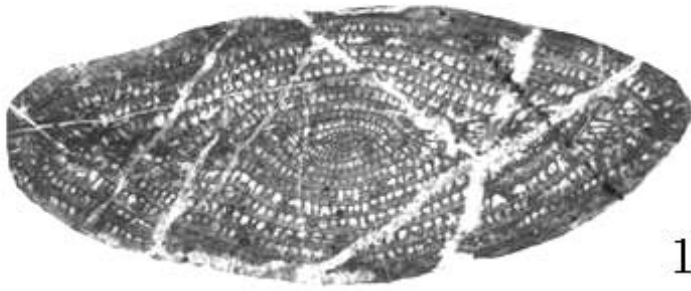
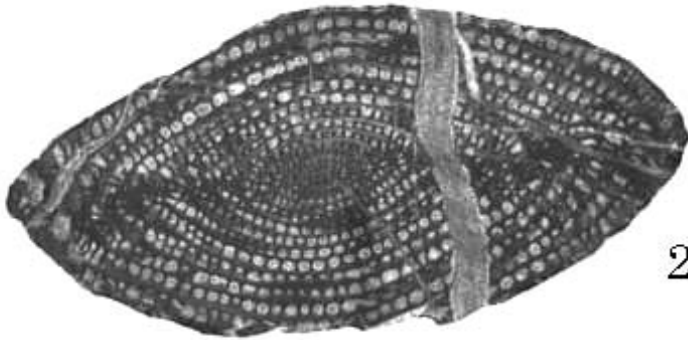


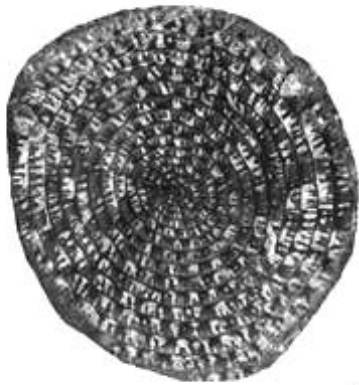
Plate 6



1



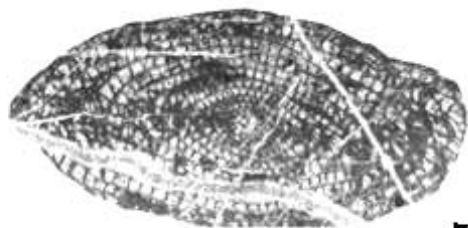
2



3

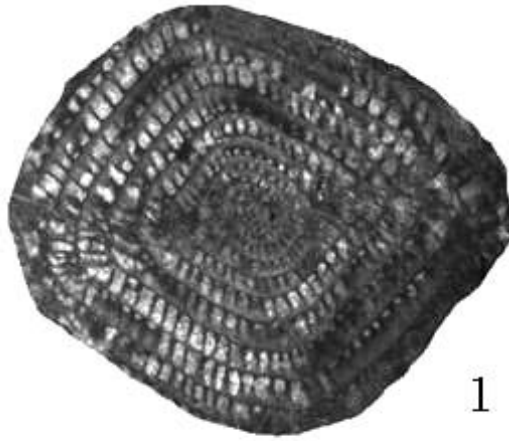


4

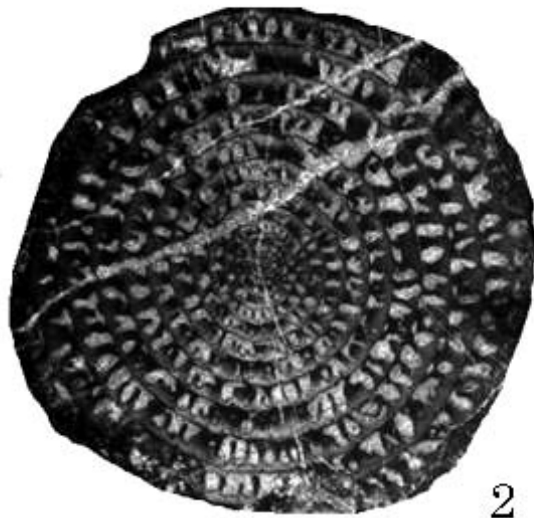


5

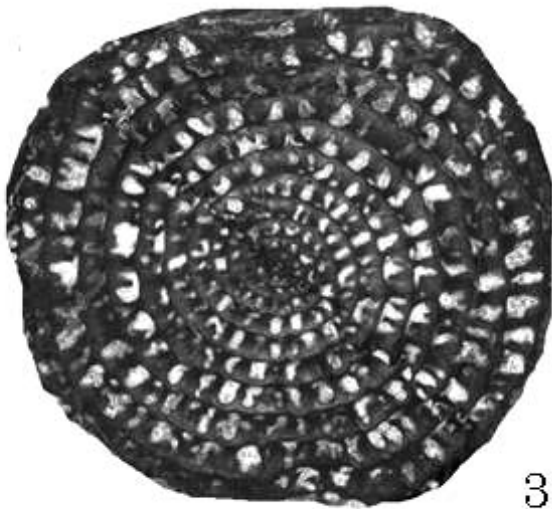
Plate 7



1



2



3

Plate 8

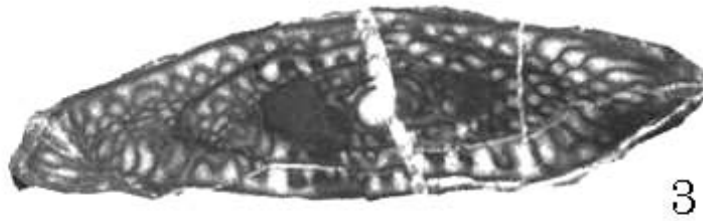
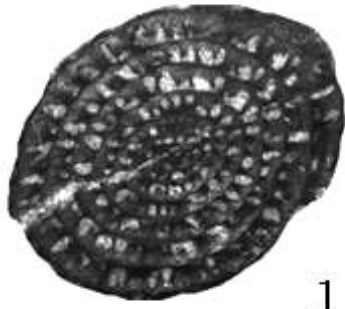
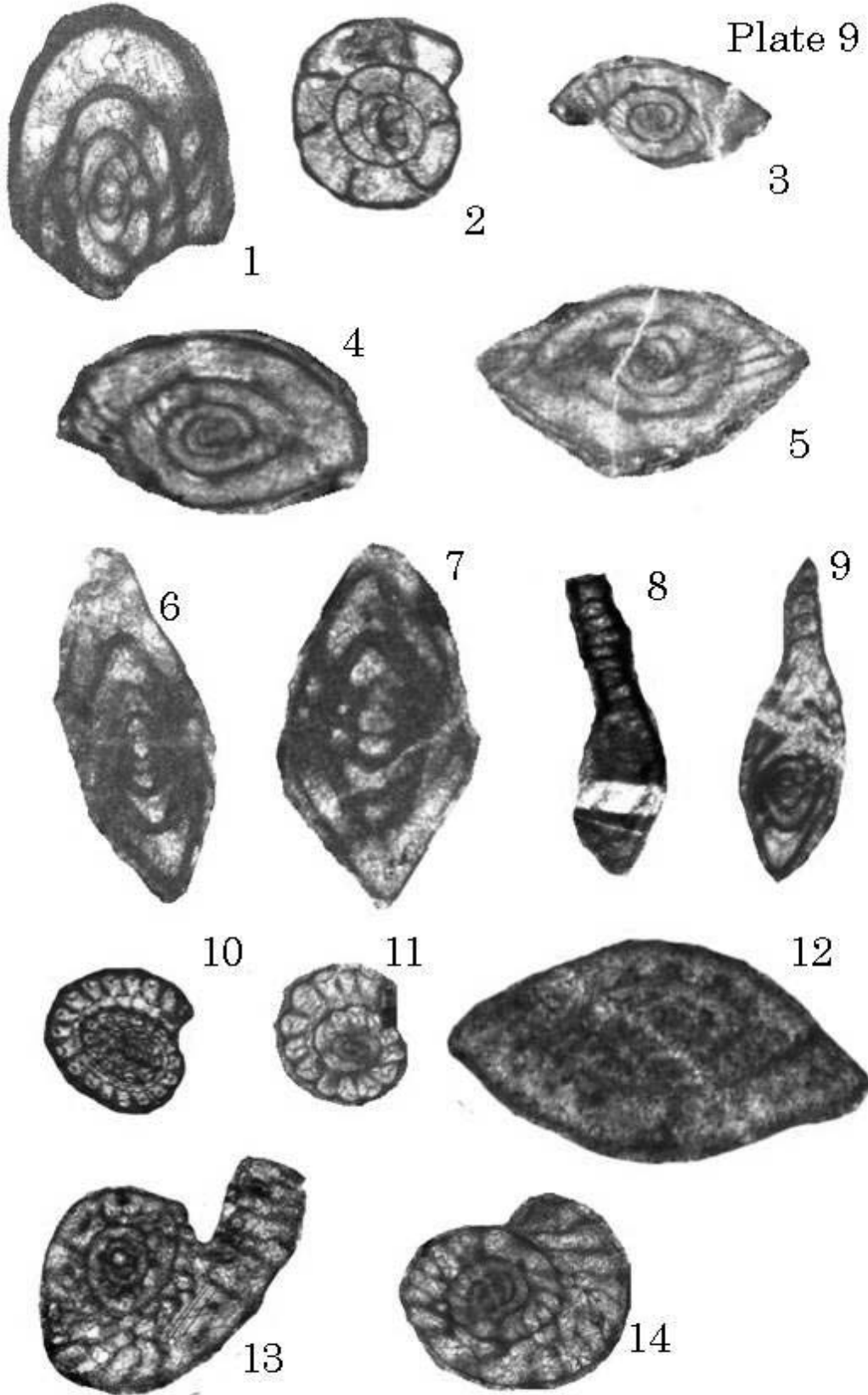


Plate 9



長良川で採集されたレッドテールキャットフィッシュとマダラロリカリア Records of Redtail catfish *Phractocephalus hemioliopterus* and Suckermouth armored catfish *Pterygoplichthys disjunctivus* in the Nagara River, Gifu Prefecture, Japan

向井貴彦¹・説田健一²

Takahiko Mukai¹, Ken-ichi Setsuda²

¹岐阜大学地域科学部；²岐阜県博物館

要 旨

岐阜県産魚類として、新たにレッドテールキャットフィッシュの情報が得られ、2例目のマダラロリカリアの標本も確認された。これらによって、岐阜県内で確実な証拠に基づいて分布が確認されたのは、在来72種、国内外来11種、国外外来20種の合計103種、証拠標本は無いが分布したと推定されるのは汽水魚11種となった

写真や標本といった確実な証拠に基づく魚類相の目録は、その地域の過去や現在の自然環境を知るうえで、非常に重要な資料となる(藤田ほか, 2008; Miyazaki *et al.*, 2014; Miyazaki *et al.*, in press). 岐阜県内では、文献と博物館登録標本などを活用し、在来72種、国内外来11種、国外外来19種の合計102種、証拠標本は無いが分布したと推定される汽水魚11種が知られている(向井ほか, 2012, 2013, 2014). しかし、水産放流や鑑賞魚の放逐等、外来魚の侵入による生物相の変化が各地で起きており(多紀, 2008; 日本魚類学会自然保護委員会, 2013), 日本国内でも東京都と神奈川県の間を流れる多摩川では観賞魚由来と考えられるさまざまな熱帯魚が捕獲されている(山崎, 2012).

岐阜県内でもヨーロッパナマズやマダラロリカリア、ポリプテルス、コリドラスといった観賞魚が野外で採集されている(向井ほか, 2013, 2014). 本州では冬季の低温によって熱帯魚の定着は難しいが、亜熱帯の沖縄県では非常に多くの外来魚が定着し、問題となっている(石川ほか, 2013). そのため、観賞魚の放逐はその地域の在来生態系に対する潜在的な脅威であり、野外での新たな外来種の侵入に対するモニタリングや、これまでの侵入状況を知るための記録の蓄積が必要である(Miyazaki *et al.*, in press).

今回、長良川漁業協同組合(岐阜市東島)において、長良川で採集された大型の外来魚の標本が展示されてい

たため(図1)、外来魚の採集記録として報告するとともに岐阜県産魚類目録の改訂を行った。



図1. 長良川漁業協同組合玄関ロビーに展示されている魚類標本。

記載

(1) ナマズ目ピメロドゥス科

(1-1) レッドテールキャットフィッシュ

Phractocephalus hemioliopterus Bloch & Schneider, 1801

①**標本**(図2) 長良川漁業協同組合所蔵(ホルマリン固定標本), 1個体, 全長42.0cm, 標準体長37.0cm, 体重1650g, 岐阜県岐阜市長良川, 2008年9月採集。

②**同定** 口は正面を向き, 口ひげは3対. 背鰭後方に発達した脂鰭がある. 背鰭条数I+6; 胸鰭条数I+6; 腹鰭条数I+5; 臀鰭条数I+6. 鱗は無く, 頭部背面

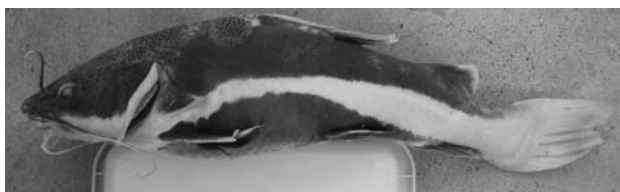


図 2. 2008 年 9 月に長良川で捕獲された
レッドテールキャットフィッシュ.

と背鰭前方が骨質板で覆われる。頭部には黒点が散在する。背面および体側下方は黒く、体側中央部は白い。腹面は白い。形態および色彩の特徴は観賞魚として日本国内で広く流通するレッドテールキャットフィッシュ *Phractocephalus hemioliopterus* とよく一致し (江島, 1999), 形態の類似した同属の現生種がないことから, 本研究ではこの標本をレッドテールキャットフィッシュ *Phractocephalus hemioliopterus* と同定した。本種の科名および種名には標準名が無いため, 科名は上野・坂本 (2005) に従い, 種名は流通名を用いた。

(2) ナマズ目ロリカリア科

(2-1) マダラロリカリア

Pterygoplichthys disjunctivus (Weber, 1991)

①**標本** (図 3) 長良川漁業協同組合所蔵 (ホルマリン固定標本), 1 個体, 全長 40.4cm, 標準体長 34.0cm, 体重 630g, 岐阜県岐阜市長良川, 2008 年 9 月採集。

②**同定** 体側部が大型の固い鱗で覆われ, 腹面に鱗はなく, 吸盤状の口が下面に開き, 口角部に左右 1 対のヒゲがあるなどの特徴で, 容易に他の日本産淡水魚と区別できる。本標本の計数形質は, 背鰭鰭条数 I+11; 胸鰭鰭条数 I+6; 腹鰭鰭条数 I+5; 臀鰭鰭条数 I+4; 側線鱗数 30 であり, 腹面まで独特のまだら模様があるといった特徴が, 沖縄島に定着したマダラロリカリア *Pterygoplichthys disjunctivus* の特徴 (竹島・吉野, 1996; 中坊, 2000) および海津市漁協が 2011 年に採集した同種の標本 (向井ほか, 2013) と, よく一致した。したがって, 本研究ではこの長良川産標本を, 岐阜県で 2 例目のマダラロリカリアと同定した。

(3) 岐阜県産魚類目録の訂正

岐阜県内で確実な証拠に基づいて分布が確認されたのは, 在来 72 種, 国内外来 11 種, 国外外来 20 種の合計

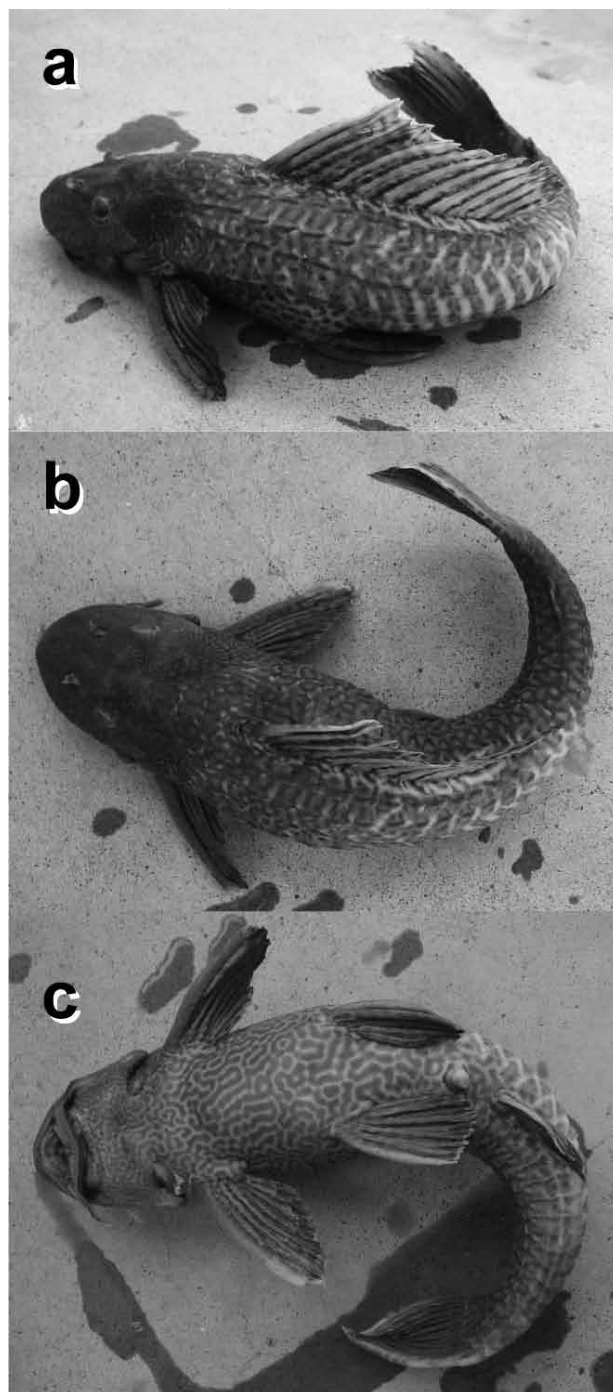


図 3. 2008 年 9 月に長良川で捕獲されたマダラロリカリア。
a: 側面. b: 背面. c: 腹面.

103 種, 証拠標本は無いが分布したと推定されるのは汽水魚 11 種となった。末尾に修正した岐阜県産魚類目録を掲載した (表 1)。

謝 辞

長良川漁業協同組合事務局の浅野彰吾さんには, 標本

の測定や撮影のためにご協力いただいた。ここに厚く感謝する。

山崎充哲, 2012, タマゾン川 多摩川でいのちを考える。旬報社, 東京, 180p.

文 献

江島勝康, 1999, 世界のナマズ増補改訂版。(株) エムピージェー, 横浜市, 223p.

藤田朝彦・西野麻知子・細谷和海, 2008, 魚類標本から見た琵琶湖内湖の原風景. 魚類学雑誌, **55**, 77-93.

石川 哲郎・高田 未来美・徳永 圭史・立原 一憲, 2013, 沖縄島に導入された外来純淡水魚類の定着状況および分布パターン. 保全生態学研究, **18**, 5-18.

Miyazaki, Y., Murase, A. and Senou, H., in press, A natural history museum as a platform for accumulating verifiable information on non-native fishes: A Japanese example. *Manag. Biol. Invasion*.

Miyazaki, Y., Murase, A., Shiina, M., Naoe, K., Nakashiro, R., Honda, J., Yamaide, J. and Senou, H., 2014, Biological monitoring by citizens using Web-based photographic databases of fishes. *Biodiv. Conserv.*, **23**, 2383-2391.

向井貴彦・古屋康則・千藤克彦・説田健一, 2012, 岐阜県産魚類目録の再検討. 岐阜県博物館調査研究報告, **33**, 29-37.

向井貴彦・国崎 亮・淀 太我・寺町 茂・千藤克彦・説田健一, 2013, 岐阜県における 2 種の外来ナマズ目魚類の野外での初記録と文献に基づく岐阜県産魚類目録の改訂. 岐阜県博物館調査研究報告, **34**, 47-54.

向井貴彦・長野浩文・長野光・宮島弘佳・千藤克彦・説田健一, 2014, 岐阜県での分布が確認されたボウズハゼおよび証拠を伴う外来魚 5 種の記録. 岐阜県博物館調査研究報告, **35**, 1-9.

中坊徹次, 2000, ロリカリア科. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 第 2 版, 282. 東海大学出版会, 東京.
日本魚類学会自然保護委員会 (編), 2013, 見えない脅威“国内外来魚”: どう守る地域の生物多様性. 東海大学出版会, 秦野市, 254p.

竹島雅彦・吉野哲夫, 1996, 沖縄島に帰化したナマズ目魚類 *Liposarcus disjunctives* の報告. 沖縄生物学会誌, **34**, 35-41.

多紀保彦 (監修), 2008, 決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京, 479p.

表 1. 2015 年版岐阜県産魚類目録

科 名	種 名	GPM-Z (番号順に3つまで)
ヤツメウナギ科	スナヤツメ北方種	16436, 16437, 16438
ヤツメウナギ科	スナヤツメ南方種	16451, 16452, 16453
ウナギ科	ニホンウナギ	228, 887, 888
コイ科	カワムツ	849, 851, 884
コイ科	ヌمامツ	12678, 13930, 17457
コイ科	オイカワ	879, 873, 1929
コイ科	ウグイ	897, 898, 1974
コイ科	アブラハヤ	1936, 7160, 7177
コイ科	タカハヤ	7160, 14063, 14072
コイ科	タモロコ	1934, 7149, 7180
コイ科	モツゴ	874, 890, 14039
コイ科	ウシモツゴ	12773, 12774, 14027
コイ科	カワヒガイ	1933, 7178, 9994
コイ科	ツチフキ	13941, 13942, 17589
コイ科	カマツカ	844, 853, 880
コイ科	ゼゼラ	13928, 13943, 13949
コイ科	カワバタモロコ	13947, 13948, 17598
コイ科	コウライモロコ	845, 861, 7244
コイ科	デメモロコ	13926, 13927, 13946
コイ科	イトモロコ	12768, 14083, 17549
コイ科	ニゴイ	7172, 14011, 14064
コイ科	コイ	77, 854, 1923
コイ科	オオキンブナ (2倍体フナ)	801, 883, 1977
コイ科	ギンブナ (3倍体フナ)	(区別不能)
コイ科	ヤリタナゴ	807, 812, 868
コイ科	アブラボテ	13952, 13953, 13954
コイ科	イタセンバラ	352, 353, 571
コイ科	イチモンジタナゴ	810, 7184, 18313
コイ科	シロヒレタビラ	14012, 18293, 18305
ドジョウ科	ドジョウ	846, 867, 891
ドジョウ科	ニシシマドジョウ	890, 1932, 7151
ドジョウ科	トウカイコガタスジシマドジョウ	14024, 17471, 18332
ドジョウ科	アジメドジョウ	871, 7159, 12668
ドジョウ科	ホトケドジョウ	12670, 18455, 19402
ギギ科	ネコギギ	860, 7152, 12663
ナマズ科	ナマズ	730, 852, 857
アカザ科	アカザ	882, 1930, 7148
アユ科	アユ	848, 858, 885
シラウオ科	シラウオ	1942

科名	種名	GPM-Z (番号順に3つまで)
サケ科	イワナ	864, 894, 7193
サケ科	アマゴ (サツキマス)	872, 7163, 12679
サケ科	ヤマメ (サクラマス)	12674, 13937, 13938
トゲウオ科	ハリヨ	515, 7345, 14045
ボラ科	ボラ	1970, 7169, 14099
メダカ科	ミナミメダカ	13961, 13962, 13963
サヨリ科	クルマサヨリ	322, 18394
フサカサゴ科	カサゴ	326
カジカ科	カジカ小卵型	9995, 10307, 12613
カジカ科	カジカ大卵型	1937, 2006, 7157
カジカ科	アユカケ (カマキリ)	865, 18292, 18301
スズキ科	スズキ	325, 847, 1976
ヒイラギ科	ヒイラギ	327, 1986
シマイサキ科	シマイサキ	323, 5049
ベラ科	キュウセン	324
ドンコ科	ドンコ	13964, 13965, 14032
カワアナゴ科	カワアナゴ	13944, 13945, 19247
ハゼ科	ボウズハゼ	写真 KPM-NR 149501A,B,C
ハゼ科	シマヨシノボリ	12666, 14015, 14003
ハゼ科	カワヨシノボリ	886, 1935, 7150
ハゼ科	オオヨシノボリ	869, 13915, 14002
ハゼ科	トウヨシノボリ	14004, 14016, 18486
ハゼ科	シマヒレヨシノボリ	14067, 19916, 19917
ハゼ科	トウカイヨシノボリ	14009, 14038, 19593
ハゼ科	ゴクラクハゼ	13904, 14014, 14023
ハゼ科	チチブ	1946, 14017
ハゼ科	ヌマチチブ	7188, 10346, 10382
ハゼ科	シモフリシマハゼ	14073
ハゼ科	ウキゴリ	13966, 13967, 13968
ハゼ科	スミウキゴリ	12610, 17579, 18298
ハゼ科	ビリンゴ	14025, 16402
ハゼ科	マハゼ	321, 7170, 14018
ハゼ科	アシシロハゼ	14020, 16403, 18302
国外外来種		
ポリプテルス科	ポリプテルス・エンドリケリー	写真 KPM-NR 149503A
コイ科	タイリクバラタナゴ	811, 878, 7182
コイ科	ソウギョ	18395
コイ科	ハクレン	写真 KPM-NR 149505A
ドジョウ科	カラドジョウ	16416, 16417, 16418
ナマズ科	ヨーロッパナマズ	17499
イクタルス科	チャンネルキャットフィッシュ	写真のみ

科 名	種 名	GPM-Z (番号順に3つまで)
カッリクテュス科	コリドラス・アエネウス	写真 KPM-NR 149504A
ピメロドゥス科	レッドテールキャットフィッシュ	長良川漁協所蔵 (本報
ロリカリア科	マタフロリカリア	17472
サケ科	ニジマス	881, 13929, 17501
サケ科	ブラウントラウト	13996, 19639, 19640
タウナギ科	タウナギ	14058
カダヤシ科	カダヤシ	14022, 14028, 14048
カダヤシ科	グッピー	写真のみ
サンフィッシュ科	オオクチバス	982, 7196, 13915
サンフィッシュ科	コクチバス	12770, 13029, 18228
サンフィッシュ科	ブルーギル	504, 7207, 19528
カワスズメ科	ナイルティラピア	13958, 13959, 13960
タイワンドジョウ科	カムルチー	932, 1982, 14036
国内外来種		
コイ科	ハス	328, 1015, 1984
コイ科	ワタカ	1979, 18404
コイ科	ゲンゴロウブナ	800, 850, 893
コイ科	ビワヒガイ	10325, 19220
コイ科	ホンモロコ	DNA データのみ
コイ科	スゴモロコ	14079, 14080, 14091
コイ科	カネヒラ	809, 16405, 18399
ドジョウ科	オオガタスジシマドジョウ	19478
ギギ科	ギギ	7195, 7245, 14088
キュウリウオ科	ワカサギ	14041
ケツギョ科	オヤニラミ	14042, 17564
文献的には県内の分布が推定されるが、証拠標本を伴わない種		
ニシン科	サッパ	なし
ニシン科	コノシロ	なし
ボラ科	メナダ	なし
ボラ科	セスジボラ	なし
コチ科	マゴチ	なし
タイ科	クロダイ	なし
ハゼ科	ヒメハゼ	なし
ハゼ科	アベハゼ	なし
ハゼ科	ウロハゼ	なし
カレイ科	イシガレイ	なし
フグ科	クサフグ	なし

復活する祭礼と民俗芸能 東日本大震災と岐阜県の事例から

The Restoration of Festivals and Folk Performances

Case Study of the Great East Japan Earthquake Disaster and Gifu

南本有紀¹

Yuki Minamimoto¹

¹岐阜県博物館

要 旨

東日本大震災の復興における民俗芸能の復活や無形文化遺産の保護が大きなトピックになっている。被災地以外でも、過疎化の進展で休止廃絶に追い込まれる民俗芸能が少なくない中、数十年ぶりに復活する祭礼が、新聞紙上を時折にぎわす。とくに、岐阜県郡上市の風流踊りは数年から数十年毎の挙行を繰り返してきた。また、戦後史を俯瞰すれば、民俗芸能は、文化財保護法の整備に伴って保存会活動が喚起され、あるいは、地方分権の地流にのって、まちおこし・むらおこしの一環として度重なる復興をなしてきた。

本稿では、復活する祭礼／民俗芸能について県内の事例を紹介した。併せて、数年から数十年毎の上演（復活）を繰り返してきた郡上市の民俗芸能について事例を図表に整理した。

はじめに

311 東日本大震災から3年目を迎えた2014年は、未だ収束先の見えない原発事故に代表されるさまざまな問題を抱えながらも、漸く復興の兆しも見えてきた年となった。文化庁や東京文化財研究所等による文化財レスキューも、被災文化財の、初期の緊急避難からより恒常的な保存管理へと段階を進めており、この一年は各種報告書の刊行が相次いでいる¹。また、これらからも窺えるように、現在、活動・調査の対象は、当初の有形文化財中心から、無形民俗文化財、なかでも祭礼や民俗芸能²の復興・復活へと比重が移っている。あるいは、日常生活の復興がなかなか進まない中、祭礼の復活は明るい話題として取り上げられることが多かった。

研究者と震災復興の関係でいうと、こうした被災無形民俗文化財への学術サイドの支援は、先の阪神・淡路大震災のときと比べて、東日本大震災復興活動に際立った印象を受ける³。未曾有の大災害を前に、誰しものが声を失い、その超克に「絆」の重みを実感したものだが、「象徴的復興」⁴である祭礼の復活はその化現ともいえるか。いずれにせよ、興味を引かれるトピック⁵ではある。

これに連想されたことがある。筆者は、以前、大垣祭⁶（岐阜県大垣市）について調査の機会に恵まれ、概略をま

とめた⁷が、その際、戦災等で焼失した山車（大垣では「ヤマ」⁸という）が何度も再建されるさまに非常な関心を覚えた。祭礼の挙行はただの娯楽ではなく、信仰が伴うのはもちろんとして、物心ともに多大な負担を強いるものだ。かてて加えて、重い経済的負担をものともせず、新たに壮麗巨大な山車をつくりだす人々の実際的な行動力に、素直に感心させられた。また、近世・近代の町衆に替わって、祭礼を取り仕切る市商工観光課⁹の水際立った運営ぶりも印象深かった。

さらに、2014年には岐阜県郡上市に散在する風流踊り系の民俗芸能（掛踊り、大神楽）を見学することができた。というのも、当該年は、不定期に挙行される複数の祭礼の開催年にあたり、実に、郡上では民俗芸能の当たり年であったためである。これらの祭礼は、長いもので21年ぶりに開催されたというが、いずれも、長い中断を感じさせない堂々たるパフォーマンスを見せた。

こうして復活を遂げる祭礼がある一方、近年、休止・廃絶する民俗芸能が目立つようになったことは、筆者のみならず、広く実感されるだろう。少子・高齢化が進展し、大規模合併で過疎にあえぐ地方は痛めつけられていて¹⁰、祭礼の挙行は、確実に以前よりも困難になっている。このことには、民俗学も無関心ではない。文化財保護の現

場で奮闘する市町村職員（彼ら自身も合併によって少数精鋭主義のハードワークを強いられている）は、とくに危機感を持っている¹¹。実際、民俗芸能の伝承地は押しなべて限界集落かその予備軍である。率直に言って、一歩引いて俯瞰するなら、やはり、民俗芸能は衰退への道を免れ得ないだろうと思う。しかし、それでも、やはり、祭礼は現実に復活してきたのである。本稿では、そのようすを、岐阜県における具体例を挙げて示し、現代社会における民俗芸能が置かれた難しい環境について問題の整理に資したいと思う。

1 東日本大震災と祭礼

最初に東日本大震災が与えた祭礼挙行情況への影響を見ていこう。震災の与えたインパクトは、ショッキングのひとつことであって、人的物的被害の余りの甚大さに、日本中が自粛ムードに包まれた。当該年の祭礼も例に漏れず、各地で、開催を取りやめたところが少なくなかった。例えば、岐阜県では表1のようになった。

表1 東日本大震災による祭礼自粛状況

祭礼	場所	開催	自粛	中止	実施
美濃まつり	美濃		○	花みこし、山車巡行、練り物美濃流しに輪加 ※中止は太平洋戦争以来	神事
郡上八幡春まつり	郡上		○	手作りみこしイベント、神楽競演	各神社の神楽奉納
古川祭	飛騨		○	起し太鼓、屋台曳きそろえ ※1946年以来、65年ぶり中止	神事
飛騨神岡祭	飛騨		○	前夜祭、神輿行列	神事、浦安の舞
きねふりまつり (安弘見神社例祭)	中津川		○	杵振り踊り、神馬・花馬奉納、みこし奉納 ※中止前例なし	神事
ひんこまつり (大矢田神社例大祭)	美濃		○		神事
春の高山祭 (日枝神社例大祭)	高山	○			
飛騨生きびな祭	高山	○			
桜山八幡宮式年大祭	高山	○			※30年に一度「世直しの大祭」とも

※下記記事より作成
岐阜朝刊 20110323 中日朝刊 20110323 岐阜朝刊 20110324 中日朝刊 20110324
岐阜朝刊 20110325 岐阜朝刊 20110326 岐阜朝刊 20110327 神岡ニュース 20110428

有名な祭礼では、高山祭(高山市)が実施したのに対し、起し太鼓で知られる古川祭(飛騨市)が中止を決めた。両者はともに県内外に広く知られている祭礼で、地元では、ある種、ライバル関係にある。いずれも、飛騨人が大事にする祭り、毎年、楽しみにされているだけに、対応が分かれたことは話題を呼んだ。同じく実施された桜山八幡宮の式年大祭(つぎの表2にある「大まつり」とも)とは、飛騨地域の有力神社で、20～50年毎に、飛騨一円の神々を招いて持ち回りで行われる祭礼のことで、大きな災害があった年に行われることが多かったため、「世直しの大祭」と呼ばれている。そのこともあって、復興祈

願を目的に掲げて敢えて挙行されたものである。

表1の祭礼は、いずれも、震災直後の4～5月が祭礼日であり、祝祭ムードが漂うことは許されなかったことから中止の判断に至る主催者が多かったとみられる。それに対して、少しずつ復興へと前を向き始めた夏ごろには、表2に示すように、被災地でも、人々の心のよりどころとして祭礼を復興挙行する動きが出始めた。また、飛騨の大祭のように復興支援を挙行理由とする祭礼や、被災地での祭礼挙行そのものを支援するボランティア活動も見られるようになる。こうして、祭礼は震災復興の大きな手段となったといえる。その一方で、神社庁等の支援で新調された神輿が、担ぐ人もいないまま祭礼で出番がない状況もある¹²。

表2 震災後実施された祭礼

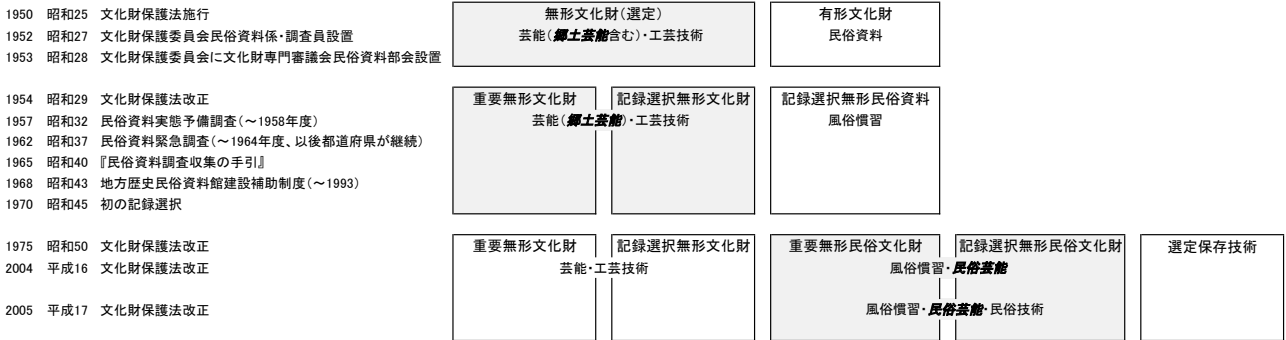
場所	行事	記事掲載	内容	掲載紙
岩手県 陸前高田市高田	うごく七夕	20110517 20110802	流失山車が発見され開催契機に「伝統絶やさない」「供養するのが祭りの意味」 全国から支援	岐阜夕刊
福島県浜通り	相馬野馬追	20110723	鎮魂・復興をテーマに規模縮小して開催	岐阜朝刊
宮城県 石巻市桃浦	獅子舞	20120528	流失後漂着した獅子頭による獅子舞復興を計画 ※2012年4月 神輿渡御・神事を実施	中日夕刊
岐阜県高山市	飛騨の大まつり	20110504	桜山八幡宮式年大祭 天災・大火・戦争後に開催、「世直し大祭」と異名	中日朝刊
愛知県 半田市亀崎	潮干祭	20110504	「震災復興」幟は1943年以来68年ぶり 伊勢湾台風(1959)復興地区として励まそうと計画	中日朝刊
京都府京都市	祇園祭	20110616	仙台七夕まつりで特別披露 「京都らしい支援」を	中日朝刊
愛知県一宮市・ 安城市	日本三大七夕まつり	20110707	岩手県大船渡市「盛町灯ろう七夕まつり」 岩手県遠野市「遠野七夕まつり」 岩手県陸前高田市「うごく七夕まつり」を支援 七夕飾りボランティア等を現地へ	中日夕刊

とまれ、被災地における祭礼復活の動きは、今後も進むことが予想される。それはさまざまな要因によるのだろうが、人々の暮らしと祭礼双方にとってプラスとなり、かつ、社会全体の復興に役する方途が採られることを期待している。

2 民俗芸能の位置づけ

ところで、民俗芸能は文化財保護法では「無形民俗文化財」に分類されている。無形とは時空を超え得ない芸能表現¹³を指しており、民俗芸能は、厳密な意味では「保存」できない。民俗芸能に対する文化財保護法の考え方は、かなり、変遷・錯綜してきた経緯¹⁴があるのだが、ここでは、簡単に図にまとめた。

図1 文化財保護法における民俗芸能



※出典
齋藤裕嗣、2008、無形民俗文化財(民俗芸能)の公開 ブロック別民俗芸能大会を中心に(月刊文化財 540号、2008年9月)

よく指摘される¹⁵ように、当初、民俗芸能は無形文化財に分類され、評価体系や基準の異なる古典芸能(能楽・歌舞伎・文楽など)と同列に並べられる一方、有形文化財における民俗資料と分断されていた。そのため、「そのもの自体の芸術的な価値が高いというものでなく、わが国民の生活の推移の理解のため欠くことのできないものであり、重要文化財とは価値の観点を異にする¹⁶」と考えられた。「無形文化財(※筆者注：古典芸能や工芸技術を想定)には、重要無形文化財に指定(※下線筆者、以下同)してそのものをそのままの形で保存する措置を講ずる必要のあるものも多いのであるが、無形の民俗資料については、自然的に発生し、消滅して行く民俗資料の性質に反し、意味のないことであり、「そのままの形で残存させようとしてもそれは不可能である」ため、「記録保存の措置をもってたり」と判断された。「無形の民俗資料のうち、特に資料的価値の高いもの等についてはこれを選択して」、その記録を作成・保存・公開し、あるいは公開(上演)することで保護にあたらうとしたのである。民俗芸能へのほのかな蔑視を感じさせる点で若干の抵抗を感じさせるが、民俗芸能の本質を理解したうえで保護施策を講じようという現実的な考え方である。

しかし、これにそった施策が実行されることはなく、法改正により、現行の位置づけに定まることになる。即ち、無形有形合わせた「民俗文化財」というカテゴリーを設け、無形文化財と切り離れた「無形民俗文化財」の指定および記録選択制度である。民俗芸能は「指定」され、原型保存される対象となったのだ。指定されるためには受け皿としての保存会¹⁷が求められ、氏子等の緩やかな地縁集団による「村のまつり」が、行政主導の保存会による行事へと整理されていくことになった。

こうした流れを踏まえて、以下に、岐阜県の事例を紹介する。

3 中絶し復活する民俗芸能

表3は祭礼の復活を新聞記事から拾い、一覧にしたものである。祭礼の復活は、1940年代・1件、1950年代・11件、1960年代・8件、1970年代・30件、1980年代・45件、1990年代・43件、2000年代・40件、2010年代・37件の計215件を数えた。うち、前述した飛騨地域の大祭(周期的に実施される)が15件、修理復元が7件、残りが民俗芸能(祭礼)の復活を伝える記事である。さらに、中断間隔がわかるものを拾うと、10年未満の復活が21件、10数年ぶり・16件、20数年ぶり・22件、30数年ぶり・34件、40数年ぶり・15件、50数年ぶり・11件、60数年ぶり・4件、100年ぶり・6件となり、90年・120年・130年・140年・180年・250年・300年・400年・900年ぶりが各1件あった。

表3 新聞記事(祭礼復活)

場所	タイトル	新聞	年月日
養老	養老の滝祭復活	朝日朝刊	19470620
高山	高山祭の屋台10年ぶりに復活	朝日朝刊	19500406
美濃	美濃町の川祭り13年ぶりに復活	朝日朝刊	19500721
岐阜	岐阜市の川祭り復活	朝日朝刊	19500726
大垣	10余年ぶりに夜宮復活 大垣祭り	岐阜朝刊	19530511
岐阜	八剣村の雨乞い踊り33年ぶりに復活	岐阜朝刊	19550817
大垣	23年ぶり復活 豊年祭 大垣市十六町	岐阜朝刊	19551004
関	三十余年ぶりに復活 関市 吉田雨乞いおどり	岐阜朝刊	19551017
各務原	20年ぶり奇祭復活 宇ヶ瀬池	岐阜朝刊	19561207
高山	27年ぶりの盛儀幕開く 飛騨総社式年大祭 高山市	岐阜朝刊	19570502
岐阜	岐阜まつり モチまき船を復活 葛懸神社のみ	岐阜朝刊	19571110
谷汲	変わった雨乞行事 揖斐郡谷汲村名札の風習	岐阜夕刊	19580701
宮	飛騨水無神社式年大祭行事 58年ぶりに	毎日朝刊	19600502
揖斐川	カッパ祭りを復活 揖斐川町	岐阜夕刊	19610531
萩原	38年ぶりの大祭 萩原久津八幡宮	岐阜朝刊	19630323
岐阜	250年ぶりの行事 長良天神の御木びき祭	朝日朝刊	19630328
坂内	権現祭が復活 揖斐郡坂内村	岐阜朝刊	19640220
美濃加茂	郷土のうた 伊深音頭	毎日朝刊	19640608
高山	県指定文化財 高山市 祭り屋台「大國台」41年ぶり改修	岐阜朝刊	19650409
東濃	20年ぶり裏木曾でご神木祭 盛大な催し計画	中日朝刊	19650521
笠松	“谷汲しのご雨乞い踊り”	岐阜朝刊	19721030
岐阜	伝統文化保存に立ち上がる 県下各地	岐阜朝刊	19731104
笠松	魂生大明神に奉納 円城寺の「雨乞い踊り」	岐阜朝刊	19731104
笠松	記録映画で保存 絶やすまい雨乞い踊り 笠松町	岐阜朝刊	19731222
関	倉知祭り復活を市民の要望強まる	岐阜朝刊	19750327
富加	34年ぶり復活 富加町田の神祭	岐阜朝刊	19750403
神岡	神岡祭り 時代行列に徒士隊復活	岐阜朝刊	19750424
根尾	根尾の門脇雨乞い踊り	岐阜朝刊	19750720
各務原	10年ぶりに秋祭り 那加村上神社	岐阜朝刊	19750906
中津川	秋祭りに雅楽復活 中津川市8区の有志	岐阜朝刊	19751002
岐阜	岐阜市黒野の住吉踊り24年ぶり復活	岐阜朝刊	19751011

場所	タイトル	新聞	年月日
岐阜	復活する本みこし 岐阜祭り	岐阜朝刊	19760402
神岡	20年ぶり神岡大祭 戦後初からくり人形展も	毎日朝刊	19760424
坂祝	20年ぶりに響く笛、太鼓 坂祝町で岩合観音	朝日朝刊	19760716
金山	タムに沈んだ故郷の神が復活 金山卯野原の例祭	朝日朝刊	19770328
大野	祭りばやし30年ぶりに復活へ 大野町来振神社	中日朝刊	19770329
中津川	花馬28年ぶり復活 中津川市大村八幡神社秋祭り	岐阜朝刊	19770925
岐阜	花電車24年ぶりに登場 信長祭り	中日朝刊	19770929
兼山	8年ぶり山車登場 兼山町祭り、人形も新調	岐阜朝刊	19771016
根尾	10年ぶりに復活 根尾村の「樽見十一日祭」 17日盛大に 村文化財指定も	岐阜朝刊	19780128
根尾	ふるさとの祭り復活 吉凶占う「樽見十一日祭」 10年ぶりに村人大喜び	岐阜朝刊	19780218
根尾	根尾村の樽見十一日祭10年ぶり復活	岐阜朝刊	19780128
儀尾	武儀町下之俣西洞の春祭りに50年ぶりにみこし登場	岐阜朝刊	19780323
古川	古川祭りで36年ぶりにからくり人形	毎日朝刊	19780325
御嵩	御嵩町願興寺2年ぶりに祭り復活	岐阜朝刊	19780331
可児	可児町10数年ぶりに大飯祭り再現	岐阜朝刊	19780725
養老	養老町白山神社の祭り太鼓復活	毎日朝刊	19780929
大垣	30年ぶりにしし舞う 萩神社祭り 大垣市	岐阜朝刊	19781017
岩村	岩村天満宮の学神祭30年ぶり復活	岐阜朝刊	19790222
萩原	萩原まつり復活 夏祭りに披露	岐阜朝刊	19790804
金山	金山町の夏祭りて民謡踊り復活	岐阜朝刊	19790817
多治見	多治見市 大日如来様復活で初例祭	中日朝刊	19800309
高山	高山市 桜山八幡神社 56年5月に30年ぶり式年大祭	中日朝刊	19800322
大和	9年ぶりに大神楽奉納 大和村多賀神社の祭り	岐阜朝刊	19800909
古川	28年ぶりに子供みこし 古川町天満宮の秋祭	中日朝刊	19800916
八幡	17年ぶり大神楽が復活 八幡町の神明神社祭	岐阜朝刊	19801001
上宝	38年ぶりに湯花祭り 平湯 上宝村	中日朝刊	19801004
高山	高山市 桜山八幡神社の 56年5月に30年ぶり式年大祭	中日朝刊	19810503
養老	養老神社 奈良時代ゆかりの春水取り祭り復活しよう	中日朝刊	19820205
上石津	上石津町の祭りばやし復活へ	中日朝刊	19820221
高山	高山祭大天国 58年ぶり改修	岐阜朝刊	19820330
各務原	各務原市手力神社春祭りでけんかみこし 18年ぶり復活	中日朝刊	19820411
柳津	柳津町毘沙門天神社秋祭り 26年ぶりのみこし	中日朝刊	19821012
高山	飛騨天満宮2年後に30年ぶりの大祭	岐阜朝刊	19830409
大垣	大垣祭の駅前通り<ヤマ>巡幸を復活	岐阜朝刊	19830424
神岡	神岡 40年ぶりに神明神社の山車祭り	中日朝刊	19831112
岩村	岩村町 20年ぶりに産業祭を復活	岐阜朝刊	19831115
高山	高山祭 100年ぶり石橋台からくり人形	中日夕刊	19840305
古川	古川祭りの子供歌舞伎 110年ぶり	中日朝刊	19840320
揖斐川	揖斐川町房島4区 30年ぶり村祭り	岐阜朝刊	19840417
美濃	美濃市 段町 20数年ぶりに山にの講祭	岐阜朝刊	19841205
濃	関市吉田雨乞い踊り 25年ぶり復活	岐阜朝刊	19841209
高山	飛騨天満宮式年大祭 30年ぶり	中日朝刊	19850411
大和	大和村 白山神社で13年ぶり秋の大祭	中日朝刊	19850904
池田	池田町 明和義民の供養祭土川原火37年ぶり	岐阜朝刊	19850917
白鳥	白鳥町 為真の白山神社 5年ぶりの祭り	中日朝刊	19851010
岐阜	岐阜市 黒野古町 住吉踊り復興の気運	岐阜朝刊	19860325
御嵩	御嵩町 蟹葉師願興寺の祭り3年ぶりに	岐阜朝刊	19860330
北方	北方町 住吉踊り復興に力	岐阜朝刊	19860405
大和	大和町 13年ぶり大神楽奉納 白山熊野神社秋祭り	中日朝刊	19860829
中津川	中津川市 中村の八幡神社 秋の例祭9年ぶり	朝日朝刊	19861007
八幡	芸能祭りに八幡小唄復活へ 友美会	中日朝刊	19861015
岐阜	岐阜市白山神社例祭 町政30周年記念 歌舞伎芝居も復活	岐阜朝刊	19861024
高山	文化財 高山祭屋台青龍台社丹彫刻(高山市)100年ぶり復活	毎日朝刊	19870331
古川	古川町 45年ぶりに氏神祭復活 黒内で	岐阜朝刊	19870522
萩原	萩原町山之口 32年ぶり火祭り	中日朝刊	19871110
本巢	本巢町法林寺で半世紀ぶりに山のご祭り復活	中日朝刊	19880310
本巢	本巢町 旧徳山村里々新神社祭り復活	朝日朝刊	19880410
土岐	4年ぶり素人歌舞伎 土岐市福岡町の常盤神社	岐阜朝刊	19880417
高山	高山市飛騨総社式年大祭 31年ぶり	毎日朝刊	19880430
北方	北方町 町制100周年で復活の蓋祭り 主役の山車完成	岐阜朝刊	19890307
北方	北方町大井神社約30年ぶりに五穀祭の人形復活	中日朝刊	19890309
岩村	岩村町 岩村城の弁財天社を復活 還御祭	毎日朝刊	19890614
北方	北方町で番祭り 30数年ぶり復活	中日朝刊	19900312
関	関市 古式通りの行列 40年ぶりに復活の倉知	中日朝刊	19900415
御嵩	御嵩の「蟹葉師祭り」彩る 山車100年ぶり復活へ	中日朝刊	19900621
白川村	合祀先の平瀬で白川村馬狩神社のどぶろく祭復活	岐阜朝刊	19900926
高山	高山市 900年ぶり祭奉納 桜ヶ岡八幡宮の氏子が平塚へ	毎日朝刊	19901115
可児	可児市の八幡神社 祭り神楽40年ぶりに造り替え	岐阜朝刊	19920227
可児	可児市の八幡神社の祭り神楽45年ぶり新調	読売朝刊	19920403
大垣	「神楽<ヤマ>」の高欄部分43年ぶり修復14日	読売朝刊	19920508
中津川	中津川でおいでん祭の大ちょうちん40年ぶり	朝日朝刊	19920708
高笠原	笠原町の神明神社例祭で33年ぶり馬登場	中日朝刊	19921025
笠原	笠原祭り4年ぶりに大名行列	中日朝刊	19930410
北方	北方祭り50年ぶり復活	中日朝刊	19930504
高山	高山日枝神社参道に高札 38年ぶりの大祭告	毎日朝刊	19930617
板取	板取踊り復活、15日夏祭りに	中日朝刊	19930802
瑞浪	瑞浪のちょうちん祭り38年ぶり復活	朝日朝刊	19930903
国府	国府町 阿多由大神社例祭9年ぶりに祭り行列	岐阜朝刊	19940423
真正	50年ぶりに雨乞い神事 真正町の物部神社 氏子たち天に祈る	読売朝刊	19940802
洞戸	50年ぶり雨乞い神事 洞戸・高賀神社 恵み求め踊り披露	中日朝刊	19940813
各務原	雨乞い踊り披露 各務原の保存会	毎日朝刊	19950817
上之保	神への祈り通じた? 上之保村 50年ぶり雨乞いの儀式	岐阜朝刊	19950901

場所	タイトル	新聞	年月日
美並	「舟送り」が60年ぶり復活 美並村の星宮神社	岐阜朝刊	19951127
高山	高山祭 日枝神社のみこし180年ぶりに化粧直	中日朝刊	19950408
福岡	福岡町 南宮神社で25年ぶりに生きた馬で花馬祭り	読売朝刊	19951002
八百津	八百津町の神社例祭 神馬と花馬20年ぶりに	朝日朝刊	19951130
岐阜	福井雅一さん 岐阜祭りて町衆が担ぐみこし ひと模様	朝日朝刊	19960125
穂積	きょう果南町・美江寺観音で「お籠祭り」 35年ぶり 山車巡行	岐阜朝刊	19960303
八幡	八幡町の河鹿神社 秋の例祭で賀喜踊りを3年	中日朝刊	19960908
高鷲	高鷲村 白山神社 秋祭りで3年ぶりに大神楽	中日朝刊	19960919
武芸川	武芸川町・花馬祭、武芸八幡神楽保存会が伝統の街復活	中日朝刊	19970407
久々野	久々野町の「納涼夏祭り」で祭り屋台が11年ぶりにカムバック	朝日朝刊	19970814
久々野	久々野町 納涼夏祭り 11年ぶりに復活	岐阜朝刊	19970817
福岡	福岡町の庚申堂、6年ぶりに「御開扉祭事」	岐阜朝刊	19980312
萩原	萩原町の奇祭「山の講火祭り」30年ぶりに再開	中日朝刊	19980319
大垣	大垣市の金生山神社の春の例祭「赤坂祭り」	岐阜朝刊	19980414
久瀬	久瀬村の中瀬古地区の山の神の祭り「山の講」開かれる 獅子神楽、40年ぶり後継者	岐阜朝刊	19990216
宮川	宮川村で宮川獅子祭り 4神社伝承の獅子舞が26年ぶりに会し、競演	中日朝刊	19990608
神戸	神戸町横井の地蔵祭で、美濃の伝統文芸「狂俳奉燈」が48年ぶりに復活	岐阜朝刊	19990722
岐阜	岐阜市の精華中学校体育祭で、担ぎ手のいな 北野神社と 数田神社の2台復活	毎日朝刊	19990923
高山	飛騨高山の秋の高山祭「布袋台」50年ぶり生演奏	朝日朝刊	19990928
高山	秋の高山祭10月10日最終日、100年ぶりの修理を終えて「豊明台」4年ぶり復活	朝日朝刊	19991011
岐阜	岐阜市の六所神社に伝わる祭り、20年振りに復活	岐阜朝刊	20000403
美濃加茂	美濃加茂市下町おはよし会は太郎神社の例祭	中日朝刊	20000405
高山	高山祭りの屋台「籠神台」120年ぶりに修理	朝日朝刊	20000415
八百津	八百津町の八百津祭りのため10年ぶりに山車	岐阜朝刊	20000526
白鳥	白鳥町の三輪神社の祭りが8・9日行われる。大神楽が5年ぶりに奉納される	中日朝刊	20001004
大和	大和町の七代天神社と白山神社の祭りで10年	中日朝刊	20001008
可児	可児市教育委員会主催「可児地歌舞伎祭」開 地歌舞伎が復活	毎日朝刊	20010126
中津川	第19回中津川市文化祭を開催、「古例歌舞伎大会」では30年振りに「増補八百屋駄立 新編八百屋」を復活公演	中日朝刊	20010305
高山	春の高山祭 鳳凰台生演奏、60年ぶりに復活	朝日朝刊	20010415
高山	高山祭の「籠神台」120年ぶり全面修理	朝日朝刊	20010415
坂祝	坂祝町・岩屋観音例祭夏まつりの主役・唐山の山車を復活させようとして勝栄会は山車をミニ山車に還元し夏まつりに登場させる	岐阜朝刊	20010710
坂祝	坂祝町勝山地区で15日に行われる「岩屋観音祭」に42年ぶりに山車が復活	中日朝刊	20010715
大和	大和町 金鏡神社祭りで大神楽と嘉喜踊りが12年ぶりに奉納される	中日朝刊	20011007
八幡	八幡町の神明神社周辺で「豊年祭り」が4年ぶりに催される	中日朝刊	20011012
白川町	白川町・佐長田神社 春季大祭 60年ぶりに花馬が復活	岐阜朝刊	20020416
中津川	中津川市の八幡神社の例大祭で花馬が約40年ぶりに復活	中日朝刊	20021006
恵那	中津川市制50周年・姫街道400年祭を記念し 恵那文芸 20021102	岐阜朝刊	20021102
柳津	柳津・慈恩寺の観音堂ちょうちん祭り 40年ぶりに復活	中日朝刊	20030809
美並	美並村で円空供養祭と数年ぶりに柴灯護摩供	中日朝刊	20030818
揖斐川	揖斐川町小島地区で中学生らの努力で夏祭り	岐阜朝刊	20030827
白鳥	白鳥町の八幡神社と白山神社で7年ぶりに祭りが行われる	岐阜朝刊	20031005
高山	1 職人気質 木と語らう宮大工 2 復活の音色 お囃子指導 広がると	朝日朝刊	20031005
高山	5 伝承の技 7年ぶりに後継者	朝日朝刊	20031009
本巢	本巢市の長屋神社の「馬かけ祭り」(県重要無形民俗文化財)で使われる馬具(鞍)300年ぶりに新調	岐阜朝刊	20040731
岐阜	柳ヶ瀬夏祭り 柳ヶ瀬音頭16年ぶり復活	岐阜朝刊	20040802
坂祝	坂祝町の神明神社例大祭で勝山祭保存会のメンバーが同様に奉納する祭りばやしを約半世紀ぶりに復活	岐阜朝刊	20050403
古川	飛騨市古川の春の例祭で御神輿巡行が22年ぶりに復活	岐阜朝刊	20050424
郡上	郡上市の白山神社で祭礼開催 30年ぶりに伊勢神楽奉納	岐阜朝刊	20050925
各務原	各務原市の加佐美神社でけんかみこし37年ぶりに復活 例祭で機織演技	岐阜朝刊	20050928
高山	秋の高山祭 からくり人形30年ぶりに新調	岐阜朝刊	20050929
海津	海津市青年団体連絡協議会が地元山車の山車を35年ぶりに復活 商工業感謝祭で披露	岐阜朝刊	20051023
高山	春の高山祭りきょう龍巻 青龍台が3年ぶり復活	岐阜朝刊	20060414
岐阜	岐阜市加野地区の「水神祭」で提灯行列復活	岐阜朝刊	20060702
土岐	土岐市駅前区祇園祭り約23年ぶりに「つくり物」大会復活	岐阜朝刊	20060806
高山	秋の高山祭、屋台「行神台」で30年ぶりに祭りばやし生演奏が復活	岐阜朝刊	20061001
高山	秋の高山祭、屋台「行神台」で28年ぶりに祭りばやし生演奏が復活	岐阜朝刊	20061011
神岡	飛騨市神岡町「手古舞」行列40年ぶり再現	岐阜朝刊	20070214
古川	古川祭 祭り屋台のからくり人形、30年ぶり	岐阜朝刊	20070405
七宗	七宗町の白幣社櫻原神明神社で約50年ぶりに春の例祭、開催	朝日朝刊	20070408
古川	古川祭が開幕 祭り屋台のからくり人形、30年ぶりに新調、乱舞	岐阜朝刊	20070420
中津川	中津川おいでん祭 5年ぶり大ちょうちん復活	岐阜朝刊	20070803
瑞浪	瑞浪市の「泥葉師如來」の泥落とし供養祭 400年ぶり拝願	岐阜朝刊	20081021
高山	高山市の飛騨天満宮で遷座祭 晴彦社、53年ぶりに新築	岐阜朝刊	20080921
中津川	中津川市・八幡神社例大祭 流鏡馬130年ぶりに奉納	岐阜朝刊	20091006
揖斐川	揖斐川町の北方神社で五穀豊穣に感謝する新嘗祭が48年ぶりに復活 女子児童が「みこの舞」	岐阜朝刊	20091125
高山	高山市・桜山八幡宮で来年、30年ぶり式年大祭 濃飛抄	岐阜朝刊	20100423
高山	高山祭の鳳凰台、100年ぶりの改修完了	岐阜朝刊	20100906
高山	高山祭 4年ぶりに「鳳凰台」が登場	岐阜朝刊	20101008
美濃	大矢田ひんこ祭り 35年ぶり、人形新調へ	岐阜朝刊	20101114
各務原	中国人殉難者を追悼 各務原市 慰霊祭復活	岐阜朝刊	20101124

復活する祭礼と民俗芸能 東日本大震災と岐阜県の事例から

場所	タイトル	新聞	年月日
揖斐川	140年前に途絶えた「ねそね祭り」 伝統芸能、創作劇で復活 揖斐川町・北方神社	岐阜朝刊	20110419
揖斐川	「ねそね祭り」140年ぶりに復活 揖斐川町・北方神社 古文書など調査も	中日朝刊	20110419
高山	高山市の桜山八幡宮の式年大祭の御渡、30年ぶり	岐阜朝刊	20110503
高山	桜山八幡宮 30年ぶり式年大祭	岐阜朝刊	20110508
高山	高山市の桜山八幡宮、30年ぶりに式年大祭	岐阜朝刊	20110508
美濃加茂	美濃加茂市・旧伊深村「伊深音頭」半世紀ぶり	岐阜朝刊	20110821
根尾	地域の絆を結び直す 盆踊り復活や鐘突き堂再建	岐阜朝刊	20110826
羽島	地元の伝統、復活に情熱 羽島雨乞い踊り保存会 江戸に起源、若い世代に継承を	岐阜朝刊	20110904
白鳥	郡上市白鳥町の3神社(日吉・八幡・白山)	岐阜朝刊	20110928
高山	高山祭「布袋台」で10年ぶりに生のおはやし	岐阜朝刊	20111012
大垣	大垣祭り「浦嶋やま」が67年ぶりに再建	岐阜朝刊	20120321
高山	春の高山祭「三番叟」鮮やかに からくり人形、94年ぶり新調	岐阜朝刊	20120402
高山	「三番叟組」からくり人形 94年ぶり復元新調 春の高山祭で奉納	中日朝刊	20120402
高山	高山祭へ おはやし稽古「麒麟台」、25年ぶり生演奏	岐阜朝刊	20120410
高山	神楽舞50年ぶり復活 春の高山祭で奉納 勇ましく、男児2人が披露	岐阜朝刊	20120415
高山	雨に映えるからくり 春の高山祭、94年ぶり	岐阜朝刊	20120415
高山	高山祭りで神楽舞が約50年ぶりに復活	岐阜朝刊	20120415
気良	気良白山神社(郡上市)祭礼の余興「気良歌舞伎」、郡上市明宝気良の若者たちにより17年ぶりに復活	岐阜朝刊	20120924
高山	高山祭初日の14日、30年ぶりに川原町に祭り	岐阜朝刊	20130416
明宝	明宝の「寒水踊り」 三十数年ぶり復活へ	中日朝刊	20130804
山県	山県市戸出地区で、30年ぶりに夏祭り開催	岐阜朝刊	20130817
高山	高山祭の屋台「金鳳台」が43年ぶりに復活	岐阜朝刊	20130915
揖斐川	揖斐川町・北方神社で3年前に創作劇として復活した「ねそね祭り」の稽古が20日の本番を前に実施	岐阜朝刊	20140418
宮	飛騨一宮水無神社(高山市一之宮町)の例祭 御神幸式行列が3年ぶり開催	岐阜朝刊	20140503

場所	タイトル	新聞	年月日
明宝	復活2年目「寒水踊り」	中日朝刊	20140816
荘川	そろった踊り9年ぶり舞台 高山市「ひわりの舞」	岐阜朝刊	20140919
大和	大和町の七代天神社14年ぶりに大祭 郡上市「太神楽・八幡踊り」奉納	岐阜朝刊	20140913
大和	郡上市・明建神社で21年ぶり奉納へ「牧掛踊り」歌い継ぎ	岐阜朝刊	20140927
白鳥	浦安の舞優雅に初披露 郡上の白鳥神社秋の例祭	中日朝刊	20140930
大和	掛鐘21年ぶりに奉納 郡上・大明建神社「しなない」背負い継る	中日朝刊	20141005
荘川	「ひだ荘川ふるさと祭り」で4年ぶりに披露 高山市合併10周年記念として制作された替え	岐阜朝刊	20141015
大和	七代天神社大祭で14年ぶり舞と踊り	中日朝刊	20141015

※場所は平成の大合併前の旧市町村名

記事の内容から、戦後復興期の1930年代、盆踊りや民謡が流行した1940年代、昭和の大合併(昭和28年(1953)～36年(1961)で市町村数が1/3になった)で都市への人口流出が始まった1950年代の3回の復活ブームがあったことがわかる。

また、ここには掲載しないが、同様に保存会結成に関する記事を一覧にしたところ、1940年代・1件、1950年代・4件、1960年代・4件、1970年代・10件、1980年代・17件、1990年代・10件、2000年代・2件、2010年代・4件を数えた。

表4 年表(祭礼復活)

西暦	和暦	できごと
1900年代		ドイツ語Volsk Lied・英語Folk-songからの訳語「民謡」が定着
1900～10年代		民謡調査とアンソロジー刊行が盛ん
1911	明治 44	柳田国男「踊の今と昔」(『人類学雑誌』3001～305)
1920年代		民謡運動が復興、新民謡運動で創作民謡が隆盛
1920	大正 9	世界恐慌
1922	大正 11	大日本民謡研究会設立
1923	大正 12	関東大震災
1925	大正 14	日本青年館で第1回「郷土芸能と舞踊の会」(のち全国民俗芸能大会)(～1936) ラジオ放送開始、民謡番組を編成
1926	大正 15	柳宗悦が民芸運動を展開
1927	昭和 2	民俗芸術の会発足
1928	昭和 3	学術雑誌「民俗芸術」発刊(～1932)
1930年代		盆踊りブーム 民芸ブーム
1931	昭和 6	満州事変、東北・北海道凶作で「身売り」が社会問題化
1934	昭和 9	日本民芸協会発足
1935	昭和 10	民間伝承の会発足
1936	昭和 11	日本民芸館開館
1937	昭和 12	日中戦争勃発により盆踊り禁止
1942	昭和 17	盆踊り復活(内務省布告)
1945	昭和 20	戦後レクリエーション活動として民謡復興
1941	昭和 16	アジア太平洋戦争(～1945)
1945	昭和 20	文部省芸術祭開始
1946	昭和 21	文部省次官通達「公民館の設置運営について」
1947	昭和 22	高山盆踊り保存会・白鳥踊り保存会結成
1949	昭和 24	日本民俗学会発足
1950年代		民芸ブーム
1950	昭和 25	文化財保護法制定、無形文化財の選定助成制度開始 日本青年館で第1回全国郷土芸能大会
1952	昭和 27	「郷土舞踊」「郷土芸能」に替って「民俗芸能」が用いられるように 文化庁芸術祭で日本民謡まつり、以後、毎年開催
1954	昭和 29	文化財保護法改正、重要無形文化財の指定認定・無形文化財の選定・無形民俗資料の記録選択制度開始 民俗芸能の保護が行政主導・保存会形式に移行
1955	昭和 30	文化財保護委員会が無形の民俗資料記録作成開始
1956	昭和 31	昭和の大合併(～1961)
1957	昭和 32	文化財保護委員会「都道府県における民俗芸能指定等の参考草案」
1958	昭和 33	宝塚歌劇団・郷土芸能研究会が民俗芸能を舞台化、以後20年間
1960～70年代		民芸ブーム最盛期
1959	昭和 34	第1回ブロック別民俗芸能大会
1964	昭和 39	東京オリンピック、第15回全国民俗芸能大会を芸術展示に位置づけ
1965	昭和 40	宮本常一企画・監修ドキュメンタリー「日本の詩情」(～1966) 文化庁「無形の民俗資料記録」第1集(～1971)
1967	昭和 42	日本観光文化研究所『あるくみるきく』創刊(～1988)
1968	昭和 43	文化庁設立 アジア民族芸能祭で民俗芸能公開
1969	昭和 44	文化庁「無形の民俗資料記録 芸能編『民俗芸能』」(～1974)、ブロック別民俗芸能大会記録を集成
1970年代		首長部局に文化課・文化振興課を設置 自治体による文化ホール(多目的ホール)隆盛 戦争等で中絶した民俗芸能の復活が盛んに

南本 有紀

西暦	和暦	できごと
1970	昭和 45	「ディスカバー・ジャパン」キャンペーン 大阪万博、「日本の祭り」で民俗芸能公開 民俗芸能の記録選択開始
1972	昭和 47	大阪文化振興研究会、行政課題としての文化・文化行政が俎上に ユネスコ世界遺産条約（自然遺産・文化遺産・複合遺産）を採択
1973	昭和 48	日本交通公社「るるぶ」創刊 全日本郷土芸能協会設立
1974	昭和 49	国立民族学博物館開館
昭和 50 年代		民俗芸能のイベント公演が盛んに
1975	昭和 50	文化財保護法改正、無形民俗文化財の指定選択制度開始、以後、民俗芸能の指定が活況 重要無形民俗文化財指定基準を公示
1970 年代後半		東京一極集中、「地域おこし」「まちづくり」がいわれはじめる 「地方の時代」
1976	昭和 51	民族文化映像研究所設立 平野文明「無形民俗資料の収集・利用の意義と問題点」（『日本民俗学』106） 日本民謡まつり・アジア太平洋うたとおどりの祭典（～1994） 高山屋台保存会結成
1978	昭和 53	大平正芳政策研究会（田園都市国家構想）で「地方の時代」「文化の時代」提唱 春慶塗 春慶技術保存会結成
1979	昭和 54	一村一品運動 サントリー地域文化賞創設 第 1 回文化行政シンポジウム 音声・映像記録も対象にした無形民俗文化財記録作成事業費国庫補助
1981	昭和 56	国立歴史民俗博物館開館 儀礼文化学会発足
1983	昭和 58	文化庁が地域文化功労者表彰を開始
1984	昭和 59	民俗芸能学会発足
1985	昭和 60	つくば科学博、民俗芸能公開
1988	昭和 63	ふるさと創生一億円事業 岐阜県地域活性化対策協議会「地域活性化のための伝統文化（民話・伝説）調査報告書」
1990	平成 2	「民俗芸能研究」12 号特集「民俗芸能の舞台上演をめぐる」 第 1 回全国各地芝居サミット 民俗芸能研究会の会／第一民俗芸能学会（～1991）
1991	平成 3	バブル崩壊
1992	平成 4	日本がユネスコ世界遺産条約締結 地域伝統芸能等を活用した行事の実施による観光及び特定地域商工業の振興に関する法律（おまつり法） 民俗芸能学会大会シンポジウム「民俗芸能とおまつり法」 愛知大学総合郷土研究所講演会「過疎が及ぼす民俗芸能への影響」 第 1 回 YOSAKOI ソーラン祭り
1993	平成 5	民俗芸能学会大会シンポジウム「民俗芸能の継承・断絶・再生」 第 1 回地域伝統芸能全国フェスティバル
1995	平成 7	阪神・淡路大震災による「ボランティア元年」、多文化共生・NPO/NGO 活動が盛んに 白川郷・五箇山の合掌造り集落を世界遺産に登録
1996	平成 8	国際民俗芸能フェスティバル（～2010）
1998	平成 10	全国各地芝居連絡協議会発足 全国獅子舞フェスティバル開始
1999	平成 11	平成の大合併（～2006） 第 1 回東京国立文化財研究所民俗芸能研究協議会、テーマは「復活と継承」 第 1 回全国こども民俗芸能大会
2000	平成 12	総合的な学習の時間（総合学習）導入、段階的に開始 第 12 回民俗芸能学会シンポジウム「民俗芸能大会のこれまでとこれから」
2001	平成 13	民俗芸能指導者研修会 ふるさと文化復興事業（～2010）
2002	平成 14	安藤直子「地方都市における観光化に伴う『祭礼群』の再編成」（『日本民俗学』231）
2003	平成 15	ユネスコ無形文化遺産条約を採択 東京文化財研究所・無形の民俗文化財映像記録作成小協議会 東京文化財研究所・伝統文化活性化国民協会の無形文化財記録所在アンケート調査（～2004） 民族文化映像研究所から「日本の姿」シリーズ 日本民俗学会ミニシンポジウム「民俗調査の現場から 変貌する現代社会と民俗学」森茂茂一「近代都市の災害と地蔵 まち創造における民俗学の役割」 伝統文化子ども教室（～2010、以後、伝統文化親子教室）
2004	平成 16	日本がユネスコ無形文化遺産条約を締結 愛知大学総合郷土研究所講演会「まつりのふるさと・どうする故郷」 伝統文化研修セミナー開始 文化財保護法改正により文化的景観・民俗技術が保護対象に 第 1 回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト（國學院大学）
2006	平成 18	東京文化財研究所改組により芸能部が無形文化遺産部に 橋本裕之「民俗芸能研究という神話」 金賢貞「無形民俗文化財指定と新たな民俗芸能の創出」（『民俗芸能研究』41） 東京文化財研究所が無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究（～2010） 東京文化財研究所「民俗芸能の上演目的や上演場所に関する調査研究報告書」 澁谷美紀、農業・生物系特定産業技術研究機構「民俗芸能の伝承活動と地域生活」 平成の大合併終了、以後、祭礼の簡略化（民俗芸能休止・神事のみ）が進む
2007	平成 19	第 1 回全国高校生歴史フィードバック（奈良大学） 大島映雄「無形民俗文化財の保護 無形文化遺産保護条約にむけて」 俵木悟「無形民俗文化財映像記録の有効な保存・活用のための提言」（『無形文化遺産研究報告』1） 花祭り（愛知県）17ヶ所のうち2ヶ所の伝承地で休止
2008	平成 20	文化庁・変容の危機にある無形の民俗文化財の記録作成の推進事業 東京文化財研究所「無形民俗文化財映像記録作成の手引き」刊行・配布 日本がユネスコ無形文化遺産第 1 回申請 民俗芸能学会第 121 回研究例会「民俗芸能を活用した町づくり 備中神楽の継承の一形態」 『月刊文化財』540 特集「民俗芸能の公開について ブロック別民俗芸能大会 50 回を記念して」

復活する祭礼と民俗芸能 東日本大震災と岐阜県の事例から

西暦	和暦	できごと
2009	平成 21	日本民俗学会公開シンポジウム「民俗の『創造性』と現代社会」 角美弥子「無形の文化財としての芸能の保存・継承に係る保護制度の運用に関する一考察」(『音楽芸術マネジメント』1) 星野紘「村の伝統芸能が危ない」 ユネスコ無形文化遺産に各国推薦が始まる、指定文化財からの順次推薦方針
2010	平成 22	文化庁・地域伝統文化総合活性化事業 文化庁・ふるさと文化復興事業 文化庁・伝統文化こども教室事業 岐阜県で「ふるさと教育週間」設定 [日本民俗学] 264 小特集「民俗学と記録映像」 福田裕美「民俗芸能の保護をめぐる文化財政策の研究I」(『音楽芸術マネジメント』2)
2011	平成 23	東日本大震災 日本民俗学会東日本大震災関係シンポジウム「震災の記憶と語り 民俗の再生へ向けて」 民俗芸能学会が福島地域の無形の民俗文化財被災調査(～2013) さいたま民俗文化研究所等が東日本大震災民俗文化財現況調査(岩手県)(～2012) 東北大学等が東日本大震災に伴う被災した民俗文化財調査(宮城県)(～2012) 民俗芸能学会第136回研究例会「東日本大震災被災地の民俗文化財報告会」 福田裕美「民俗芸能の保護をめぐる文化財政策の研究II」(『音楽芸術マネジメント』3)
2012	平成 24	文化庁・文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業 日本民俗学会第864回談話会「映像民俗学の新展開」遠藤協「えんずのわりの子どもたち 東松島市宮戸島における震災と民俗行事の再建」 岐阜県で「岐阜県ふるさと教育表彰」表彰開始 第8回全国高校生歴史フォーラムから奈良県・奈良大学共催に [日本常民文化紀要] 29 特集「歴史教育と文化財の保存・活用をめぐる研究」 星野紘「過疎地の民俗芸能の再生を願って」
2013	平成 25	東北大学東北アジア研究センターシンポジウム「民俗芸能と祭礼からみた地域復興」 ユネスコ無形文化遺産第5回審査で「和食」を登録、指定外からの推薦 日本民俗学会国際シンポジウム「無形文化遺産政策のホットスポット・中国」 日本民俗学会第870回談話会「映像記録作成のあり方 無形民俗文化財の保護手法」 東京文化財研究所「無形文化遺産情報ネットワーク」第1回協議会 無形文化遺産情報ネットワークが無形文化遺産マップをネット公開
2014	平成 26	ユネスコ無形文化遺産第6回審査で「和紙」を拡張・一括申請、登録 無形文化遺産情報ネットワーク「東日本大震災被災地域における無形文化遺産とその復興」

※出典

- 星野紘,2012,過疎地の伝統芸能の再生を願って 現代民俗芸能論,国書刊行会
村上忠喜,2013,文化財保護と民俗 これまでの歩みと今後の課題(八木透,新・民俗学新・民俗学を学ぶ 現代を知るために,昭和堂)
檜皮瑞樹,2014,柳宗悦・民芸運動と苗代川の近代(久留島浩他,薩摩・朝鮮陶工村の四百年,岩波書店)
小島多恵子,2014,ふるさとをつくる アマチュア文化最前線,筑摩書房
齋藤裕嗣,2008,無形民俗文化財(民俗芸能)の公開 フロック別民俗芸能大会を中心に(月刊文化財 540号,2008年9月)
俵木悟,2010,無形民俗文化財の記録作成(東文研ニュース 43号,2010年)
川野裕一郎,2014,文化財行政の抱える問題 鳥根県佐陀神能の事例から(社会学研究科紀要 77号,2014年)
坪井秀人,2006,感覚の近代,名古屋大学出版会
星野紘,2007,世界遺産時代の村の踊り 無形の文化財を伝え遺す,雄山閣
川村清志,2013,近代に生まれた「民謡の里」 麦屋節とこきりこ唄を中心に(青木隆浩,地域開発と文化資源,岩田書院)
郡上おどり史編纂委員会,1993,歴史でみる郡上おどり,八幡町
朝日朝刊 19470816
岐阜朝刊 19510908
岐阜朝刊 19530214
藤本愛,2011,無形民俗文化財の調査記録に関する提言 奈良県の祭り・行事および民俗芸能の調査を通して(奈良女子大学文学部研究教育年報 8号,2011年8月)
曾我部一行他,2007,「人類学雑誌」考 民俗学の揺籃期(成城文藝 201号,2007年12月)

年表(表4)と照らし合わせると、社会変動・経済政策と文化財保護政策と地域の民俗芸能復興が連動していることが窺えるのではないだろうか。

ところで、民俗芸能の周辺として民謡と民話に目を転じれば、同様の傾向を指摘できる。ここでは、先行研究に詳しい民謡(とくに新民謡運動)については省略して、伝説・民話について見ていこう。

表5によれば、1950年代から90年代にかけて100を超えるような長大なシリーズ連載が、新聞紙上を飾ったようすが窺える。これらの連載は掲載終了後、伝説・民話集として刊行される場合が多く、それを反映して、1970～80年代にこうした郷土伝説・民話集の刊行が相次いでいる。そういえば、当時、観光地ではご当地民話集が土産物店に並んでいたことを思い出す。民謡・民話・民俗芸能は連動して、地方にひとつひとつの「心のふるさと」を見出していた¹⁹⁾のである。

表5 新聞連載(伝説)

連載	紙面	時期
伝説めぐり	岐阜朝刊	1951-08～08
山の伝説	毎日朝刊	1952-07～08
濃飛伝説百話	岐阜朝刊	1953～1954-04
続濃飛伝説百話	岐阜朝刊	1955～
東海伝説の旅	朝日夕刊	1956-01～02
美濃・飛騨伝説の旅	毎日朝刊	1957-09～12
郷土の伝説	毎日朝刊	1969-04～1971-12
伝説・民話 ふるさと民話	毎日朝刊	1978-05～1979-12
伝説・民話 お母さんが集めた可児の昔話	岐阜朝刊	1979-01～04
飛騨の昔話	中日朝刊	1984-08～10
続・飛騨の昔話	中日朝刊	1985-01～
飛騨の昔話(※新シリーズ)	中日朝刊	1986-01～02
ふるさと民話伝説シリーズ	岐阜朝刊	1989-07～09
西美濃伝説紀行 夜叉ヶ池の雨乞い伝説	岐阜朝刊	1997-05～08
古里讃歌 飛騨点々累々・伝説	岐阜夕刊	1999-01～02

4 郡上の風流踊り

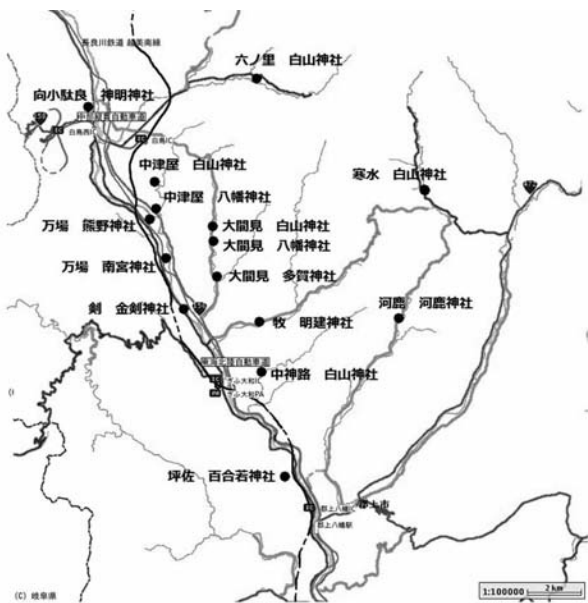
最後に、不定期挙行を繰り返しながら、伝承されてきた郡上市の風流踊り（掛踊り・大神楽）について概説する。前節の復活とは別の文脈の現象である。

これは、芸能史では、中世の「風流拍子物」に由来するもので、太鼓と鉦を打ち鳴らしながら踊る風流踊りの「中踊り」と、その外側を仮装姿の手踊りが輪踊りの「側踊り」となって取り囲む芸能である。後者は、近世、独立して盆踊りに展開したといわれる²⁰。

表6 郡上の掛踊り一覧

町	集落	神社	大神楽	伊勢神楽	掛踊り	備考
明宝	寒水	白山神社 寒水1203			○	母袋より伝播
八幡	河鹿	河鹿神社 初音河鹿1087-2	×		△	3年おき 賀喜踊り、寒水または中神路より伝播 昭和初期まで夜公演の伊勢神楽は吉田より伝播
八幡	坪佐	百合若神社 有坂字炭電177	×		△	10または十数年おき、慶事・祝典時 神路より伝播
大和	中神路	白山神社 神路2050			△	△(1977)→×
大和	牧	八幡神社 水神社 明建神社 牧817-1 白山神社 八幡神社		△	△	寒水より伝播 試楽:元兼八幡・木蛇寺水神・明建、 本楽:三田白山・三田八幡・明建
大和	剣	金剣神社 剣325-1	△		△	○(1977)→△
大和	口大間見	多賀神社 大間見312-1 八幡神社 大間見719 白山神社 大間見863-1			△	
大和	万場	熊野神社 万場670 南宮神社 万場2273-1			△	
白鳥	中津屋	白山・八幡神社	△	×	△	賀喜踊り
白鳥	向小駄良	神明神社 向小駄良551	△		△	
白鳥	六ノ里	白山神社 六ノ里1504	△		△	3~5年おき

図2 郡上の掛踊り伝承地



腹部に太鼓を抱えて踊る太鼓踊りは、近畿地方を中心に広く分布しており、岐阜県内でも滋賀県境に濃厚である。郡上の掛踊りもそうだが、雨乞い踊りの伝承を持つものが多い。雨乞いの願掛けのため不定期に舞われたといわれている。

郡上市内では11ヶ所にこの「掛踊り」が伝承しており、毎年上演する1ヶ所を除いて3年~数十年の不定期上演を行っている。そのようすを、年表(表7)で示した。歴史的には、60年に一度とされる伊勢神宮の御鉦祭り の神賑で行われることが多かったが、慶事祝賀でもたびたび奉納されている。

表7 年表(掛踊り)

西暦	和暦	場所	できごと
1498	明応7	(白鳥)	(大神楽奉納)
1559	永禄2	河鹿	東殿山城落城(遠藤盛数が東常慶を滅ぼす)戦勝報告を契機に開始
1600	慶長5	中津屋	関ヶ原合戦東軍勝利を祝って賀喜踊り開始
1667	寛文7	(小野)	(大神楽・奴踊り奉納)
1682	天和2	御鉦神が郡上巡村①	神路から踊りをかける(剣の掛踊り発祥)、後に廃絶
1687	貞享4	寒水	奥の宮棟札
1703	元禄16		(御鉦祭り)
1709	宝永6	寒水	母袋(または板洞)から観音像・掛踊りが伝わる
1742	寛保2	御鉦神が郡上巡村②	河鹿 大間見から踊りを掛ける 御鉦祭り奉納 母袋・東侯・牧では田打ち踊り等で御鉦神送迎奉納(太鼓記録)
1764	明和1	牧	奉納(太鼓記録)
1767	明和4	(御鉦祭り)	
1770	明和7	牧	奉納(太鼓記録)
1781	天明1	寒水	奉納
1789	寛政1	牧	奉納
1795	寛政7	寒水	奉納
1797	寛政9	牧	奉納
1802	享和2	御鉦神が郡上巡村③	牧 河鹿 口大間見 御鉦祭り奉納 雨乞い奉納 奉納 粟巢筋(中神路)が御鉦祭り総取り持ちで掛踊り奉納
1809	文化6	中津屋	北海道国泰寺万全により再興
1811	文化8	牧	奉納
1813	文化10	牧	奉納
1820	文政3	寒水	奉納
1821	文政4	牧	奉納
1825	文政8	牧	奉納
1827	文政10	(御鉦祭り)	
1828	文政11	御鉦神が郡上巡村④	牧 御鉦祭り奉納 明建神社で刃傷事件のため持殿等再建へ口大間見・小間見(合同)、剣で掛踊り奉納 笠松代官が御鉦祭りを禁ずる
1830-43	天保年間	寒水	東侯村庄屋宛祭礼招待状
1830	天保1	寒水	このころ大名行列が加わる
1840	天保11	牧	奉納
1844	弘化1	牧	明建神社落慶、芸神楽(伊勢神楽)奉納
1846	弘化3	牧	掛踊り派と芸神楽派が対立
1849	嘉永2	牧 中津屋	少人数での挙行、雨天順延を届出 拍子打・鞆鼓記録
1859	安政6	御鉦神が郡上巡村⑤	中神路・粟巢筋(母袋・西侯・東侯・牧総取り持ち)で掛踊り
1862	文久2	御鉦神が郡上巡村⑥	牧 掛踊り記録なし
1868	慶応4・明治1	寒水	神仏判然令により掛踊り奉納が数十年中絶
1875	明治8	寒水	八朔から10月1日に祭礼日を変更
1877	明治10	牧	奉納
1887	明治20	寒水	演劇興行を契機に掛踊り復活を計画
1888	明治21	(御鉦祭り)	牧 奉納
1893	明治26	寒水	北海道移住に際し、復活関連資料を書写
明治末		寒水 寒水	このころまで母袋から持殿踊り、踊り納めに参加祭礼日を現行9月に変更、奥の宮奉納から観音遷座に

西暦	和暦	場所	できごと
1913	大正2	中神路 河鹿	雨乞いのため嘉喜踊り奉納,以後雨乞い歌は封じ文に5社を合祀
1914	大正3	河鹿	中絶後,合祀を機に毎年奉納するように
1915	大正4	牧	大正天皇御大典祝賀で奉納
1916	大正5	寒水	復活関連資料を再度書写
1922	大正11	牧 剣	奉納 口大間見より嘉喜踊り伝播
昭初		河鹿 寒水 寒水	このころまで夜は伊勢神楽「掛踊り」の表記を採用 大名行列(ひねり奴)を入れるが,取りやめ
1928	昭和3	牧	奉納
1936	昭和11	牧	奉納(太鼓記録)
1947	昭和22 (御嶽祭り)		
1948	昭和23	牧	戦後復興祈念で「嘉喜踊り」奉納
昭和25~30年		寒水	大名行列が一時復活
1957	昭和32	万場	中津屋より嘉喜踊りを伝播
1958	昭和33	牧	「嘉喜踊り」奉納
1959	昭和34	中津屋	岐阜県重要無形文化財(のち重要無形民俗文化財)に指定
1960	昭和35	寒水	掛踊り保存会発足
1962	昭和37	寒水	岐阜県重要無形文化財(のち重要無形民俗文化財)に指定
1967	昭和42	寒水	「掛踊り調査報告書」刊行
1970年代		河鹿	このころから3年に1度奉納
1970	昭和45	剣	剣で嘉喜踊り・大神楽を奉納
1971	昭和46	河鹿	3年ぶり,略式に奉納,雨天のため中止
1973	昭和48	口大間見 (下栗巣) (柳町)	口大間見で22年ぶりに奉納 (下栗巣で19年ぶりに大神楽奉納) (岸剣神社の大神楽を県重要無形文化財(のち重要無形民俗文化財)に指定)
1974	昭和49	河鹿 寒水	正式に奉納 国選択民俗芸能(のち無形民俗文化財)に選定
1975	昭和50	中神路	25年ぶりに嘉喜踊り奉納
1976	昭和51	万場 (奥大間見)	嘉喜踊り奉納 (19年ぶりに大神楽奉納)
1977	昭和52	牧	19年ぶりに奉納,女子も参加
1978	昭和53	剣 (小間見)	大神楽・嘉喜踊り・金神太鼓(石川県鶴来より伝播)奉納 (30年ぶりに大神楽奉納)
1979	昭和54	(島)	(大神楽・八幡踊りを奉納)
1980	昭和55	(島谷若宮)	(日吉神社大神楽を県重要無形民俗文化財に指定)
1985	昭和60	(口神路)	(口神路で大神楽奉納)
1987	昭和62	(名皿部)	(名皿部で大神楽奉納)
1990	平成2	(島)	(島で大神楽・八幡踊りを奉納)
1991	平成3		(郡上おどり400年祭)
1993	平成5	牧	皇太子御成婚祝賀で奉納
1997	平成9	(小野)	(小野八幡神社祭礼を県重要無形民俗文化財に指定)
2000	平成12	(島)	(島で大神楽・八幡踊りを奉納)
2007	平成19 (御嶽祭り)		
2010	平成22	寒水	9月第2土日に祭礼日を移動
2011	平成23	(二日町)	(大神楽・八幡踊りを4年ぶりに奉納,合祀100年・花火200年を記念)
2014	平成26	河鹿 牧 (島)	河鹿で賀喜踊り奉納,前回雨天のため6年ぶりの開催 牧で掛踊りを21年ぶりに奉納,記録上20回目,神社創建700年を記念 (島で大神楽・八幡踊りを14年ぶりに奉納)

表中,掛踊り以外の民俗芸能については()書にした

※出典

和田清美,2011,明宝寒水史
 太田成和,1961,郡上八幡町史 下,八幡町役場
 平成26年明建神社大祭礼関係資料
 牧史談会,1989,牧史談会会誌
 賀喜踊り保存会,1965,賀喜踊り由来
 平成26年河鹿神社賀喜踊り資料
 寺田敬蔵,1977,郡上の祭り,郡上史談会
 明宝村教育委員会,1993,明宝村史 通史編 下,明宝村
 清水昭男,2005,岐阜県の祭りから 5,一つ葉文庫
 清水昭男,1996,岐阜県の祭りから,一つ葉文庫
 白鳥町教育委員会,1977,白鳥町史 通史編 下,白鳥町
 大和町,1988,大和町史 通史編 下,大和町
 島七代天神社祭礼で聞き取り(2014)
 中日朝刊20110921
 岐阜朝刊20110518
 中日朝刊20141015
 中日朝刊20141005

掛踊りに特徴的なのは,他地域の太鼓踊りが失った側踊りを伴うことであり,山鉦・傘鉦状の依代のほか,幟,花笠・田打ちの風流姿の役者,笛と歌の伴奏者に,奴,さらに,おかめ・大黒の道化,鬼面をつけた露払い等々,出役者は総勢百数十名を数える.この役者の多さが定期上演を困難にしているのだが,とにかく壮観である.

郡上市内の民俗芸能を概観(表8)すると,興味深いことに,掛踊りと分布を重ねあわせるように伝承しているのが「大神楽(だいかぐら)」「伊勢神楽(芸神楽とも)」で,これにも多くの役者が動員される.役者一覧(表9)によれば,掛踊りと大神楽の役者が共通しており,さらに,長良川支流の吉田川の支流の川筋ごとに点在する集落それぞれに,関連しあう芸能が伝承されている.ちなみに,御嶽様(御嶽祭りのご神体であるミニチュア木製嶽)が巡村したときもこの川筋ルートを北上するコースがとられた²¹.

さて,この風流踊り圏の形成と繰り返される復活はどういう意味を持つのだろうか.いまのところ,筆者の力量不足により,前節のようなわかりやすい要因を示せずに節を閉じざるを得ない.大方のご教示を請う次第である.

表8 郡上市民俗芸能一覧

○毎年 △不定期 ×廃絶

町村	集落	大神楽	伊勢神楽	掛踊り	その他
奥筋	高鷲	ひるがの			獅子舞(莊川村尾上から譲り受けた)○
		西洞	△		神社での獅子舞奉納は毎年やっている.(道行き含めれば,5年に1回)
		鷺見・上野	△		3年おき
		鮎走	○		
		切立	△		3年おき
		大鷲	○		
		中洞	○		大鷲白山神社の前日 大字は大鷲
牛道筋	白鳥	阿多岐	×		昭和46年(1971)が最後
		六ノ里	△	△	3~5年おき
		野添	△		奥大間見より伝播(安永2・1773) 拝殿踊り○
		中西	△		
		恩地	△		
		白鳥	○		拝殿踊り○
		為真	△		5年おき
		那留	△		
		越佐	×		
		大島	△	△	大:6~7年おき
		中津屋	△	×	△ 嘉喜踊り 大:大間見より伝播
		石徹白			巫女舞○
		前谷	△		拝殿踊り○
		歩岐島	△		
		長滝			六日祭り(延年)○ ででん祭り○
		二日町	△		八幡踊り△;島より伝播
		向小駄良	△	△	
栗筋	大和	母袋	△		
		上栗巣	△		大間見または下栗巣より伝播
		下栗巣(西俣)	△		大間見より伝播(明治6・1873)
		東俣	×	×	網笠踊り× ※要確認

町村	集落	大神 神楽	伊勢 神楽	掛踊 り	その他
	牧		△	△	七日祭り○ 寒水より伝播 伊;尾張神楽(芸神楽),大島より伝播(天保 15-1844)
	徳永	△	×		島より伝播(大正初) おおむね5年おき→近年,十数年おき
	島	△			八幡踊り(奴踊りとも)△
	名皿部	△			大間見(島か)より伝播,創作とも(明治末)
	小間見	△			大間見より伝播(明治5-1872)
	奥大間見	△			津島→口神路より伝播
	大間見	△?			伊勢→口神路より伝播→おそらく奥大間見
	口大間見			△	中神路より伝播
	中神路		△	△→ ×	雨乞い・鎌倉発祥伝承あり 伊;尾張神楽(芸神楽),吉田より伝播(昭和 8-1933)
	口神路	△	△		川崎踊り△ 伊;伊勢より伝播(享保年間・1716-35)
	河辺	×	△		大;洋殿焼失により廃絶(明治27・1894) 伊;尾張神楽(芸神楽),吉田より伝播(大正) 三番叟△(伊勢神楽とともに奉納),鎌倉より 伝播
	万場			△	中津屋より伝播(昭和32・1957)
	剣	△		○→ △	嘉喜踊り 廃絶後,新たに口大間見より伝播(大正11・ 1922) 大;大間見より伝播(明治5・1872)
明方筋 明宝	坂本		×		美濃より伝播(大正12・1923)
	奥住	○	△		※要確認
	小保木		○		新神楽(ほぼ伊勢神楽)○ 白金より伝播 (明治22-23・1889-90)
	鎌辺	○			畑佐より伝播
	奥長尾		×		東気良より伝播(明治15・1882)
	畑佐	○			八幡より伝播
	小川	○			男踊り女子踊り○
	二間手	○			大谷より伝播(天保・1830-44)
	西気良	○			男踊り・大;小川より伝播 男踊り×
	東気良		○		伊;吉田から伝播(明治初)
	寒水			○	母袋より伝播(宝永6・1709)
	大谷	○	×		大伊;神路より伝播(文政・1818-30)
上保筋 和良	上土京		○		
	下土京	○			
	方須	○	×		
	安郷野		×		
	鹿倉	○			
	宮代	○			
	上沢	○	○		山車神楽○
上保筋 和良	下沢	○	○		
	下洞	○	○		
上保筋 和良	法師丸	○			
	野尻	○	×		
	宮地	○	○		山車神楽○
	横野	○			
	東野	○			山車神楽○ →要確認
	田平	△	×		
小駄良筋 八幡	小久須見	○			大字は有穂
	市島	○			
	吉田		○		
	川佐	△	×		市島から習った
	田尻		○		大正天皇御大典の時,加茂郡より師を招い て習った
	小野	○			奴踊り○
	島谷(愛宕)		×		春祭りの日に神事のみやっている
	八幡北 →岸剣神社	○			
	八幡南 →日吉神社	○			
	河鹿		×	△	3年おき 賀喜踊り,寒水または中神路より伝播 伊;吉田より伝播
	五町	△			
	中桐	○			奴踊り○ 大字は初音
	坪佐		×	△	10または十数年おき,慶事・祝典時 中神路より伝播
	竜牙	×			

町村	集落	大神 神楽	伊勢 神楽	掛踊 り	その他
	大洞(稲成)	○			日吉から一式ならった
	入間(大洞)	△			休止中 白鳥の牛道から習う
	中野	○	×		中野と穀見は合同
	穀見		×		
	宇留良	○			子どもがいないので大人だけで実施
	高畑	○			
	那比	○			
	千虎		○		
	亀尾島		×		
小駄良筋 八幡	西乙原	○	×		美並村大矢から習った(大正)
	小那比	△			平成10年より休止
	野々倉	×			
	洲河	△			平成11年より休止中
	夕谷	△			H21より休止中
	美山	○	×		
	鬼谷	○			
	安久田	×			
下川筋 美並	梅原	○			
	深戸	○			
	相戸		×		
	くじ本	○			
	三田市	○			
	杉原	×	×		
	粥川	○			
	上市場	×			
	上苜安	○	×		
	下苜安	○			
	高原	×			粥川と一緒に星宮で実施
	福野	○			
	下田	○			
	大矢	○			
	勝原		○		
	半在		×		

※出典
 和田清美,2011,明宝寒水史
 太田成和,1961,郡上八幡町史 下,八幡町役場
 平成26年明建神社大祭礼関係資料
 牧史談会,1989,牧史談会誌
 賀喜踊保存会,1965,賀喜踊由来
 平成26年河鹿神社賀喜踊り資料
 寺田敬蔵,1977,郡上の祭り,郡上史談会
 明宝村教育委員会,1993,明宝村史 通史編 下,明宝村
 清水昭男,2005,岐阜県の祭りから 5,一つ葉文庫
 清水昭男,1996,岐阜県の祭りから,一つ葉文庫
 白鳥町教育委員会,1977,白鳥町史 通史編 下,白鳥町
 大和町,1988,大和町史 通史編 下,大和町
 岐阜朝刊20110726
 監修:郡上教育委員会 岩井彩乃

表9 役者一覧

坪佐	
ダシの花持ち	1
田楽持ち	1
露払い	2
先箱	2
剣振り	4
長刀振り	4
大将	1
弓持ち	2
鐘ひき	1
拍子方(シナイを負う)	4
おかめ	1
笛吹き	8
大奴	6
小奴	10
田打ち	13
唄下し	4
花笠	12
鼻高	1
オキナ	1
市平	1
計	79人

出典：郡上八幡町史 下

河鹿		昭和46(1971)		平成26(2014)	
火の用心	1	火の用心	1	火の用心	
すっどこ	1	すっどこ	1	ストコ	1
出しの花	1	出花持ち	1	ダシの花(AET)	1
幟	1	幟持ち	1	笠木(AET)	1
笠木	1	笠木持ち	1	幟	1
警護	1	御幣	1	けいご(婦人会)	
先箱	2	大将	1	先箱	2
鳥居振り	4	お側付き(中児)	4	鳥居ヒネリ	5
槍振り	2	警護(十数名)		槍	4
鉄砲	2	先箱	2	鉄砲	4
弓	2	鳥毛振り	4	弓	
素奴	8	槍振り	2	けいご(婦人会)	
警護	2	鉄砲持ち	2	伍平	1
大笠	1	弓持ち	2	大将	1
五平	1	大笠	1	オンバ	3
大将	1	拍子替	1	剣ふり	2
オリバ(うち大刀持ち2)	4	おかめ	2	拍子	4
警護	1	音頭師	4	鐘引	2
剣振り	2	剣振り	2	拍子替	1
拍子方	4	拍子方	4	けいご(婦人会)	
鐘ひき	2	鉦引き	2	笛	4
拍子替え	1	重歌	4	おかめ	2
警護	2	大黒	1	けいご(婦人会)	
おかめ	2	笛吹き	10	音頭	5
音頭	4	ささらすり	2	重歌	4
歌	4	田打ち(中児)	12	大黒	1
警護	1	花笠(小児)	12	ささら	2
大黒	1	しで笠(中児)	20	田打ち	9
笛吹き	10	素奴(中児)	8	けいご(婦人会)	
ササラすり	2	計	108人	花笠	7
田打ち	12	出典：郡上の祭り		幟	1
警護	2			けいご(婦人会)	
花笠	12			酒世話	9
警護	2			庶務	5
幟	1			計	83人
しで笠(現在は省略)	20			出典：祭礼挙行資料	
計	120人				

出典：郡上八幡町史 下

中津屋	
昭和44(1969)	
白玉奴(先奴)	4
花笠	12
鉦打	1
笛吹	7
拍子打	3
素奴<少年)	25
大刀奴(少年)	12
師匠	1
火男	1
しゃぐま	1
歌おろし	7
計	74人

出典：白鳥町史

中神路	
昭和50(1975)	
露払い	2
出しの花	1
田楽	1
幟	1
禰宜	1
矢持ち	2
傘鉦	1
先箱	2
大鳥毛	2
小鳥毛	4
剣	4
長刀	4
奴	8
おかめ	1
鉦	1
拍子木	1
拍子打ち(しない)	4
笛吹き	10
おかめ	1
田打ち(小児)	12
花笠(幼児)	12
歌うたい	5
一兵衛(列外)	2
鼻高(列外)	1
計	83人

出典：大和町史

牧		寛政9(1797)		昭和52(1977)		平成5(1993)		平成26(2014)	
鐘振り	10	出しの花	1	大出し花	1	大出し花	1	大出し花	1
奴	8	露払い	2	露払い	2	露払い	2	露払い	2
しない負太鼓打	4	大鳥毛	10	先箱	2	先箱(さきやっこ)	2	先箱(さきやっこ)	2
笛吹	4	大鳥毛(師匠)	1	大鳥毛	4	大鳥毛(おとどい)	1	大鳥毛(おとどい)	1
花籠持	1	お徒士	4	鏡槍	2	大鳥毛	1	大鳥毛	1
田打	8	殿様(小児)	1	星槍	2	お徒歩	3	お徒歩	3
踊子	38	お側付き	2	三つ又槍	2	殿様(男児)	1	殿様(男児)	1
計	73人	狸々	2	大傘	1	お側付(男児・女児)	2	お側付(男児・女児)	2
出典：岐阜県の祭りから		剣振り	9	日傘	1	狸々(鉄砲・弓)	2	狸々(鉄砲・弓)	2
		長刀振り	13	お徒歩	2	剣(けん)係	1	剣(けん)係	1
		剣(師匠)	1	お側付	1	剣	5	剣	5
		おかめ	1	神主	1	薙刀係	1	薙刀係	1
		小鳥毛	13	殿様	1	薙刀(女児)	6	薙刀(女児)	6
		鉦引き	3	お側付	1	おか女(め)	1	おか女(め)	1
		拍子(しない)	4	御幣持ち	1	小鳥毛(ことりい)係	1	小鳥毛(ことりい)係	1
		拍子(師匠)	1	お徒歩	2	小鳥毛	5	小鳥毛	5
		笛吹き	12	狸々	2	鐘引	3	鐘引	3
		歌おこし	8	剣振り	10	はんや	1	はんや	1
		おかめ	1	薙刀振り	11	拍子係	1	拍子係	1
		田打ち(子ども)	25	おかめ	1	拍子	4	拍子	4
		田打ち(師匠)	1	小鳥毛	11	笛	7	笛	7
		花笠(幼児)	24	鉦引き	3	おか女	1	おか女	1
		花笠(世話役)	1	拍子	4	田打係	1	田打係	1
		白面	1	笛吹き	15	田打	13	田打	13
		はんや	1	歌起し	8	歌おろし	8	歌おろし	8
		拍子木	1	おかめ	2	白面	1	白面	1
		道化(列外)		田打ち	28	道化	7	道化	7
		計	143人	花笠	24	計	77人	計	77人
		出典：大和町史		はんや	1	出典：祭礼挙行資料		はんや	1
				道化	2			道化	2
				白面	1			白面	1
				計	149人			計	149人
				出典：岐阜県の祭りから					

出典：大和町史

出典：祭礼挙行資料

出典：岐阜県の祭りから

剣		昭和45(1970)		※同 大神楽	
露払い	2	出しの花	1	出しの花	1
玉奴	4	露払い	2	露払い	2
長刀	7	奴	4	奴	4
奴	5	剣	1	剣	1
素奴	22	長刀(中学生)	6	長刀(中学生)	6
拍子打ち	4	鳥毛奴	5	鳥毛奴	5
笛吹き	10	御神灯	1	御神灯	1
音頭・地歌	10	東西呼び	1	東西呼び	1
田打ち(小児)	40	おかめ	1	おかめ	1
田打ち頭	2	ささらすり(子ども)	1	ささらすり(子ども)	1
道化(列外)		獅子		獅子	
計	106人	神楽堂	2	神楽堂	2
出典：大和町史		神楽打ち(子ども)	2	神楽打ち(子ども)	2
		小太鼓打ち	1	小太鼓打ち	1
		笛吹き	7	笛吹き	7
		鼓打ち	7	鼓打ち	7
		赤鬼(列外)	1	赤鬼(列外)	1
		鼻高(列外)	1	鼻高(列外)	1
		火男(列外)	1	火男(列外)	1
		白面(列外)	1	白面(列外)	1
		計	46人	計	46人

出典：大和町史

島		平成26(2014)	
出し花	3	出し花	3
神楽織持ち	1	神楽織持ち	1
田楽(御神体)	1	田楽(御神体)	1
東西呼び	1	東西呼び	1
露払い(唄人)	8	露払い(唄人)	8
大奴	4	大奴	4
小奴	8	小奴	8
ささらすり(小児)	1	ささらすり(小児)	1
獅子振り	9	獅子振り	9
神楽織持ち	1	神楽織持ち	1
大太鼓・太鼓打ち(小児)	2	大太鼓・太鼓打ち(小児)	2
大太鼓・太鼓堂持ち	2	大太鼓・太鼓堂持ち	2
小太鼓打ち	1	小太鼓打ち	1
笛吹き	8	笛吹き	8
鼓打ち	8	鼓打ち	8
鼻高	1	鼻高	1
計	59人	計	59人
出典：祭礼挙行資料		出典：祭礼挙行資料	

出典：祭礼挙行資料

おわりに

概観したように民俗芸能は、われわれの思った以上に変化してきた。とくに、昭和20～30年代までは新民謡運動にみるような、現代の眼で見れば、かなり思い切った創造的な形成があった。原型保存を第一にする、こんにちの文化財保護の方法は、変化という民俗芸能の本来的な特徴を無視して、文字通り制度の枠にはめ込んでしまう²²。はたして、変化は民俗文化財にとってマイナスなのだろうか。発展というプラス面に評価することはまちがいのだろうか²³。YOSAKOIソーラン祭り（北海道札幌市）のように、実際に、祭礼を創出し、しかも、成功している事例²⁴もあるのだ。

指定は、「凍結保存」²⁵になるだけでなく、むしろ、積極的に変化の引き金になり得る。例えば、指定のために伝承者や文化行政担当者等が改変（意識・無意識は別として）する事例も報告されている²⁶。

加えて、国・都道府県・市町村という指定の階梯に、2009年からユネスコ無形文化遺産が加わった。日本国内の文化財保護法における指定制度とユネスコの登録制度とは、レベル的な関連づけがあるわけではないが、海外からの評価付けに弱い日本²⁷では、今後、ユネスコ無形文化遺産の権威化が容易に想像される²⁸。当初、重要無形文化財・重要無形民俗文化財・選定保存技術のうち原則として指定年の早いものから順に推薦するとしていた国は、登録数の制限等のユネスコの対応を受けて、指定枠外の「和食」（2013年登録）や既登録案件に複数の指定文化財を追加する拡張提案をした「和紙」（2014年登録）など、日本政府としての提案方針を変更させている²⁹。

本稿で紹介したように、岐阜県には、芸能史的に興味深い民俗芸能が広域的に伝承され、いまなお、活発な上演が行われている。過疎傾向とはいえ、伝承者等の意識も高い。その行く末を案じつつも期待している、公立博物館を含む文化財保護に携わるひとりとして、今後の動向に注意深い眼を向けたいと思っている。

¹ 例えば、有形文化財では、[国立歴史民俗博物館，2012] [日高真吾，2012] が文化財レスキュー活動を概括している。無形民俗文化財では、[東日本大震災民俗文化財現況調査実行委員会（事務局：さいたま民俗文化研究所），2012] [東日本大震災民俗文化財現況調査実行委員会（事務局：さいたま民俗文化研究所），2013]（以上、岩手県），[民俗芸能学会福島調査団，2014]（福島

県），[無形文化遺産情報ネットワーク，2014]（岩手・宮城・福島県）が刊行され、宮城県については、[宮城県地域文化遺産プロジェクト（調査：東北大学東北アジア研究センター），2013] でデータベースを公開、かつ、[高倉浩樹他，2014] で論考とシンポジウムのまとめを読むことができる。

² 本稿では、原則として、神事と奉納芸能をまとめて「祭礼」、芸能のみを「民俗芸能」とする。なお、「民俗芸能」については、「郷土芸能」「伝統芸能」「無形民俗文化財」等さまざまに呼称されてきたが、本稿では制度および制度史に言及する場合を除き、原則として「民俗芸能」を用いる。

³ 前掲[高倉浩樹他，2014]など。対して、ボランティア元年となった阪神・淡路大震災時の復興支援の対象は多文化共生事業が主だった。[小島多恵子，2014] 参照。

⁴ [山泰幸，2006]

⁵ 当該分野における成果としては、今のところ、社会学領域が民俗学に先行している。[植田今日子，2013] [山口幸夫，2013] 参照。

⁶ 祭礼名の表記は地域で用いられているもの、指定文化財については指定名称を用いるが、読みやすさを考慮して、一部、統一した（「踊り」と「踊」など）。

⁷ [南本有紀，2014] [大垣市教育委員会，2014]

⁸ 用字は「車」編に「山」。

⁹ 批判する意図はないが、いうまでもなく、これなどは祭礼執行の根幹部分の大きな変容である。

¹⁰ [＜自治はどこへ＞「限界集落の星」転落 29歳町議の逮捕，2014]

¹¹ [星野紘，2012] [星野紘，村の伝統芸能が危ない，2009] [澁谷美紀，2006] 参照。

滋賀県民俗文化財保護ネットワークフォーラム「民俗文化の多様な継承の形を求めて 地域社会の今とまつり」（2014年11月8日，甲賀市碧水ホール），東京文化財研究所無形文化遺産部 第9回無形民俗文化財研究協議会「地域アイデンティティと民俗芸能 移住・移転と無形文化遺産」（2014年12月5日，東京文化財研究所）では、滋賀県・和歌山県・山梨県の過疎集落における民俗芸能継承の事例報告があり、今後の保護施策について討議された。

また、現在、村上忠喜（京都市文化財保護課）等声掛け人が「民俗文化財の保護施策に、研究者としてのスタンスをもって携わる方々の意見交換について」（2014年10月12日）呼びかけを行っている。

¹² 東京文化財研究所無形文化遺産部 第9回無形民俗文化財研究協議会「地域アイデンティティと民俗芸能 移住・移転と無形文化遺産」(2014年12月5日,東京文化財研究所)における総合討議でのコメンテーター・高倉浩樹の報告より。

¹³ [山路興造, 2002]

¹⁴ これについては,さまざまな論考がなされいて,主なものは以下のとおり.[植木行宣他, 2007][菊地暁, 2001][才津祐美子, 1996]

¹⁵ [村上忠喜, 2013]など。

¹⁶ 「文化財保護法の一部改正について」(文化財保護委員会事務局から各都道府県教育委員会教育長あて通達)(1954年6月22日 文委企第50号)[宮田繁幸, 2002]以下,「」内は引用。

¹⁷ [俵木悟, 民俗芸能の伝承組織についての一試論「保存会」という組織のあり方について, 2011]

¹⁸ [川村清志, 2013][坪井秀人, 2006]

¹⁹ 1970年代には新興団地の第二世代が,町内のよりどころとして新規に祭礼を創出する動きがあった[玉野和志, 2005]。冒頭の東日本大震災からの復興として祭礼が優先されるようすを彷彿させる。

²⁰ [中村茂子, 2011]

²¹ [大和町, 1988]

²² [川村清志, 2013][藤本愛, 2011]

²³ [俵木悟, 2006]は,変化する民俗芸能を肯定的にとらえ,文化財保護の従事者に「変化の是非を問うよりも,変化を生きる民俗芸能に対して,我々が貢献できることは何かと問うこと」を提案している。

²⁴ [福間裕爾, 2000]によれば,北海道では内地から移植された民俗芸能が多数分布しており,これまで研究対象とされてこなかったが,近年,整理・研究されるようになった。舟山直治「北海道への移住と民俗芸能」(東京文化財研究所無形文化遺産部 第9回無形民俗文化財研究協議会「地域アイデンティティと民俗芸能 移住・移転と無形文化遺産」)では,236件が図表に整理,発表された。

²⁵ [藤本愛, 2011]

²⁶ [金賢貞, 2013][由谷裕哉, 2007]

なお,民俗芸能以外の事例報告としては,[大平晃久, 2005][斎藤純, 1999]がある。

²⁷ [(ニュースQ3)「モンドセレクション受賞」っておいしいの?, 2015]によると,モンドセレクション(本部:ベルギー)の2014年度受賞のうち,ヨーロッパ125社に

対してアジアは808社,うち7割が日本であるとし,海外の評価に弱い日本社会の傾向を理由に挙げている。

²⁸ [川野裕一郎, 2014][村上忠喜, 2013]

²⁹ [宮田繁幸, 岐路に立つ無形文化遺産保護条約, 2012]

参考文献

<自治はどこへ>「限界集落の星」転落 29歳町議の逮捕。(2014年12月18日)。毎日新聞。

(ニュースQ3)「モンドセレクション受賞」っておいしいの?(2015年1月9日)。朝日新聞。

菊地暁。(2001)。民俗文化財研究協議会の軌跡。著:菊地暁,柳田國男と民俗学の近代。吉川弘文館。宮城県地域文化遺産プロジェクト(調査:東北大学東北アジア研究センター)。(2013年12月24日)。参照日:2015年1月9日,参照先:みやしんぶんデータベース(宮城県における東日本大震災で被災した無形民俗文化財調査成果データベース):<http://mukeidb.cneas.tohoku.ac.jp/TopPage;jsessionid=FF8770DF5C927C8D19F58E2C2D6EEA84?0>

宮田繁幸。(2002年7月23日)。文化財としての民俗芸能。参照日:2015年1月9日,参照先:<http://www.tobunken.go.jp/~geino/pdf/kaki/27kaki1.pdf>

宮田繁幸。(2012)。岐路に立つ無形文化遺産保護条約。無形文化遺産研究報告 6号。

玉野和志。(2005)。お神輿と町内社会の世代交替。著:玉野和志,東京のローカル・コミュニティ。東京大学出版会。

金賢貞。(2013)。「創られた伝統」と生きる 地域社会のアイデンティティ。青弓社。

高倉浩樹他。(2014)。無形民俗文化財が被災すること 東日本大震災と宮城県沿岸部地域社会の民俗誌。新泉社。

国立歴史民俗博物館。(2012)。被災地の博物館に聞く 東日本大震災と歴史・文化資料。吉川弘文館。

才津祐美子。(1996)。『民俗文化財』創出のディスカール。待兼山論叢 日本学編 30号。

斎藤純。(1999)。もう一つの桃太郎神社 岐阜県加子母村における一小祠の成立。著:日本昔話学会,現代語り手論 昔話—研究と資料— 27号。三弥井書店。

- 山口幸夫．(2013)．コミュニティを核とする復興 地域福祉資源としての伝統芸能・祭 大槌町を例に．社会事業研究 52号．
- 山泰幸．(2006)．「象徴的復興」とは何か．先端社会研究 5号．
- 山路興造．(2002)．京都・民族芸能の今 デジタル・アーカイブをめぐる．アート・リサーチ 2号．
- 小島多恵子．(2014)．ふるさとをつくる アマチュア文化最前線．筑摩書房．
- 植田今日子．(2013)．なぜ大災害の非常事態下で祭礼は遂行されるのか 東日本大震災後の「相馬野馬追」と中越地震後の「牛の角突き」．社会学年報 42号．
- 植木行宣他．(2007)．民俗文化財 保護行政の現場から．岩田書院．
- 星野紘．(2009)．村の伝統芸能が危ない．岩田書院．
- 星野紘．(2012)．過疎地の伝統芸能の再生を願って 現代民俗芸能論．国書刊行会．
- 清水昭男．(2009)．美濃地方郡上地区の御鋤祭り 順村の内容に芸能史を添えて．まつり 71・72合併号．
- 川村清志．(2013)．近代に生まれた「民謡の里」 麦屋節とこきりこ唄を中心に．著：青木隆浩，地域開発と文化資源．岩田書院．
- 川野裕一郎．(2014)．文化財行政の抱える問題 島根県佐陀神能の事例から．社会学研究科紀要 77号．
- 村上忠喜．(2013)．文化財保護と民俗 これまでの歩みと今後の課題．著：八木透，新・民俗学を学ぶ 現代を知るために．昭和堂．
- 大垣市教育委員会．(2014)．大垣祭総合調査報告書．大垣市教育委員会．
- 大平晃久．(2005)．創出されたヘリテイジ 岐阜県可児市明智城跡を事例に．東海女子大学紀要 25号．
- 大和町．(1988)．お鋤祭り．著：大和町，大和町史 通史編 下．大和町．
- 中村茂子．(2011)．「かけ踊り」再考．実践女子大学美術美術史学 25号．
- 坪井秀人．(2006)．感覚の近代．名古屋大学出版会．
- 東日本大震災民俗文化財現況調査実行委員会（事務局：さいたま民俗文化研究所）．(2012)．東日本大震災民俗文化財現況調査報告書 岩手県Ⅰ．東日本大震災民俗文化財現況調査実行委員会．
- 東日本大震災民俗文化財現況調査実行委員会（事務局：さいたま民俗文化研究所）．(2013)．東日本大震災民俗文化財現況調査報告書 岩手県Ⅱ．東日本大震災民俗文化財現況調査実行委員会．
- 藤本愛．(2011)．無形民俗文化財の調査記録に関する提言 奈良県の祭り・行事および民俗芸能の調査を通して．奈良女子大学文学部研究教育年報 8号．
- 南本有紀．(2014)．大垣祭 祭りの担い手と再生について．岐阜県博物館調査研究報告 35．
- 日高真吾．(2012)．記憶をつなぐ 津波被害と文化遺産．千里文化財団．
- 俵木悟．(2006)．民俗芸能の変化についての一考察．著：東京文化財研究所芸能部，民俗芸能の上演目的や上演場所に関する調査研究報告書．東京文化財研究所芸能部．
- 俵木悟．(2011)．民俗芸能の伝承組織についての一試論「保存会」という組織のあり方について．著：東京文化財研究所無形文化遺産部，無形民俗文化財の保存・活用に関する調査報告書．東京文化財研究所無形文化遺産部．
- 福間裕爾．(2000)．現代の祭りにおける「伝承」のありかた 北海道芦別市の健夏山笠を題材に．福岡市博物館研究紀要 10号．
- 民俗芸能学会福島調査団．(2014)．福島地域の無形民俗文化財被災調査報告書 2011～2013．民俗芸能学会福島調査団．
- 無形文化遺産情報ネットワーク．(2014)．311復興支援 無形文化遺産情報ネットワーク報告書 東日本大震災被災地域における無形文化遺産とその復興．東京文化財研究所無形文化遺産部．
- 木村直樹．(2007)．御鋤祭考 民衆の伊勢信仰．樹林舎．
- 由谷裕哉．(2007)．文化財指定と祭礼の復活 二上射水神社築山行事の場合．二上山研究 4号．
- 澁谷美紀．(2006)．民俗芸能の伝承活動と地域生活．農山漁村文化協会．

加茂郡八百津町採集の石器類

Introduction to Stone-tools Collected at Yaotsu-town Kamo-district

長屋幸二¹

*Koji Nagaya*¹

¹岐阜県博物館

要 旨

ナイフ形石器文化終末期, 東海西部地域では鋸歯状の刃部を有する特徴的なスクレイパーが見られる。当館に収蔵されている八百津町越水遺跡採集の資料にも同様のスクレイパーがある。県内では希少な旧石器時代資料というだけでなく, 時代を限定できる示準化石的な扱いも可能な資料である。

また, 当館蔵の八百津町野上採集の下呂石石核は質量790gと大型であり, 寄贈時には礫器として登録されていた。礫器とみなされた背景には, 昭和50年代のパラダイムがあったことがうかがわれる。八百津町内で採集されたこれらの石器について紹介する。

はじめに

当館が収蔵する考古資料は, 個人による地表面採集品などが主であり, その多くは未報告である。こうした館蔵資料を研究活動の俎上に載せるため, 順次観察, 図化し, 資料紹介を行っている。今回は, 加茂郡八百津町越水遺跡, 同町野上で採集された石器について紹介する。

1. 越水遺跡について

越水遺跡は, 加茂郡八百津町久田見野黒に所在する(第1図)。八百津町久田見は老年期の高原地帯で, 木曾川河岸の段丘面とは400mほどの比高差がある。

越水遺跡は久田見高原の南部, 南向きの緩斜面に位置する。昭和37年以降の調査で, ナイフ形石器や彫刻器, スクレイパー, 有舌尖頭器, 石鏃など旧石器時代から縄文時代草創期, 縄文時代早期におよぶ数百点の石器・土器片が採集されている(八百津町1976)。

ナイフ形石器は石刃や不定型な縦長剥片の二側縁に調整を加えた小形で切出形を呈し, ナイフ形石器文化の終末期に位置付けられる。他時期のナイフ形石器は見られず, 旧石器時代の資料としては比較的まとまりの良い石器群である。当該期に位置づけられるナイフ形石器以外の石器としては, 厚手の剥片に桶状剥離を施したのみのシンプルな形態の彫刻器や, 厚手の縦長剥片の端部に丁寧な調整を施して刃部を弧状に整えた拇指状搔器などが報告されている。

2. 越水遺跡採集の館蔵資料について

館に収蔵されている資料は, 昭和57年5月に, 当時の考古担当学芸員徳松正広によって採集されたものである。スクレイパー2点, 楔形石器1点, 打面再生剥片1点, 大小の不定型な剥片46点の計50点からなる。下呂石3点, ホルンフェルス2点, 安山岩1点, 44点がチャート岩で, チャート岩が卓越する。

スクレイパー(第3図1・2)

1はチャート岩製のスクレイパーである。光沢ある暗青灰色の緻密な石材であるが, クリーム色のやや軟質な部分が縞状に入る。厚手の石刃を素材に, 両側縁に急角度の調整で刃部を作出している。

背面右下には下方からの剥離面が見え, 両設打面により作出された石刃のようである。バルブは大きく膨らむが, 打面は薄かったことが側面形から想定でき, 熟練した技術により作出されたことがうかがえる。右側縁と打面部は, 大きく厚い調整を適当な間隔をもって施すことにより凸部が鋭く尖る鋸歯状に仕上げている。左側縁は中位に厚めの調整を数枚施してノッチを一箇所成形しているが, それ以外は薄めの調整を密に施し, 凸部は尖らせない。端部は2回以上の折断行為により除去され, その折断面から背面稜部に2枚の平坦剥離が深く施されている。これら端部の加工が装着するために厚さなどを調整する目的であるなら, 石器を挟み込むかはめ込む形状

の柄に装着され用いられたことが想定される。長さ 41mm, 幅 24mm, 厚さ 11mm, 質量 13g.

2は赤色のチャート岩製スクレイパーである。石刃の右側縁の上半に厚めの調整を急角度に施して、凸部が鋭く尖る鋸歯状の刃部を作出している。右側縁下半は、密な調整でやや鋭角の刃部となる。頭部は左右両側縁からの調整によりピック状の凸部を作出している。腹面側にも平坦な剥離を施すが、ドリル状に尖らせることは意図

しておらず、むしろ当該期のナイフ形石器にしばしば見られる基部を細く舌状に伸ばし、腹面に平坦剥離を施す調整に近い。左側縁は石刃のエッジがそのまま残されることから、ナイフ形石器を意識した調整ともとらえられる。端部は折断により除去されているが、主剥離面のリングがほぼまわることと折断部の薄さから、折り取った部分はそれほど大きくはないことが読み取れる。長さの調整等ではなく、形状を直線的に成形することが目的で



第1図 資料採集地（八百津町越水遺跡・野上）



第2図 八百津町野上周辺の遺跡

あったようである．長さ28mm，幅14mm，厚さ6mm，質量2g.

楔形石器（第3図3）

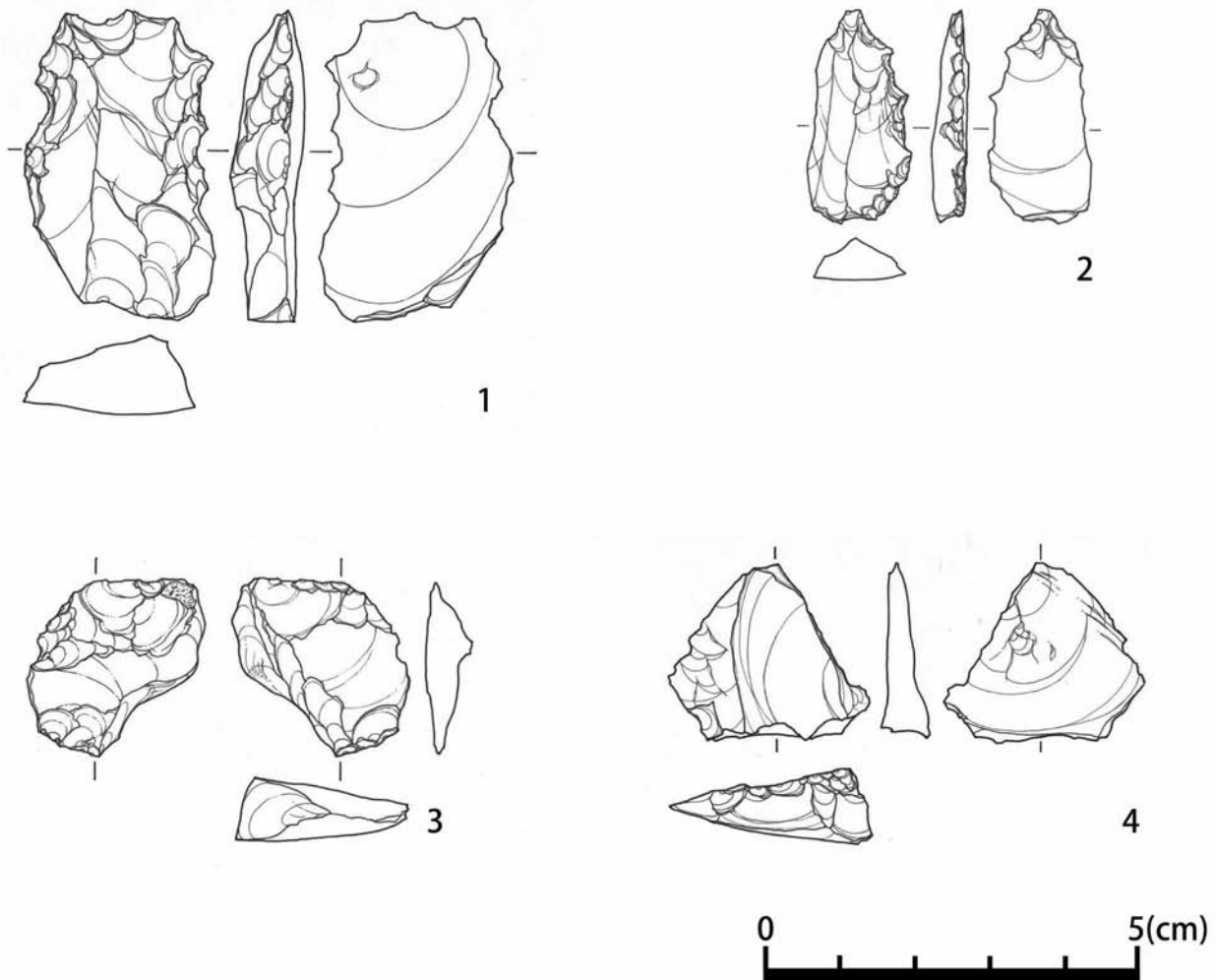
3は下呂石製の楔形石器である．風化は浅く，表面右上部に残る礫面が平滑であることから，下呂石露頭近隣で採取された礫から作出された剥片を素材にしたものと考えられる．右側縁は下端からの加撃によるスポールで大きく欠損しているが，背腹面（表面下半の大きな剥離面が素材背面で，裏面中央の大きな剥離面が素材腹面）のリングの方向が異なっており，ランダムな剥離による不定型な剥片が素材であったと考えられる．上下両端とも鋭いエッジとなっており，表裏に大小の平坦な剥離が入る．表面左側縁には潰れ状の小剥離が密に見られ，この縁辺も楔の作用部として用いられていたようであるが，上からの剥離に切られる．所属時期は，旧石器時代とは限らない．長さ24mm，幅18mm，厚さ8mm，質量4g.

打面再生剥片（第3図4）

赤色のチャート岩製．2枚の剥離面からなる平坦な打面から，寸詰まりの剥片を作出しているが，作業面の頭部が潰れ，打角が85度～100度と鈍角気味になっている．作業面の裏側からの打撃で打面部をとばした際の剥片である．打面再生剥片としたが，作業面からの加撃ではなく，打角の刷新に成功したかどうかは疑わしい．単に打面転移をした際の剥片かもしれない．右縁辺の全縁と左側縁の下部は折断により欠損している．所属時期は旧石器時代とは限らない．幅27mm，長さ24mm，厚さ9mm，質量4g.

3. 鋸歯縁搔器について

東海西部地域¹におけるナイフ形石器文化終末期の石器組成は，小形のナイフ形石器とスクレイパーを主体とする．スクレイパーは2つのタイプに類型化でき，一つが



第3図 八百津町越水採集資料（スクレイパー1・2、楔型石器3、打面再生剥片4）

既報告の拇指状搔器、もう一つが今回紹介した鋸齒縁搔器である(長屋 2006)。鋸齒縁搔器は、厚手の剥片の長軸の一边(縦長剥片であれば側縁、横長剥片であれば端部もしくは打面)に厚くて粗い急角度の調整を適当な間隔で加え、凸部が鋭く尖る鋸齒状の刃部を作り出す特徴的な形態である。

拇指状搔器は関東など東日本を中心に広く認められる形態であるのに対し、鋸齒縁搔器は東海西部地域に分布が濃く、西は大阪府八尾市の八尾南遺跡第2地点などでもみられる(原田・長屋ほか 1989)。岐阜県内では岐阜市寺田遺跡、椿洞遺跡、関市赤土坂遺跡、愛知県豊川市駒場遺跡、三重県大台町出張遺跡など、ナイフ形石器終末期の石器群には高い確率で伴っている。越水遺跡では従来報告されていなかったが、やはりこのタイプが伴うことが確認できた。鋸齒縁搔器は、当地域では時代を限定できる示準化石的な扱いも可能であろう。

4. 八百津町野上採集資料の詳細な採集地について

当資料に付されたメモによると、採集地は八百津町野上(坂下周辺)の道路わき。昭和49年5月25日、八百津中学校郷土史研究会のメンバー(メモには個人名が記載されている)が発見したとある。昭和51年5月5日(博物館の開館当初)に、郷土史研究会より寄贈を受けている。

八百津町野上は木曾川右岸の段丘面と、北側の山塊からの崖錘斜面が広がる地域である。山を深く刻み流れていた木曾川が濃尾平野に流れ出る地形的な境界にあたり、段丘面には造道、六ノ坪、坂下、厚朴、清水、権現堂、逆巻などの遺跡、崖錘斜面には東中長、湯田、栃木、宮後、ねきさし塚などの遺跡が覆い尽くすように分布している(第2図)。遺跡地図では、坂下遺跡が旧石器時代とされるほかは、全て縄文時代の遺跡として登録され(岐阜県教育委員会 1990)、町史では、木曾川右岸一帯には縄文時代前期以降の遺跡が多いとされている(八百津町史編纂委員会 1976)。

今回紹介する資料は下呂石の石核であるが、拳大より一回り大きなサイズで、メモには礫器と記されている。資料が採集された昭和40年代の終わりから50年代には、多治見市西坂遺跡のチャート岩が前期旧石器時代の礫器ではないかという議論があり、それを反映しているのであろう。当時は、こうした礫器が前期旧石器時代の所産であるかどうかは議論が分かれていたものの、礫器文化をナイフ形石器文化に先行する一つの段階として積極的に評価する流れにあったようである。当館の開館

時にも、そうした認識で展示が行われていた。

坂下周辺の道路わきというメモの記載から、国道418号線沿いにある坂下遺跡が採集地の候補としてあげられる。坂下遺跡が旧石器時代遺跡として登録されているのは、当資料を礫器文化の所産として評価したことによるのであろう。

5. 八百津町野上採集の下呂石製石核について

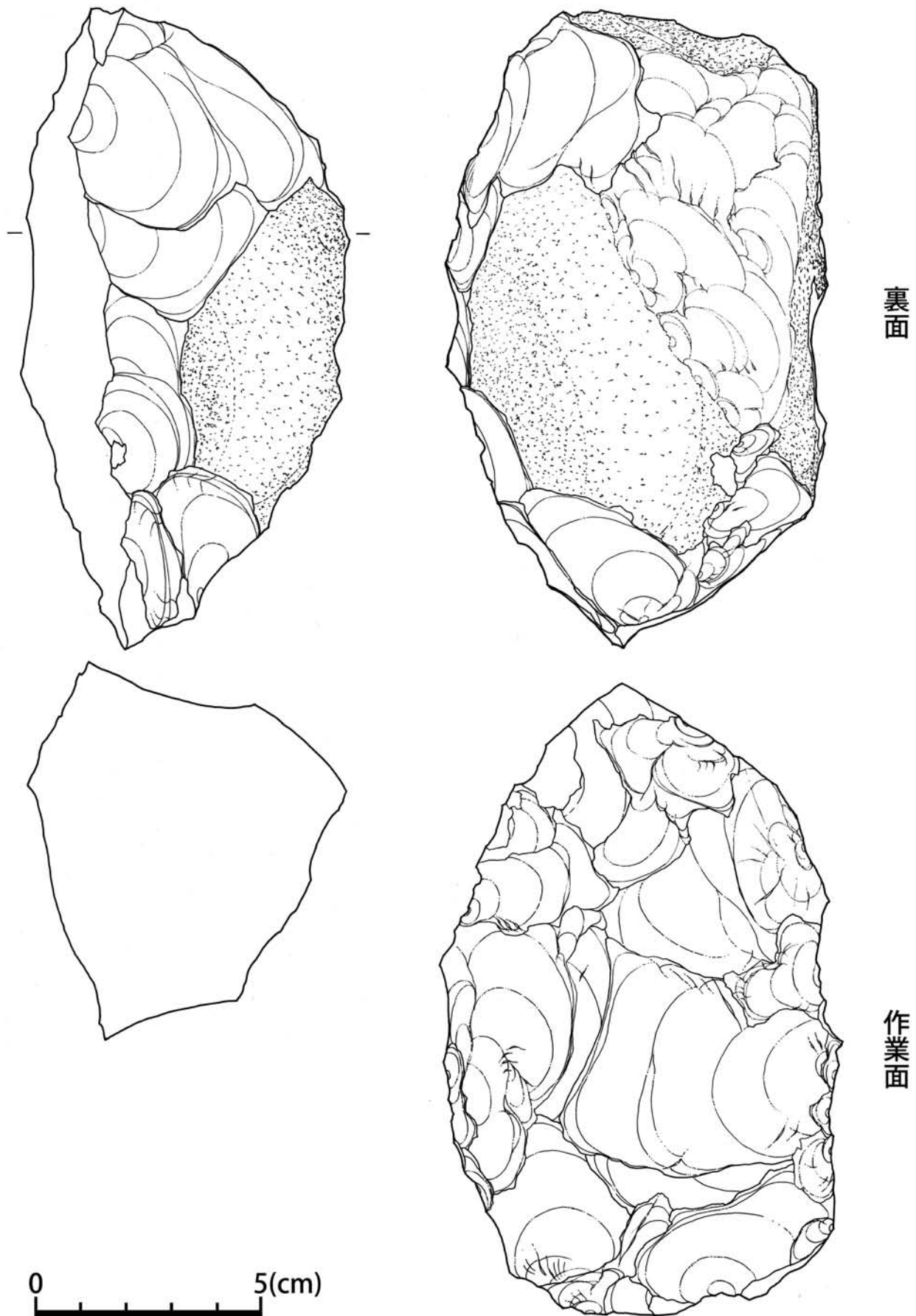
当資料は風化の浅い下呂石製で、裏面には平滑な礫面が大きく残る。素材は下呂市湯ヶ峰の下呂石露頭近隣で採集された塊状の角礫のようである。

礫器ではなく石核である。刃部作出ととらえられた加工は、剥片作出と打面調整の痕である。搬出資料については知られておらず、時期の特定はできない。ただし、越水遺跡の項で見たとおり、旧石器時代の八百津町野上ではチャート岩の利用が卓越し、下呂石の利用は限られている。したがって、旧石器時代の所産とは言い切れず、縄文時代のものである可能性が高い。

礫の一面に作業面を設定し、周囲より剥離を行い、不定型な剥片を作出している。最大60mm×45mmほどの剥片が得られている。裏面の左側縁に施された数枚の剥離は打面調整であるが、山形の稜を作り出すことが目的ではないようである。剥片作出のための打撃は稜部・平坦部関係なく行われている。これはおそらく打角の調整が目的であろう。これにより、55度～75度の打角に揃えられている。裏面右側縁の礫面と作業面の打角も60度～70度である。

裏面中央の稜から右に広がる剥離面は、風化の度合いこそ他の剥離面と大差ないものの、自然為の衝撃による剥離痕であると認定した。その理由として、打角が110度から118度と鈍角であることとともに、複数のバルブが観察され、それぞれの打撃による剥離が完遂していないことがあげられる。鈍角剥離が自然為の証左とならないことは実験等によって示されているが(長井 2010)、後期旧石器時代以降はあえて選択しない技術である。また、衝撃によるクラックは剥離が成立しなくても礫に残り、次の衝撃による剥離に影響を及ぼすことから、広い範囲に不成立の剥離を残すことは何らかの合理的な理由が必要となる。こうした視点は、自然為の剥離を区別する目安となるであろう。

長軸 139mm, 短軸 85mm, 厚さ 67mm, 質量 790g.



第4図 八百津町野上採集石核

【引用・参考文献】

岐阜県教育委員会, 1990, 改訂版岐阜県遺跡地図

長屋幸二, 2006, 「東海地域西部と近畿地域のナイフ形石器終末期」『石器文化研究』13

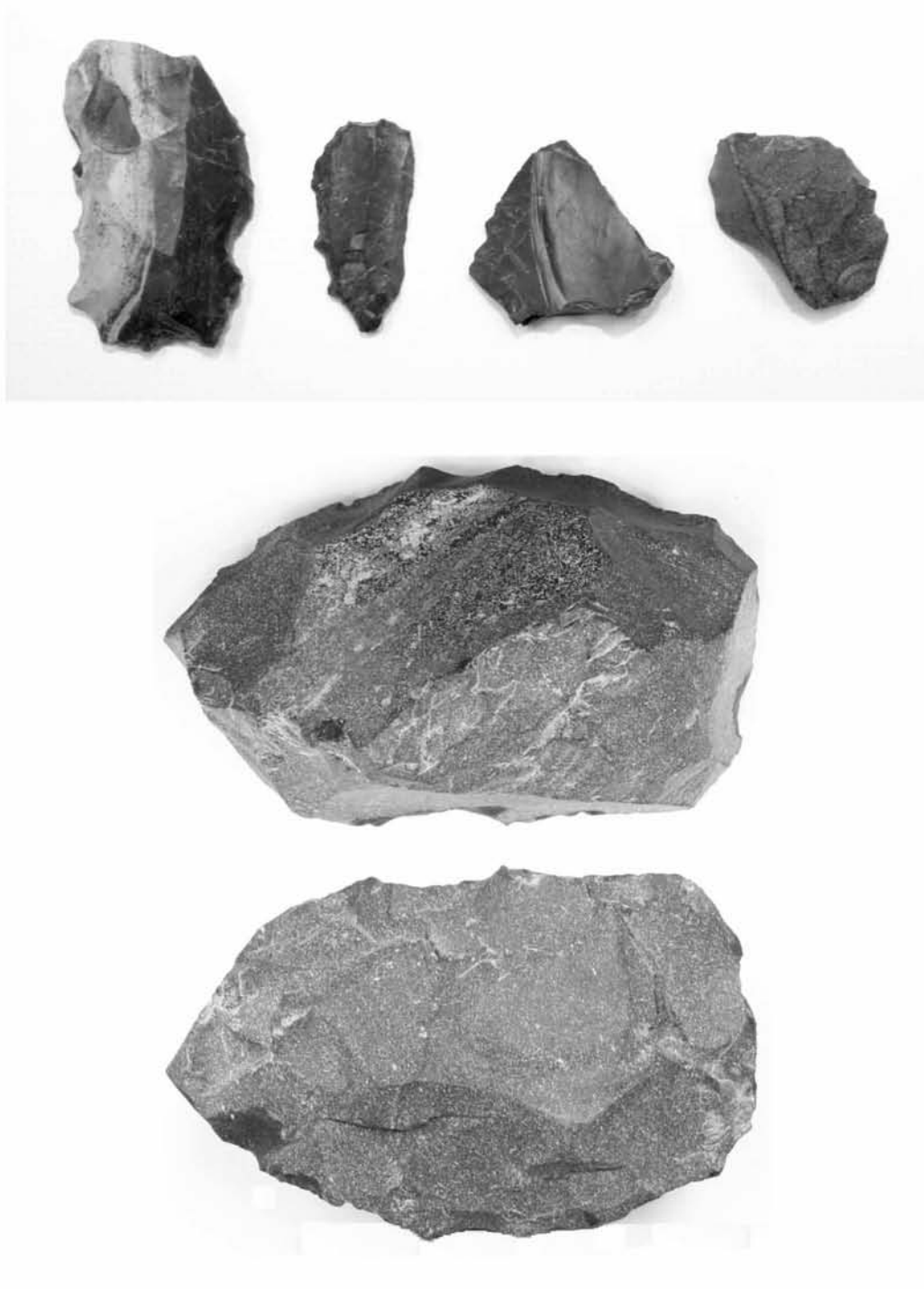
長井謙治「前期・中期旧石器時代の石器製作技術」『旧石器時代研究の諸問題』日本旧石器学会

八百津町史編纂委員会, 1976, 第3章原始時代. 八百津町史通史編

原田昌則・長屋幸二・三原慎吾・松藤和人, 1989, 「八尾南遺跡第2地点の旧石器」『旧石器考古学』38, 旧石器文化談話会

脚注

i 伊勢湾に流れ込む河川の流域は一つの地域的まとまりとしてとらえられる。現在の行政区画では、三重県・愛知県と岐阜県美濃地域を主とする地域である。



第5図 八百津町越水遺跡採集石器（上段）、八百津町野上採集石核（下段）

特別展「奇なるものへの挑戦 明治大正／異端の科学」について 参考文献リストと年表

The Introduction of Exhibition "Challenging heretic scientists in Meiji and Taisho era"
: A List of References

南本有紀¹

Yuki Minamimoto¹

¹岐阜県博物館

要 旨

平成26年度特別展「奇なるものへの挑戦 明治大正／異端の科学」(2014年7月4日～8月31日)について、展覧会の概要と企画準備にあたって参照した文献および新聞記事リスト、それらによって作成した年表を示す。

近現代のオカルトブームという社会現象を取り上げた当該展では、さまざまなトピックを可能な限り幅広く取り上げ、幸い、多くの反響を得たが、広範なテーマを盛り込んだため、展覧会場のスペースや図録の紙幅など、物理的制約で割愛せざるを得なかったトピックも少なくなかった。本稿は、そのうち照会も多かった参考文献リストと年表をここに掲載し、大方の便宜に資することを意図するものである。

1 はじめに

平成26年度夏期の岐阜県博物館特別展「奇なるものへの挑戦 明治大正／異端の科学」(2014年7月4日～8月31日)では、近現代のオカルトブームを取り上げた。2000年代以前には際物扱いだった妖怪関係の展示は、近年、博物館では夏の定番メニューとなっており、ここ数年では、美術館でも大規模展覧会が開催され、怪奇現象の科学的仕組みを読み解く科学館の関連展示も散見されるようになった。とはいえ、これらの対象は近世以前に限定され、明治以降の動向が示されることはほとんどない。当館特別展は、その意味で、ほぼ初の試みとなった。

このため、開場前から一部で評判となり、会期中もブログ・ツイッター等で数多く取り上げられ、当該分野への関心の深さと、情報への飢餓感が印象に残った。この反響の大きさは、担当者としては非常にうれしかった。というのも、前述のように前例の類似展がほぼ皆無のため、また、博物館展示としては王道とはいえないがたいテーマのため、開催準備に非常に苦戦したからである。中でも、資料の所在情報等の、具体的な展示を組み立てるための最初の情報収集にはてこずらされた。開場後、図録の売り上げが好調だったのも、類似企画が見当たらないため、珍しい情報ツールとしての受容だったと思われる。図録

には、簡単な文献リストと年表を掲げたが、一般啓蒙用の読み物という刊行物の性質上、また物理的制約により多くを割愛せざるを得なかった。

ここに、展覧会企画準備時に参照した参考文献と、それらによって作成した年表を掲示し、大方の関心に応えたいと思う。

2 展覧会の内容

当該展はひとことで概括するのが難しいため、チラシには下記のようなキーワードを多数掲載し、全体の雰囲気を感じ取ってもらうことを意図した。

新しき科学 怪談 神降ろし 観念力 感応術 気合術 記憶術 危険術 狐憑き 口裂け女 健康法 交霊・降霊 こっくりさん・テーブルターニング 催眠術 自動書記 修養 神経衰弱・神経病・ヒステリー 神智学 神通力 神秘主義 心理学 心霊学 静坐法 精神 精神 医学 精神療法 生命主義 千里眼・天眼通 超科学 ツチノコ 電気 念写 脳髄 煩悶青年・煩悶の時 変態心理 見 世物小屋・お化け屋敷 メスメリズム・動物磁気 憂鬱 立身出世 霊界通信 レイキ 霊子 霊術 霊動 (50音順)

企画者としては、「オカルト現象」ではなく「オカルトブーム」という近現代の社会現象・時代風潮を取り上げることを目的とした。そもそもの発想は、当該分野の歴史に岐阜県出身者・関係者が多くが登場することによ

る。岐阜県つながりだけでこのテーマにおける近現代史をひと通りたどることができるのである。表を参照いただきたい。

表1 展示構成

コーナー	テーマ	
1 奇なるものへの好奇心	1-1 こっくりさん 1-2 『妖怪博士』井上円了	神智学、スピリチュアリズム 「妖怪学」
2 催眠術ブーム	2-1 催眠球 2-2 ハウツー本	精神研究会、紐育理学会 メスメリズム
3 東京帝国大学と心理学	3-1 心理学の黎明 3-2 心理学者・福来友吉	実験心理学、「変態心理学」 柳宗悦の卒業論文
4 千里眼ブーム	4-1 千里眼 4-2 千里眼事件	千里眼実験
5 九州帝国大学と精神医学	5-1 九州帝国大学の精神病棟 5-2 『ドグラ・マグラ』草稿	精神医学、コンボダネ 探偵小説
6 中村古峽と『変態心理』	森田草平	
7 その後の福来博士	7-1 変態心理研究の大家 7-2 教育者と心霊研究家 7-3 野原櫻州の念写実験	心霊学 東北心霊科学研究会
8 霊術ブーム	8-1 気合術（危険術） 8-2 元祖・桑原俊郎 松橋吉之助 8-3 カリスマ・田中守平 久米民十郎 片桐龍子 中国の催眠術ブーム 8-4 その他の霊術家（県内） 8-5 臼井麿男の霊気 8-6 日本心霊学会	修験と治療 霊術 佐藤久二、霊媒画 西邑靈光、星天学 渡邊藤文
9 健康法	9-1 岡田式静坐法 9-2 その他の健康法	岡田虎二郎 二木式・藤田式・川合式等
10 熊崎健翁の姓名学		五聖閣、>心道
読書コーナー		
11 奇なるものの行方	11-1 口裂け女 11-2 つちのこ	
12 奇なるものを楽しむ	12-1 見世物小屋 12-2 お化け屋敷	安田興行
体験コーナー (サポーター活動)	パネル（動物磁気とは／心理学とは／心理学の出現） 「生首」再現 「明治のこっくりさん」再現 「霊子板」レプリカ 「複式催眠球」レプリカ（岐阜工業高校自動車部）	
その他（サポーター活動）	オリジナルキャラクター 缶バッジプレゼント	
PR映像番組 ※割愛したテーマ	動画「催眠球」[念写]（岐阜工業高校報道放送部）怪談ブーム、神経衰弱・ヒステリー、心霊写真、近代仏教、報徳思想、学校の怪談、香具師	

また、準備期間中に『ドグラ・マグラ』草稿の発見があり¹、それが目玉展示の実現につながったり、会期前後を通じて世間を騒がせた STAP 細胞事件など、展覧会の内容にリンクする社会的関心の高まりなどもあり、振り返って、タイミング（運？）の良さを実感している。

3 展覧会の成果

コンセプト優先企画であったため、具体的な展示物の収集が最難関であった。すなわち、展覧会の成果は出品目録そのものといえるのだが、前述の『ドグラ・マグラ』初期草稿のほか、久米民十郎の霊媒画、野原櫻州と念写実験の関係、松橋吉之助旧蔵桑原俊郎資料等が準備中に続々と発見された。また、出展によって新たにわかったこともあった。大衆芸を研究している社会学者²から、見

世物芸のヴィジュアル例として借用・出陳した絵葉書に写っている人物が、江間式心身鍛練法・江間式気合術の江間俊一であることが、霊術研究の宗教学者³の指摘で判明した。これは、高度に専門細分化された既存の学問領域からはずれたテーマ選択により、否応なく横断的・学際的展示構成になった展覧会だからこそその成果だったと思う。スペシャリストばかりのこんにちの学界で、ジェネラリストたらざるを得ない学芸員（そのため学者世界では異端）の視点だからこそ発見のきっかけを提供できたのではなからうか。いい意味での総花的展示のラッキーなヒットとなった。

4 おわりに

とはいえ、近現代史の未踏のこの分野を具体的な資料で紹介するには、まだまだ取り上げることができなかつたテーマが多い。実をいうと、テーマとして取り上げたけれども、所蔵者に「オカルト」云々の際物扱いを忌避して協力を拒否されたこともあった。展覧会の中核部分のテーマ設定やタイトルからして致し方ない反応だったと思う。今後、テーマと議論の深化を待ちたい。

¹ 西日本新聞 2014 年 1 月 8 日など。

² 鶴飼正樹氏。

³ 吉永進一氏。

表2 参考文献（書籍）

書名	著書	出版者	出版年	所収論文(備考)	著者
無意識という物語	一柳廣孝	名古屋大学出版会	2014		
霊術家の黄金時代	井村宏次	ピング・ネット・プレス	2014		
現代オカルトの根源 霊性進化論の光と闇	大田俊寛	筑摩書房	2013		
東北アジア研究センター報告 8 身体的実践としてのシャマニズム	菊谷竜太	東北大学東北アジア研究センター	2013		
妖怪学の祖 井上円了	菊地章太	角川学芸出版	2013		
怪異・妖怪文化の伝統と創造 ウチとソトの視点から	国際日本文化研究センター	国際日本文化研究センター	2013	(第45回国際日本文化研究センター国際研究会報告要旨集)	
本の万華鏡第13回 千里眼事件とその時代	国立国会図書館	国立国会図書館	2013	http://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/13/	
東海の異才・奇人列伝	小松文生子	風媒社	2013		
脳病院をめぐる人びと	近藤祐	彩流社	2013		
超心理学 封印された超常現象の科学	石川幹人	紀伊国屋書店	2012		
現代台湾鬼譚 海を渡った「学校の怪談」	伊藤龍平	青弓社	2012		
ご家庭にあった本 古本で見る昭和の生活	岡崎武志	筑摩書房	2012	電気のふしぎ バラ色だった科学の未来	
日本の精神医療史 明治から昭和初期まで	金川英雄	青弓社	2012		
図説 異端の宗教書	久米晶史	新人物往来社	2012		
幕末明治見世物事典	倉田喜弘	吉川弘文館	2012		
ぼくらの昭和オカルト大百科 70年代オカルトブーム再考	初見健一	大空出版	2012		
岡田虎二郎先生生誕140年記念 静坐創始者 岡田虎二郎	田原静坐会	田原静坐会	2012		
野村純一著作集 7 世間話と怪異	野村純一	清文堂出版	2012	「口裂け女」の生成と展開 現代の妖怪 “口裂け女”事情 “口裂け女”の消息 都市型妖怪「口裂け女」 “革新派妖怪”口裂け女 なぜ三人姉妹の未っ子に 話のカギ握る未っ子	
文学の極意は怪談である 文豪怪談の世界	東雅夫	筑摩書房	2012		
幻想文学講義 「幻想文学」インタビュー集成	東雅夫	国書刊行会	2012	闇なる明治を求めて 現代英国心霊模様	前田愛 三浦清宏
世界の心霊写真 カメラがとらえた幽霊たち、その歴史と真偽	メルヴィン・ウィリン	洋泉社	2012		
オカルト 現れるモノ、隠れるモノ、見たいモノ	森達也	角川書店	2012		
妖怪手品の時代	横山泰子	青弓社	2012		
霊園から見た近代日本	浦辺登	弦書房	2011		
越境する漱石文学	坂元昌樹他	思文閣出版	2011	精神病者をどう描くか チェーホフ、中村古峯と漱石	佐々木英昭
方法としての心理学史 心理学を語り直す	サトウタツヤ	新曜社	2011		
新アジア仏教史 14 日本 4 近代国家と仏教	末木文美士	佼成出版社	2011	オカルティズムと仏教	吉永進一
熊崎健翁関係資料	藤井健志他	東京学芸大学藤井健志研究室	2011	(共同研究報告書)	
バラエティ化する宗教	石井研士	青弓社	2010		
闇のファンタジー	一柳廣孝他	青弓社	2010	「全国精神療法家大番附」 霊術家たちの最後の輝き 闇はすぐそこにある 諸星大二郎をめぐる	一柳廣孝 表智之
江戸幻獣博物誌 妖怪と未確認動物のはざままで	伊藤龍平	青弓社	2010		
古本探究 3	小田光雄	論創社	2010	水野葉舟と「心霊問題叢書」 心霊研究と出版社 浅野和三郎と大本教の出版 大本教批判者としての中村古峯	
妖怪学講義	菊地章太	講談社	2010		
妖怪文化の伝統と創造 絵巻・草紙からマンガ・ラノベまで	小松和彦	せりか書房	2010		
治療の場所と精神医療史	橋本明	日本評論社	2010		
遠野物語と怪談の時代	東雅夫	角川学芸出版	2010		
恵那市を知るまいか まちづくり歴史講座 田中守平其の二	宮崎光雄	武並コミュニティーセンター	2010	(講演会配布資料)	
遠野物語と21世紀 近代日本への挑戦	石井研士他	三弥井書店	2009	心霊データベースとしての「遠野物語」 神秘主義の視点から	一柳廣孝
幕末明治 百物語	一柳廣孝他	国書刊行会	2009		
魔界と妖界の日本史	上島敏昭	現代書館	2009		
日本の民俗 10 都市の生活 坐る力	内田忠賢他 齋藤孝	吉川弘文館 文藝春秋	2009	昭和 대중芸能史の一断面 人間ポンプを追って	鷗銅正樹
漱石先生への暗示	佐々木英昭	名古屋大学出版会	2009		
怪談異譚 怨念の近代	谷口基	水声社	2009		
江戸・都市の中の異界	内藤正敏	法政大学出版局	2009	見世物 歌舞伎の源流	
オカルトの惑星 1980年代、もう一つの世界地図	吉田司雄	青弓社	2009		
テレビと宗教 オウム以後を問い直す	石井研士	中央公論新社	2008		
女は変身する	一柳廣孝他	青弓社	2008	その後の太霊道 日本霊道会と機関誌「霊界」をめぐる	一柳廣孝
ツチノコの民俗学 妖怪から未確認動物へ	伊藤龍平	青弓社	2008		
怪奇と幻想への回路 怪談からJホラーへ	内山一樹	森話社	2008		
東大オタク学講座	岡田斗司夫	講談社	2008		

書名	著書	出版者	出版年	所収論文(備考)	著者
代表的日本人	齋藤孝	筑摩書房	2008	岡田虎二郎の静坐力	
オオカミ少女はいなかった 心理学の神話をめぐる冒険	鈴木光太郎	新曜社	2008		
生誕150年「不思議博士・井上円了」	中野区立中央図書館	中野区立中央図書館	2008	(企画展示 地域の著作者紹介 第5回 図録)	
日本けけ物史講座	原田実	楽工社	2008		
日本「霊能者」列伝	別冊宝島編集部	宝島社	2008		
近代スピリチュアリズムの歴史 心霊研究から超心理学へ	三浦清宏	講談社	2008		
恵那市を知るまいか 定期歴史講座 近代裏面史を彩った恵那出身のフィクサー 飯野吉三郎と田中守平	宮崎光雄	岩村公民館	2008	(講演会配布資料)	
科学とオカルト	池田清彦	講談社	2007		
霊はどこにいるのか	一柳廣孝他	青弓社	2007		
映画の恐怖	一柳廣孝他	青弓社	2007	「天命学院講習録」最後の気合術師・濱口熊嶽の教え	一柳廣孝
近代日本心霊文学セレクション 霊を読む	一柳廣孝他	蒼丘書林	2007		
フランス(心霊科学)考 宗教と科学のフロンティア	稲垣直樹	人文書院	2007		
現代幽霊論 妖怪・幽霊・地縛霊	大島清昭	岩田書院	2007		
旅芸人のいた風景 遍歴・流浪・渡世	沖浦和光	文藝春秋	2007		
憑依と近代のポリティクス	川村邦光	青弓社	2007	近代日本における憑依の系譜とポリティクス 明治期日本の知識人と神智学 憑依が精神病にされる時 人格変換・宗教弾圧・精神鑑定	川村邦光 吉永進一 兵頭晶子
紙芝居と(不気味なもの)たちの近代	姜綾	青弓社	2007		
スピリチュアリティの興隆	島蘭進	岩波書店	2007		
江戸の妖怪事件簿	田中聡	集英社	2007		
中原悌二郎と岡田虎二郎 自然の理法・悌二郎をめぐる作家達	田原市博物館	田原市博物館	2007	(図録)	
明治時代の人生相談	山田邦紀	日本文芸社	2007	(狐憑き・催眠術、記憶術)	
心理学を変えた40の研究 心理学の“常識”はこうして生まれた	ロジャー・R・ホック	ピアソン・エデュケーション	2007	催眠術をかけられたかのように行動する	
オカルトの帝国 1970年代の日本を読む	一柳廣孝	青弓社	2006		
感覚の近代	坪秀人	名古屋大学出版会	2006	山とシネマと 〈故郷を失った文学〉とスクリーンの中の異界	
妖怪は増殖する	一柳廣孝他	青弓社	2006		
日本人の妖怪観の変遷に関する研究 近世後期の「妖怪娯楽」を中心に	香川雅信	総合研究大学院大学	2006	(学位論文)	
日本人の異界観	小松和彦	せりか書房	2006	ケータイする異界 怪異譚の現在 ツチノコ論序説 妖怪・幻獣・未確認生物 明治期の新聞にみる怪異記事の動向と諸相	高岡弘幸 伊藤龍平 湯本豪一
幻想文学、近代の魔界へ	高木史人他	青弓社	2006	「怪談」と語りの近代	飯倉義之
開拓の村展示建造物からみた明治・大正期の生活文化史		北海道開拓の村	2006	北海道移住と伝統のかたち 秋田県を母村とする秋山家と松橋家を例に	黒川郁
江戸の妖怪革命	香川雅信	河出書房新社	2005		
〈変態〉の時代	菅野聡美	講談社	2005		
心理学の新しいかたち2 心理学史の新しいかたち	佐藤達哉	誠信書房	2005		
〈霊〉の探究 近代スピリチュアリズムと宗教学	津城寛文	春秋社	2005		
千里眼事件 科学とオカルトの明治日本	長山靖生	平凡社	2005		
日本の博覧会 寺下勅コレクション(別冊太陽133)	湯原公浩	平凡社	2005		
日本幻獣図説	湯本豪一	河出書房新社	2005		
明治ものの流行事典	湯本豪一	柏書房	2005	記憶術/コックリさん/催眠術/千里眼	
「学校の怪談」はささやく	一柳廣孝他	青弓社	2005		
心霊写真は語る	一柳廣孝	青弓社	2004		
心理主義時代における宗教と心理療法の内在的關係 に関する宗教哲学的考察	岩田文昭		2004	(科研費報告書)	
透視も念写も事実である 福来友吉と千里眼事件	寺沢龍	草思社	2004		
日本人の身・心・霊 近代民間精神療法叢書8	吉永進一	クレス出版	2004	解説 民間精神療法の時代	
街道の日本史29 名古屋・岐阜と中山道	松田之利他	吉川弘文館	2004	宗教と民衆運動	遠山佳治
日本の幻獣 未確認生物出現録	川崎市 市民ミュージアム	川崎市市民ミュージアム	2004		
新編中原中也全集 5 日記・書簡 解題篇	大岡昇平他	角川書店	2003	「療養日誌」解題/「千葉寺雑記」解題	
日本妖怪学大全	小松和彦	小学館	2003	1920年代,(心霊)は増殖する 化物屋敷再考 「私、きれい!?」 女性週刊誌に見られる「口裂け女」	一柳廣孝 橋爪紳也 マイケル・フォスター
流れを読む心理学史 世界と日本の心理学	サウトツヤ他	有斐閣	2003		
流れを読む心理学史：世界と日本の心理学	サウトツヤ他	有斐閣	2003		
中国のこっくりさん 扶鸞信仰と華人社会	志賀市子	大修館書店	2003		
〈癒す知〉の系譜 科学と宗教のはざま	島蘭進	吉川弘文館	2003		
ディスプレイ100年の旅 乃村工藝社100年史	社史編纂室	乃村工藝社	2003		
柳宗悦 時代と思想	中見真理	東京大学出版会	2003		
うわさの遠近法	松山巖	筑摩書房	2003	超能力の発見 千里眼事件 妖怪学と失念術	
運動+(反)成長 身体医文化論2	武藤浩史他	慶応義塾大学出版会	2003	漱石と神経衰弱と退化と	仙葉豊
見世物はおもしろい	湯原公浩	平凡社	2003		

特別展「奇なるものへの挑戦 明治大正／異端の科学」について 参考文献リストと年表

書名	著書	出版者	出版年	所収論文(備考)	著者
日本妖怪学大全 国際日本文化研究センター共同研究・成果論文集	小松和彦	小学館	2003	三遊亭円朝の怪談に隠された“王権と幽霊”の物語	内藤正敏
怪獣はなぜ日本を襲うのか?	長山靖生	筑摩書房	2002		
スピリチュアリティを生きる 新しい絆を求めて	梶尾直樹	せりか書房	2002	日本の霊的思想の過去と現在 カルトの場の命運 見世物一座で働く 大寅興行社の(絆)	吉永進一 門伝仁志
岩波講座近代日本の文化史5 編成されるナショナリズム	小森陽一他	岩波書店	2002	日常性／異常性の文化と科学 脳病・変態・猟奇をめぐって 大本霊学と日蓮主義 近代日本の「公共宗教をめざすもの」	川村邦光 津城寛文
つながりの中の癒し セラピー文化の展開	田邊信太郎他	専修大学出版局	2002		
ツチノコの正体	手嶋靖鈴	三一書房	2002		
妖怪あつめ	湯本豪一	角川書店	2002		
妊娠するロボット 1920年代の科学と幻想	吉田司雄他	春風社	2002	霊界からの声	一柳廣孝
日本における心理学の受容と展開	佐藤達哉	北大路書房	2002		
日本における怪異・怪談及び妖怪文化に関する総合的研究	小松和彦	国際日本文化研究センター等	2002	怪異伝承の収集とカード化の過程	真鍋昌賢
井上円了 妖怪学全集 6	井上円了	柏書房	2001	解説 井上円了の妖怪学の歴史的意義 解説 井上円了の妖怪学とそれ以後 解説 井上円了と妖怪学の誕生	板倉聖宣 小松和彦 三浦節夫
『変態心理』と中村古峯 大正文化への新視角	小田晋他	不二出版	2001		
日本のアヴァンギャルド芸術 〈マヴォ〉とその時代	五十殿利治	青土社	2001	〈タミの夢〉とモダニズム 久米民十郎とエズラ・パウンド	
宗教心理の探究	島蘭進他	東京大学出版会	2001		
癒しと救い アジアの宗教的伝統に学ぶ	立川武蔵	玉川大学出版部	2001	日本近現代における(癒しの技法) 手かざし(浄霊)の誕生について	正木晃
偏見というまなざし 近代日本の感性	坪井秀人	青弓社	2001	近代的視線と身体が発見 明治末・超感覚を定位する 催眠術・千里眼・科学 ヒステリー メディアのなかの病	佐藤(佐久間) りか 一柳廣孝 船越幹央
地方発 明治妖怪ニュース	湯本豪一	柏書房	2001		
逆立ちしたフランケンシュタイン 科学仕掛けの神秘主義	新戸雅章	筑摩書房	2000		
見世物稼業 安田里美一代記	鶴岡正樹	新宿書房	2000		
実験心理学の誕生と展開	芋阪直行	京都大学学術出版会	2000		
「健康」の日本史	北澤一利	平凡社	2000		
心霊写真	小池社彦	宝島社	2000		
怪異の民俗学 2 妖怪	小松和彦	河出書房新社	2000	日本における「化物屋敷」観 妖怪と現代文化 子どもと妖怪 学校のトイレ空間と怪異現象	橋爪紳也 小松和彦 常光徹
記憶する民俗社会	小松和彦	人文書院	2000	そぞろにおそろしくおぼえて 近世怪談にみる怪異空間の諸相 (1990初版)	内田忠賢
鎮魂行法論：近代神道世界の靈魂論と身体論	津城寛文著	春秋社	2000		
日本怪奇幻想紀行 4 芸能・見世物録		同朋舎	2000	お化け屋敷の恐怖空間に震える	橋爪紳也
見世物小屋の文化誌	鶴岡正樹他	新宿書房	1999		
宗教と生活	大塚信一	岩波書店	1999	近代日本におけるオカルト・ブームと新宗教 婦人雑誌と占い 雑誌「婦人世界」に見る占いの情報化 東洋医学と民間療法	沼尻正之 鈴木健太郎 石田秀実
近代中国のシャーマニズムと道教	志賀市子	勉誠出版	1999		
童話学がわかる。(アエラムック 47)	関戸衛	朝日新聞社	1999	「学校の怪談」のリアリズム	一柳廣孝
癒しを生きる人々 近代知のオルタナティブ	田邊信太郎他	専修大学出版局	1999		
鷗外のオカルト、漱石の科学	長山靖生	新潮社	1999		
西洋の夢幻能 イェイツとパウンド	成惠卿	河出書房新社	1999		
自然と文化 59 見世物	日本ナショナルトラスト	日本ナショナルトラスト	1999		
神々宿りし都市 世俗都市の宗教社会学	矢部敬一	創元社	1999		
明治妖怪新聞	湯本豪一	柏書房	1999		
宗教オカルト時代の心理学	小田晋	至文堂	1999		
「漱石」がわかる。(アエラムック 41)	大森千明	朝日新聞社	1998	神経衰弱とは何だったか 「科学の時代」とスピリチュアリズム	川村邦光 一柳廣孝
第86回常設展示 占いあれこれ	国立国会図書館	国立国会図書館	1998	https://navi.ndl.go.jp/kaleido/tmp/86.pdf	
怪物科学者の時代	田中聡	晶文社	1998		
図説 幕末明治流行事典	湯本豪一	柏書房	1998	記憶術/コックリさん/催眠術/千里眼	
スキャンダルの科学史	「科学朝日」	朝日新聞社	1997	千里眼事件 山川健次郎	根本順吉
記憶術のススメ 近代日本と立身出世	岩井洋	青弓社	1997		
幻視する近代空間 迷信・病氣・座敷牢、あるいは歴史の記憶	川村邦光	青弓社	1997		
決定版 快楽亭ブラック伝	小島貞二	恒文社	1997		
岩波講座文化人類学 10 神話とメディア	小松和彦他	岩波書店	1997	透視と念写 明治末期の千里眼新聞報道に見る「神話」表象	関一敏
靈感少女論	近藤雅樹	河出書房新社	1997		
うわさと俗信 民俗学の手帖から	常光徹	高知新聞社	1997		
江戸東京の怪談文化の成立と変遷 19世紀を中心に	横山泰子	風間書房	1997		
催眠術の日本近代	一柳廣孝	青弓社	1997		
通史 日本の心理学	佐藤達哉他	北大路書房	1997		
異文化への視線	佐々木英昭	名古屋大学出版会	1996	霊の生まれる場所 科学とスピリチュアリズムの狭間で	一柳廣孝
「生命」で読む日本近代 大正生命主義の誕生と展開	鈴木貞美	日本放送出版協会	1996		
健康法と癒しの社会史	田中聡	青弓社	1996		
新・霊術家の饗宴	井村宏次	心交社	1996		
怖い話の本(別冊宝島 268)		宝島社	1996	心霊科学の敗北と近代型恐怖譚のカたち	一柳廣孝

南本 有紀

書名	著書	出版者	出版年	所収論文(備考)	著者
大正期新興美術運動の研究	五十殿利治	スカイデア	1995		
癒しと和解 現代におけるCAREの諸相	新屋重彦他	ハーベスト社	1995		
現代民話考7 学校ほか	松谷みよ子	立風書房	1995	(1987第1刷)	
性の猟奇モダン 日本変態研究往来	秋田昌美	青弓社	1994		
万国心霊古写真集 大心霊科学時代の遺産1860-1930	菊池正宏	南方堂	1994		
日本奇書・偽書・異端書大鑑(別冊歴史読本 43(19-14))	佐藤實	新人物往来社	1994		
乱歩の時代 昭和エロ・グロ・ナンセンス(別冊太陽 88)	高橋洋二	平凡社	1994	魔術・心霊学・霊術	一柳廣孝
化物屋敷	橋爪紳也	中央公論社	1994		
<こっくりさん>と<千里眼>	一柳廣孝	講談社	1994		
体験 ニッポン新宗教の体験談フォークロア	リチャード・W・アンダーソン	現代書館	1994		
「宗教と科学」基礎文献・外国篇	河合隼雄他	岩波書店	1993	超心理的事象の共時的基礎	イラ・プロゴフ
学校の怪談 口承文芸の展開と諸相	常光徹	ミネルヴァ書房	1993		
科学時代の神々	河合隼雄他	岩波書店	1992	神智学の系譜	高橋巖
スーパーサイエンス 異形の科学を拓いたサイエンティストたち	井村宏次	新人物往来社	1992		
近代化と宗教ブーム	國學院大學 日本文化研究所	同朋舎	1990		
日本の名隨筆 95 噂	後藤明生	作品社	1990	比婆山伝綺 (口裂け女)異聞 噂の構造	寺山修司 綱淵謙錠 後藤明生
臨床心理学大系7 心理療法 1	小此木啓吾他	金子書房	1990		
明治の迷宮都市 東京・大阪の遊楽空間	橋爪紳也	平凡社	1990	都市と見世物小屋の近代	
迷路のなかの快楽*					
うわさの本(別冊宝島92)	石井慎二	宝島社	1989	都市伝説としての信仰治療 少女民俗学詩論 D.P.Eは逢魔の時間 複製技術時代の心霊写真!? 「うわさ話」の思想史	櫛島次郎 大塚英志 浅羽通明 佐藤健二
神の罨 浅野和二郎,近代知性の悲劇	松本健一	新潮社	1989		
日本のオカルティズム 妖異風俗	阿部主計他	雄山閣出版	1988	心霊術・読心術・催眠術	
奇っ怪紳士録	荒俣宏	平凡社	1988	変態研究家,大本教に噛みつく(中村古峡) 霊媒ハンターの悲しみ(長田幹彦)	
黒岩涙香 探偵小説の元祖	伊藤秀雄	三一書房	1988		
神界のフィールドワーク	鎌田東二	青弓社	1987	霊学と霊術 近代におけるその発端と展開 大正維新と霊的シンクレティズム 神智学受容の一波紋	
科学と非科学のあいだ	下坂英他	木鐸社	1987	心霊研究と物理学 スプーン曲げとテレパシー 超常科学は科学たりうるか	高田紀代志 橋本毅彦
ニューサイエンス 科学と神秘主義	鶴尾功他	新日本出版社	1987		
昔話・伝説小事典	野村純一他	みずみ書房	1987	学校の世間話/口裂け女	
かわりだねの科学者たち	板倉聖宣	仮設社	1987	妖怪博士・井上円了と妖怪学の展開	
オカルト・ムーヴメント	近代ピラミッド協会	創林社	1986		
月の裏側の念写の数理的検討 宇宙船による新月面図との照合	後藤以紀	日本心霊科学協会	1986	(1985初版)	
鬼の玉手箱 民俗社会との交感	小松和彦	青玄社	1986	「口裂け女」の意味論	
明治医事往来	立川昭二	新潮社	1986	頭痛・肩こり	
超心理学者福来友吉の生涯	中沢信午	大陸書房	1986		
エスラ・パウンド研究	福田隆太郎他	山口書店	1986	パウンドと久米民十郎の交友	角田史郎
迷彩の道標 評伝日本の精神医療	秋元波留夫	NOVA出版	1985		
歴史読本臨時増刊 世界驚異の占い・霊術・魔術	野村敏晴	新人物往来社	1985		
口頭伝承の比較研究1	川田順造他	弘文社	1984	話の行方 「口裂け女」その他	野村純一
千里眼千鶴子	光岡明	文藝春秋	1983	千里眼事件の裏面史	一柳廣孝
妖怪博士・円了と妖怪学の展開	板倉聖宣	国書刊行会	1983	(新編妖怪叢書別冊)	
心霊と神秘世界 研究解説編	現代霊学研究会	心交社	1982		
新霊交思想の研究	田中千代松	共栄書房	1981	(1971初版)	
日本人と近代科学	渡辺正雄	岩波書店	1976		
70万時間の旅 2	社史編纂委員会	乃村工藝社	1975	《日本伝説お化け大会》両国国技館	
心霊現象の科学	小熊虎之助	芙蓉書房	1974		
現代心理学の群像 人とその業績	古賀行義	協同出版	1974		
近代文学研究叢書 39	昭和女子大学 近代文学研究室	昭和女子大学近代文化研 究所	1974	高橋五郎	平井法他
座談会大正文学史	柳田和泉他	岩波書店	1965	大正期の思想と文学 阿部次郎・倉田百三・和辻哲郎など	
定本柳田国男集 9	柳田国男	筑摩書房	1962	池袋の石打と飛驒の牛蒡種	
現代の哲学及哲学者	野村隈畔	京文社	1921	福来友吉氏の哲学(心理学的生命論)	

表3 参考文献(雑誌)

著者	年月	タイトル	掲載誌
石井研士	2013-09	機械の中の幽霊(＜特集＞科学・技術と宗教)	宗教研究 87-2, pp303-327
東雅夫	2013-08	山また山を越え過ぎて 明治怪談文学史における能楽の影響をめぐって	幽 19
野村英登	2013-03	井上円了における催眠術と瞑想法	「エコ・フィロソフィ」研究 別冊 7 pp21-30
栗田英彦	2013-00	国際日本文化研究センター所蔵静坐社資料 解説と目録	日本研究 47
佐々木浩雄	2013-00	1910年代における呼吸健康法の流行と体育界の反応 「呼吸運動」に関する記述の分析より	龍谷紀要 34-2
小泉晋一	2012-10	福来友吉の催眠研究に関する文献調査	催眠学研究 54-1/2, pp12-20
	2012-07	観光まちづくりレポート 新たなかたちで地域の活性化を図る「ツチノコ共和国」 奈良県下北山村	ナント経済月報, pp18-21
林淳, 吉永進一, 大谷栄一	2012-05	国際日本文化研究センター第41回国際研究集会「近代と仏教」に参加して	近代仏教 19, pp128-135
三井寛文	2012-03	文化現象としての疑似科学考察	常民文化 35, pp1-28
横山泰子	2012-03	秘術の公開 江戸時代の手品本に見られるまじないについて	国立歴史民俗博物館研究報告書 174
河合勝 溝上由紀	2012-00	日本古典奇術「目付絵」について	愛知江南短期大学紀要 41
長野美香	2012-00	近代日本における修養 内村鑑三の「修養」論から(主題別討議報告 修養という思想)	倫理学年報 61, pp78-81
吉永進一	2012-00	講演 近代仏教史における鈴木大拙(特集 鈴木大拙の思想)	宗教哲学研究 29, pp11-23
常光徹	2011-03	予言をする妖怪(怪談特集)	澁谷近世 17, pp15-22
平野直子	2011-03	代替療法とリスクのコミュニケーション ホームオナーに関するメディア報道を事例として	ソシオロジカル・ペーパーズ 20, pp33-50
笹川吉晴	2011-02	ゼロ年代ホラー・怪談を中心に(特集 エンターテインメント最前線)	大衆文学研究 2011-1, pp20-24
野口哲典	2011-02	サイエンスコラム(第4回)ツチノコがいる確率は?	鎌金の世界 44-2, pp51-54
小泉凡	2011-00	怪談の資源的活用をめざして 「松江ゴーストツアー」の事例から(特集 スロー・ツーリズムの胎動)	季刊中国総研 15-2, pp1-8
横山泰子	2010-12	乱歩が魅せる妖怪手品	法政大学小金井論集 7, pp105-124
吉永進一	2010-09	近代日本における神哲学思想の歴史(＜特集＞スピリチュアリティ)	宗教研究 84-2, pp579-601
岩井洋	2010-07	L・ハーンにおける怪談の意味 時代精神の系譜から(特集 エコクリティシズム)	水声通信 6-1, pp188-198
下村育世 石川偉子	2010-07	心道の教祖熊崎健翁の人生史 その思想形成と活動の変遷	一橋社会科学 2-30
雅夫	2010-06	怪談趣味で繋がった佐々木喜善, 柳田国男, 水野葉舟 "名作"誕生と, それぞれの(遠野物語)(特集 100年の遠野物語)	望星 41-6, pp40-44
中嶋隆蔵	2010-05	江戸時代における「静坐」論	神奈川近代文学館 29, pp19-47
吉永進一	2010-03	近代人の「霊魂」論(＜特集＞魂のありか)	人体科学とニューサイエンスの情報誌 20, pp2-5
吉永進一	2010-03	大正期大本教の宗教的場 出口王仁三郎, 浅野和郎, 宗教的遍歴者たち	舞鶴工業高等専門学校紀要 45, pp69-80
和崎光太郎	2010-03	世紀転換期における「修養」の変容	教育史フォーラム 5, pp21-36
渡辺勝義	2010-03	日本精神文化の根底にあるもの 9 「霊学の道」	長崎ウエスレヤン大学現代社会学部紀要 8-1
相川宏	2010-00	修養から霊術へ 霊的身体の興亡(2)	日本大学芸術学部紀要 52, pp25-34
甘露純規	2010-00	江戸の記憶術と忘却術 青水先生「物覚秘伝」と建部綾足「古今物わずれ」	中京大学図書館学紀要 31, pp33-79
鈴木由加里	2010-00	アンリ・ベルクソンと井上円了	井上円了センター年報 19, pp57-79
浜野志保	2010-00	カレンベルクの写真ダウジング	SITE ZERO/ZERO SITE 3, pp2-91
平野直子	2010-00	「近代」というカテゴリにおける「普遍」と「個別」 手当て療法「レイキ」の80年史を事例として	早稲田大学大学院文学研究科紀要 第1分冊 56, pp47-61
吉永進一	2010-00	近代日本における神哲学思想の歴史	宗教研究 365, pp375-395
菊地章太	2009-12	UFOと円了妖怪学	ながれ 日本流体力学会誌 28-6, pp443-446
野村英登	2009-12	『新青年』と修養法の近代化 静坐から体育へ	神話と詩 8, pp63-92
	2009-12	人間行動科学 回転寿司(第2章 人間行動科学回転寿司とお化け屋敷, ＜特集＞もうひとつの建築設計資料集)	建築雑誌 124(1597), p40
中根研一	2009-09	中国「怪獣文化」の研究 現代メディアの中で増殖する異形の動物たち	北海学園大学学術論集 141, pp91-121
辛酸なめ子	2009-08	霊道紀行(17)お化け屋敷の恐怖	本の旅人 15-8, pp94-97
堤邦彦	2009-08	日本の怪異譚 仏教と江戸怪談(特集 アジアの怪奇譚)	アジア遊学 125, pp44-53
一柳廣孝	2009-03	心霊としての「幽霊」 近代日本における「霊」言説の変容をめぐって(特集 古典(学)/知/教育)(2)	物語研究 9, pp12-19
戸田弘子	2009-03	「加持祈祷」という身体(治療)の近代 中村古峯の「精神療法」再考	文化/批評 1
福井義一	2009-03	文献紹介 催眠古書探訪(その4)福来友吉が残したもの 催眠研究編[「催眠の心理学的研究」, 「催眠心理学 全」, 「変態心理学講義要領」]	臨床催眠学 10, pp63-66
五十殿利治	2009-02	久米民十郎と「霊媒画」について 新出資料の照会を中心にして(下)	美術運動史研究会ニュース
五十殿利治	2009-01	久米民十郎と「霊媒画」について 新出資料の照会を中心にして(上)	美術運動史研究会ニュース
一柳廣孝	2008-12	オカルティスト, 芥川龍之介.	幽 10, pp16-21
伊藤龍平	2008-10	ネット怪談「くねくね」考—世間話の伝承について—	世間話研究 18, p1-31
伊藤龍平	2008-09	未確認動物の民俗学へ 『信濃奇勝録』の異獣たち(特集 UMA(未確認動物)のいる科学史(2007年度シンポジウム報告))	生物学史研究 80, pp37-47
小泉晋一	2008-09	日本の催眠研究の草創期 福来友吉の催眠研究を中心に(特集 催眠と臨床応用)	臨床心理学 8-5, pp668-673
井上順孝	2008-08	大学生の意識調査から 古いオカルトブームと若者(特集 夏休み企画 だまされるな学生)	国民生活 4, pp26-28
吉永進一	2008-06	太霊と国家 太霊道における国家観の意味	人体科学 17-1, pp35-51
足立洋一郎	2008-03	地方改良運動における報徳運動	駿台史學 133, pp1-23
寺石悦章	2008-03	現代日本におけるレイキ レイキはどのように紹介されているか	四日市大学総合政策学部論集 7-1/2, pp1-21
飯倉義之	2008-00	口承文芸研究からの現代批評 都市伝説は陰謀する 2000年代後半の「都市伝説」ブーム・走り書き	口承文芸研究 31, pp172-175
伊藤雄大	2008-00	忘れたことを思いだす 19世紀の犯罪捜査と心霊術のコンタクトゾーン	美術科研究 26, pp153-164
村井則夫	2008-00	記憶術と方法 弁論術の終焉と近代的思考の誕生(特集 言語と教育)	接続 8, pp146-182
山根知子	2008-00	宮沢トシの学びと賢治 日本女子大学校時代の教師, 福来友吉・阿部次郎を通して	宮沢賢治研究annual 18, pp144-160
志賀子	2007-12	民国期上海における催眠術の流行	日本間—多学会報 神話と詩 6
住吉玲弥	2007-12	都市伝承への視角 トイレの花子さん放	尾道大学日本文学論叢 3, pp115-123
三浦正雄	2007-12	神経病としての怪談 日本近代怪談文学史(1)	埼玉学園大学紀要 人間学部篇 7, pp255-268
津城寛文	2007-11	死者の幻影—民俗信仰と心霊研究の間	明治聖徳記念学会紀要 44, pp192-203
長山靖生	2007-10/11	明治サイエンス事件帳	NHK知るを楽しむ歴史に好奇心 3-16
一柳廣孝	2007-09	怪談の時代(特集 怪談) (総之巻)	國文學 解釈と教材の研究 52-11, pp16-23
大島建彦	2007-09	民間伝承に残る怪談(特集 怪談) (感之巻)	國文學 解釈と教材の研究 52-11, pp106-113
末國善己	2007-09	明治期の恐怖小説(特集 怪談) (文学之巻)	國文學 解釈と教材の研究 52-11, pp48-55
村上健司	2007-09	妖怪はいかにして生まれたのか 現代人がイメージする妖怪の誕生(特集 怪談) (感之巻)	國文學 解釈と教材の研究 52-11, pp114-121
平岡厚	2007-08	現代の日本におけるオカルト・疑似科学の動向	もうひとつの世界へ 10, pp44-47
吉永進一	2007-08	精神の力 民間精神療法の思想	人体科学 16-1, pp9-21
西村好子	2007-07	漱石とオカルト 初期翻訳「催眠術」(Ernest Hart, M.D.)を巡って(特集 明治初期の翻訳・翻案文学 もう一つの近代文学の源)	国文論叢 38 pp14-23
宇野田綾子	2007-05	コックリさん関連資料 井上円了コレクションより	民具マンスリー 40-2
東入口愛	2007-03	二人の幽霊, 二つめの怪談, 怪談の行方 三遊亭月朝「怪談牡丹燈籠」を読む	愛知淑徳大学国語国文 30, pp67-83

著者	年月	タイトル	掲載誌
小林康正	2007-00	姓名学の誕生 大衆新聞の登場と読むことの想像力を中心に	京都文教大学人間学部研究報告 10
一柳廣孝	2006-10	霊術を売る 日本心霊学会の言説戦略をめぐって(特集 現代社会における霊魂)	比較日本文化研究 10, pp9-26
子安宣邦, 一柳廣孝, 関一敏他	2006-10	討論 揺れ動く<霊魂>の姿(特集 現代社会における霊魂)	比較日本文化研究 10, pp36-53
久米晶文	2006-09	宗教史 秘史 異端の宗教書(7)近代の霊術家たちと霊術・呪法	歴史読本 51-12, pp41-46
向山毅	2006-09	物理学者と超自然現象	研究論集 84, pp173-187
一柳廣孝	2006-08	「怪談」から読み解く現代社会(特別納涼企画「幽霊」のお話し)	第三文明 560, pp70-72
香川雅信	2006-07	<靈感>考 一怪異のヴァーチャルリアリティ化	国際宗教研究所ニュースレター 51, pp3-8
吉永進一	2006-06	報告2.太霊道とその後(宗教と心理療法の相互内在性-宗教哲学的・思想的観点から-、テーマセッション3,2005年度学術大会・テーマセッション記録)	宗教と社会 12, pp235-238
甲田烈	2006-05	方法としての(不思議) 心理妖怪学への一試論	トランスパーソナル学研究 8, pp25-35
志賀市子	2006-02	近代上海のスピリチュアリズム 霊学会とその時代(特集 アジアのスピリチュアリティ 精神的基層を求めて) (自己変容と社会変動)	アジア遊学 84, pp63-75
飯倉義之	2006-00	「名付け」と「知識」の妖怪現象	口承文芸研究 29
平野直子	2006-00	「大衆的スピリチュアリティ」の現在	早稲田大学大学院文学研究科紀要 第1分冊 52, pp69-78
小泉晋一他	2005-9	日本における臨床心理学の導入と受容過程2	日本心理学会第69回大会
中尾裕子	2005-11	口裂け女は、妖怪か	史苑 66-1, pp105-117
横山茂雄	2005-11	「怪談」の近代(特集 怪異をひらく 近代の時空へ)	日本文学 54-11, pp2-15
堤邦彦	2005-10	女人蛇体の文化変遷 唱導文芸から江戸怪談まで(特集 近世文学、ミステリーからの照射)	日本文学 54-10, pp2-12
	2005-10	和製ラスプーチン 飯野吉三郎と下田歌子(総力特集 明治・大正・昭和 皇室10大事件簿)	新潮45 24-10, pp34-37
大塚英志	2005-09	怪談前夜(続)(5)第五章 異常心理と伝承	本の旅人 11-9, pp80-86
大塚英志	2005-06	怪談前夜(続)(2)第二章「無意識」と民俗学	本の旅人 11-6, pp90-96
兵頭晶子	2005-06	大正期の「精神」概念 大本教と「変態心理」の相剋を通して	宗教研究 79-1, pp97-120
大塚英志	2005-01	怪談前夜(5)民俗学と人相学	本 30-1, pp22-29
赤井敏夫, 橋本貴	2005-00	平井文書のマイクロ化ならびに電子化	人間文化 20, pp39-49
吉永進一	2005-00	大拙とスウェーデンボルグ その歴史的背景	宗教哲学研究 22, pp33-50
吉永進一, 野崎晃市	2005-00	平井金三と日本のユニテリアニズム	舞鶴工業高等専門学校研究紀要 40, pp125-134
王成	2004-12	近代日本における「修養」概念の成立	日本研究 29, pp117-145
	2004-12	特別企画 健康ブーム	第三文明 540, pp67-73
	2004-12	特別企画 健康ブーム	第三文明 540, pp67-73
長谷川晶子	2004-10	霊媒画家ジョセフ・クレバンを巡る二つの評論	千葉大学社会文化科学研究 9, pp51-65
四元正弘	2004-09	高齢化・気分・機能性・癒やし キーワードでみる健康ブーム盛衰史(特集 健康ビジネス 成功の法則)	エコノミスト 82-51, p35
田中聡	2004-08	忍術と霊術(特集 忍びの戦国誌) (忍者研究最前線)	歴史読本 49-8, pp188-193
高田衛	2004-06	オカルト的世界は国文学の対象になりうるか(特集 国文学の死と再生)	ジャイロス 3, pp204-215
岡田正彦	2004-05	自己同一性のための他者 井上円了の「妖怪学」と近代的宗教意識	近代仏教 11, pp5-14
佐々木英昭	2004-03	催眠術から善種学へー平塚らいてうの「科学」的歩み(女性作家「現在」)	国文学 解釈と鑑賞別冊 15
小池壯彦	2004-03	「眉唾写真」の魅力 霊と宇宙人(特集 いま、カメラが見つめる先 写真表現のトランジション) (第3部 写真社会のトランジション<移行>)	木野評論 35, pp158-166
光沢隆	2004-01	オカルトとオリエンタリズム 「月長石」における「千里眼」	歴史文化社会論講座紀要 1, pp93-107
小林康正	2004-00	「家」をつくる 「姓名学」・「乃木家再興問題」・「居所指定権」における姓名の近代	京都文教大学人間学研究 5
高橋直美	2004-00	井上円了の「妖怪学」 序論	井上円了センター年報 13, pp57-69
針生清人	2004-00	井上円了の「妖怪学」	アジア文化研究所研究年報 39, pp1-6
大松一雄	2003-11	「牛蒡種」のルーツを求めて 悪しき伝承	飛騨春秋 514
金賢旭	2003-11	幻術考	超域文化科学紀要 8, pp212-189
サトウタツヤ他	2003-09	日本における心理学の学範形成 東大・心理学実験室設立100年を迎えて	日本心理学会第67回大会シンポジウム
曾根博義	2003-06	異端の弟子 夏目漱石と中村古峽(補遺)	語文 116, pp67-80
安斎育郎	2003-03	靈感を科学する(51)妖怪玄談・狐狗狸の事	上方芸能 147, pp88-95
一柳廣孝	2003-03	心霊学(特集 幻想文学研究のキーワード) (私のキーワード)	幻想文学 66, pp32-35
川本資一	2003-03	特別招待席 歴史に起因する現代怪奇超常現象説話 その顛末と数々の怪談奇談	歴史研究 45-3, pp76-87
見城梯治	2003-03	日露戦争～大正前期における「道徳」と「宗教」の思想的位相	日本史研究 487
小池壯彦	2003-03	恐怖影像 呪いの心霊ビデオ補遺(特集 幻想文学研究のキーワード) (私のキーワード)	幻想文学 66, pp66-69
サトウタツヤ	2003-03	近代日本における心理学の受容と制度化	幻命館人間科学研究 5
大塚英志	2003-01	怪談前後(6)第六章「私怪談」の時代	群像 58-1, pp314-339
佐藤達哉	2003-00	精神物理学実験室100年	心理学ワールド 23, p33
三浦正雄	2003-00	日本近代怪談文学史<明治編>	山陽学園短期大学紀要 34
網沢満昭	2002-12	近代日本における「修養」	文学・芸術・文化 近畿大学文芸学部論集 14-1, pp19-39
曾根博義	2002-12	異端の弟子 夏目漱石と中村古峽(下)	語文 114, pp52-61
小田光雄	2002-09	古本屋散策6 中村古峽の出版	日本古書通信 878
曾根博義	2002-06	異端の弟子 夏目漱石と中村古峽(上)	語文 113, pp26-39
	2002-06	「農産物」と「人」を生かす地域振興 ツチノコの里の村づくり 岐阜県東白川村 村ぐるみの農産加工と交流事業,遊休農地対策	地上 56-6, pp8-15
	2002-06	「農産物」と「人」を生かす地域振興 ツチノコの里の村づくり 岐阜県東白川村 村ぐるみの農産加工と交流事業,遊休農地対策	地上 56-6, pp8-15
上寫誠	2002-03	ツチノコと渡来人	日本文化史研究 34, pp85-98
吉永進一	2002-03	神智学と日本の霊的思想(2)	舞鶴工業高等専門学校紀要 37, pp134-144
門傳仁志	2002-01	見世物興行の戦後と現状 興行師の動向を中心として(<特集>文化人類学の現代的課題)	哲学 107, pp277-292
奥山文幸	2002-00	「幽霊写真」というフレーム 「春と修羅」第二集と「銀河鉄道の夜」(<特集>絵画・写真・映像 像と文学の近代)	日本文学 51-11, pp23-32
久野康彦	2002-00	スピリチュアリズム・神智学と19世紀末～20世紀初頭のロシア文学	ロシア語ロシア文学研究 34
李勝鉉	2002-00	柳宗悦における宗教と芸術 初期の思想と実践を中心に	東京大学宗教学年報 20, pp89-105
中山栄之輔	2001-12	巻説から出版物語(十二) 「狐狗狸」古い古今—こっくりさん流行事歴	日本古書通信 66-12(369), pp6-9
林彰	2001-12	近代日本における修養思想 明治期ジャーナリズムを中心に(東京歴史科学研究第35回大会個別報告)	人民の歴史学 150, pp12-21
一柳廣孝	2001-11	心霊を教育する つのだじろう「うしろの百太郎」の闘争(特集「文学」と「サブカルチャー」の社会学)	日本文学 50-11, pp30-38
大山正, 佐藤達哉	2001-11	「近代」心理学が「現代」心理学か:元良勇次郎の心理学史上の位置づけ 西川(1999),溝口(2000)高論文に答える	心理学史・心理学論 3, pp21-28
佐藤達哉	2001-11	元良勇次郎の参禅体験とその余波 東洋的自我を心理学的に考える道	心理学史・心理学論 3, pp11-20
鈴木晶	2001-08	「神秘主義」が生み出される時代背景(特集 神秘的心理学)	ブシコ 2-8, pp22-27
山田賢二	2001-08	飛騨美濃人物往来(68) 口裂け女の伝説	月刊ごふ 200, p17
曾根博義	2001-07/08	「殻」から「変態心理」へ 中村古峽の転身	文学 2-4
今枝久美子	2001-03	北海道での仮説お化け屋敷興行 ある興行主からの聞き取りより[含「写真」]	国際文化論叢 1, pp33-42
吉永進一	2001-03	神智学と日本の霊的思想(1)	舞鶴工業高等専門学校情報科学センター年報 29, pp37-46

特別展「奇なるものへの挑戦 明治大正／異端の科学」について 参考文献リストと年表

著者	年月	タイトル	掲載誌
岩井洋	2001-00	〈近代〉記憶装置の誕生	日本研究 23
尾玉齊二	2001-00	西周の「心理学」と顔永京の「心靈学」	日本大学心理学研究 22, pp1-10
高橋直美	2001-00	井上円了と妖怪学の現在	井上円了センター年報 10, pp97-118
西川泰夫	2001-00	わが国への心理学の受容と定着過程を担った先達たち 外国留学,並びにわが国の教育機関との関わりから	心理学評論 44-4, pp441-456
三浦節夫	2001-00	井上円了の妖怪学 その提唱と展開	井上円了センター年報 10, pp65-96
宮本拓海	2001-00	NEWSY ANIMALS 動物事件の読み解き方(6)兵庫県美方町ツチノコ捕獲事件	リライオ 3-3, pp60-63
山藤	2000-12	近代日本の対中医療・文化活動 同人会研究(4)	日本医史学雑誌 46-4, pp613-639
山縣孝次	2000-12	「口裂け女」再考 しあわせのハナシはありますか	京都民俗 18, pp85-106
小阪登	2000-10	人情駐在所の事件簿 未来へ語り継ぐもの(第4話)ツチノコ騒動	月刊警察ヴァリアント 18-10, pp70-74
曾根博義	2000-10	中村古峽研究事始	日本古書通信 855
宮本直和	2000-10	子供・大人のアイデンティティと「学校の怪談」の流行について	世間話研究 10, pp241-252
橋爪紳也	2000-09	続「仕掛け」からの都市論 環境の演出力(3)お化け屋敷再考	レジャー・産業資料 33-9, pp184-187
紅野敏郎	2000-06	中村古峽 二冊の「殻」	国文学 解釈と鑑賞 65-6
萩尾重樹	2000-04	研究討論会「福来友吉の業績を巡って」(第32回日本超心理学学会(1999年))	日本超心理学会誌 超心理学研究 5-1, pp17-36
	2000-04	史料20世紀 3 「口裂け女」	東海の夜明け 28, pp9-10
渡辺巖太郎	2000-02	健康マネジメント(51)近代健康ブーム	金融財政事情 51-6, p17
阪直行	2000-00	実験心理学の誕生と展開・実験機器と史料からたどる日本心理学史-	京都大学出版会 345
高木史人	2000-00	研究者というメディア	口承文芸研究 23
宮川雅	2000-00	アメリカ文学とオカルト 史的素描(1920年代まで)	法政大学文学部紀要 46, pp39-73
宇阪直行	1999-12	『実験心理写真帖』にみる明治期の心理学実験と古典実験機器	心理学評論 42-3
恩田彰	1999-12	研究討論会 福来友吉の業績をめぐって	日本超心理学学会大会発表論文集 32, pp18-22
佐々木浩一	1999-12	二大霊術について 太霊道と天神道霊術(シンポジウム 失われた「霊術」の時代を振り返る)	日本超心理学学会大会発表論文集 32, pp25-27
志水一夫	1999-12	シンポジウム 失われた「霊術」の時代を振り返る	日本超心理学学会大会発表論文集 32, pp23-29
立花隆	1999-12	私の東大論(19)山川健次郎と超能力者・千里眼事件	文芸春秋 77-12, pp356-369
西川泰夫	1999-12	実験心理学における歴史的心理学実験機器をめぐって 大山・佐藤論文へのコメント:アクリン大学アメリカ心理学史料館,ハーバード大学歴史的科学機器コレクションでのレビューならびに見聞記と一心理学徒の回想から(日本の心理学 源流と展開(2))	心理学評論 42-3, pp313-325
	1999-12	シンポジウム 失われた「霊術」の時代を振り返る	日本超心理学学会大会発表論文集 32, pp 23-29
菊池聡	1999-09	オカルト・超常現象を<懐疑>する	月刊百科 443, pp67-74
高砂美樹	1999-09	1945年までに海外の専門誌に掲載された日本人心理学者の論文	心理学史・心理学論 1, pp31-35
池田清彦	1999-07	教育の回廊 人はなぜオカルトを信じるのか	初等教育資料 706, pp42-45
野崎和生	1999-03	地域からの発信 奈良県下北山村 ツチノコで村おこし	地方財政 38-3, pp340-347
菊池聡	1999-01	世紀末オカルト幻想を振り返り 予言の年1999年を迎えて	中央公論 114-1, pp279-289
大山正, 佐藤達哉	1999-00	東京大学における心理学古典実験機器について	心理学評論 42, pp313-325
越野剛	1999-00	ロシア文学とメスマリズム	ロシア語ロシア文学研究 31
曾根博義	1999-00	中村古峽と「殻」	日本大学文理学部人文科学研究所研究紀要 57
西川泰夫	1999-00	日本の現代心理学形成にかかわる学問史的検討	心理学史・心理学論 1, pp1-7
一柳廣孝	1998-09	「麻酔」と「魔睡」のあいだには一催眠術の照射する日本の近代	LISA 5-9, p899
唐沢俊一	1998-08	漱石とオカルト 怪談術を通して(総特集 怪談)	ユリイカ 30-11
木村重樹	1998-08	ヴィジュアル・フェティッシュ 心靈写真VSアイコン	ユリイカ 30-11
小池壮彦	1998-08	怪談史の課題 メディア史との関連で	ユリイカ 30-11
長山靖生	1998-06	鵜外を悩ませた明治のオカルトブーム	新潮45 17-6, pp130-146
曾根博義	1998-03	中村古峽と「変態心理」	語文 100
吉永進一	1998-03	オカルトとニューエイジ 一種の思想史として(II「精神世界」のありさまをとらえる,ワークショップ(1)「精神世界」の構図 現代社会と現代人の意識を理解する手がかりとして)	宗教と社会 別冊, ワークショップ報告書 1997, pp16-22
志水一夫	1997-12	「苦手」考 日本施療的接手法小史(2)	日本超心理学学会大会発表論文集 30, pp1-8
村瀬学	1997-12	封じられた記憶術 記憶術の中の経験(特集号 経験と臨床心理を考える)	臨床心理学研究 35-3, pp36-45
柿田睦夫	1997-10	科学の散歩道 オカルトと「信じる」世代	前衛 691, pp158-160
ベッカ.C.	1997-10	いままぜ臨死体験なのか オカルト・ブームを越えて(特集=「来世」の探求)	仏教 41, pp2-5
中田潤	1997-09	人間の「闇」の領域に迫る異色オカルト論考 「こっくりさん」はなぜ不滅なのか	現代 31-9, pp298-305
鶴岡正樹	1997-07	人間ポンプとその時代	へるめす 67
一柳廣孝	1997-06	心靈学の開祖 福来友吉(日本の巨人・超人・傑物大図鑑)(民間学の巨人たち)	歴史読本 42-6, pp160-167
紀田純一郎	1997-06	明治「巨人」曼陀羅 人材輩出装置 明治時代の魅力	歴史読本 42-6, pp26-40
横田順弥	1997-03	「健康ブーム」の社会心理史 戦前篇	一橋論叢 117-3, pp445-463
Robert Jean-Noël, 前田耕作, 松枝到	1997-03	オカルト・法華経・仏教研究(鼎談)	象徴図像研究 11, pp99-107
鎌田正裕	1997-02	オカルト科学と理科教育	学習研究 365, pp66-69
山田賢二	1997-02	超能力,三田光一現る(下)(飛騨美濃人物)	月刊ぎふ 146, p16
山田賢二	1997-01	超能力,三田光一現る(上)(飛騨美濃人物)	月刊ぎふ 145, p16
加藤秀明	1997-00	現代における憑きもの俗信「牛蒡種(コンボダネ)」	ぎふ精神保健 34
S.バーンズ	1997-00	取り憑かれた身体から監禁された身体へ 精神医学の発生	江戸の思想 6
松村浩二	1997-00	養生論的な身体へのまなざし	江戸の思想 6
志水一夫	1996-12	日本「施療的接手法」小史	日本超心理学学会大会発表論文集 29, pp5-13
一柳廣孝	1996-07	大正期心靈学受容の諸相—高橋五郎・精神分析・霊術	名古屋大学国語国文学 78
一柳廣孝	1996-06	芥川龍之介・幽霊・心靈学	幻想文学 47, pp122-127
一柳廣孝	1996-04	近代日本の催眠受容をめぐって	催眠学研究 40-1/2, pp1-7
一柳廣孝	1996-04	明治期刊行の心靈学関連書籍とその周辺	名古屋近代文学研究 13
上杉義隆	1996-01	井上円了の思想 「妖怪学」と仏教論の接点	真宗研究 40, pp1-13
加藤秀明	1996-00	現代における憑きもの俗信「牛蒡種(コンボダネ)」	ぎふ精神保健 33
古田島洋介	1996-00	森鷗外と記憶術	比較文学研究 69, pp134-143
一柳廣孝	1995-09	ドラッグ・心靈 森鷗外「魔睡」を視座として 催眠術の世紀末(明治世紀末 イメージの明治<特集>)(メタファーの世紀末)	国文学 解釈と教材の研究 40-11, pp77-81
一柳廣孝	1995-09	メタファーの世紀末 [ドラッグ・心靈]—森鷗外「魔睡」を視座として 催眠術の世紀末	国文学 40-11
今泉寿明	1995-06	「こっくりさん」に関する社会心理学的調査 1930年代から1992年までの流行史	宗教と社会 1, pp29-48
岩井洋	1995-03	近代日本における記憶術の流行	国学院大学日本文化研究所紀要 75, pp57-83
一柳廣孝	1994-12	明治期催眠術書刊行目録・覚書	名古屋近代文学研究 12
一柳廣孝	1994-09	深層の近代 明治期の心靈学受容をめぐって(3)	人文科学論集 52
横山泰子	1994-03	井上円了の妖怪学 その発想と方法について	アジア文化研究 20, pp63-74
一柳廣孝	1994-02	深層の近代 明治期の心靈学受容をめぐって(4)	人文科学論集 53
岩井洋	1994-00	和田守菊次郎と記憶術 近代日本における記憶術の誕生	国学院大学日本文化研究所紀要 73, pp93-118
五十殿利治	1994-00	もうひとりの「パウンドの作家」 久米民十郎に関する新資料について	筑波大学芸術年報 1994, pp6-9
尾堂修司	1994-00	「霊術系新宗教」の再検討	西日本宗教学雑誌 16, pp92-100
道下淳	1994-00	念写と透視・千里眼	篝火 70, pp12-13
一柳廣孝	1993-12	「千里眼事件」と名古屋新聞	名古屋近代文学研究 11

南本 有紀

著者	年月	タイトル	掲載誌
清水義和	1993-12	“こっくりさん”ショーの「傷心の家」の場合	愛知学院大学教養部紀要 41-2, pp39-48
一柳廣孝	1993-07	〈科学〉の行方—漱石と心霊学をめぐって	文学 4-3
一柳廣孝	1993-02	深層の近代 明治期の心霊学受容をめぐって(2)	人文科学論集 51
一柳廣孝	1992-12	一郎とスピリチュアリズム 「行人」一面	名古屋近代文学研究 10
一柳廣孝	1992-09	深層の近代 明治期の心霊学受容をめぐって(1)	人文科学論集 50
橋本裕之	1992-08	騙りのパフォーマンス—幻術・外術・幻戯	変身する 47
小池淳一	1992-05	信じることで知ること 民俗学における宗教・信仰研究1987~91	日本民俗学 190
筒井清忠	1992-02	近代日本の教養主義と修養主義 その成立過程の考察 (歴史・表象・文化 歴史社会学と社会史)	思想 812, pp151-174
前島康男	1992-01	現代天皇制とオカルト・ブーム 「人間の力を越えたものに対する異敬の念」概念を手がかりにして(その2)	熊本大学教養部紀要 人文・社会科学編 27, pp47-65
野村純一	1992-00	平成版「口裂け女」事情	歴史読本 37-19
宇井上光郎	1991-04	真実からリックか 「千里眼」と「念写」事件(ある心理学者の記録)	カメラレビュー 17-1
斎藤修平	1991-03	噂のフォーロア 口裂け女の伝承覚書	埼玉県立民俗文化センター研究紀要 7
前島康男	1991-01	現代天皇制とオカルト・ブーム 「人間の力を越えたものに対する異敬の念」概念を手がかりにして(その1)	熊本大学教養部紀要 人文・社会科学編 26, pp13-32
會津信吾	1990-08	人体エレキを掛て御覧に入れやす 明治期催眠術文献渉猟 (特集:催眠術)	イマーゴ
井村宏次	1990-08	精神の威力 近代日本オカルト衝動のルーツ (特集:催眠術)	イマーゴ
川村邦光	1990-08	醒める魂 催す魂 催眠術と近代日本 (特集:催眠術)	イマーゴ
南博	1990-03	心霊スキャンダル 福来友吉の悲劇 (特集:超心理と気の科学)	イマーゴ
前田寛男	1990-02	24. 流言「口裂け女」の正体 催眠分析の症例からみた少女の深層心理(第13回日本心身医学会近畿地方会演題抄録)	心身医学 30-2, p182
立川昭二	1989-10	健康をどう考えてきたか 江戸・明治そして現代 (健康ブームを越えて<特集>)	教育と医学 37-10, pp934-940
鎌田東二	1989-01	オカルト漫画陰謀の深層	知識 85, pp261-268
作道信介	1988-06	若者のオカルトブームと新々宗教の接近	青少年問題 35-6, pp14-21
	1988-06	ツチノコで村おこし(現地ルポ) (ニッポン「幻の動物」記<特集>)	科学朝日 48-6, pp14-19
伊藤俊治	1988-03	越境する鏡 サルベトリエールの写真図像学	ユリイカ 20-3, pp116-141
永瀬唯	1988-03	心霊の肖像写真 写真装置と心霊術 (写真の誕生 写真は人間をどう変えたか?<特集>)	ユリイカ 20-3, pp183-195
西山茂	1988-03	霊術系新宗教の台頭と2つの「近代化」	国学院大学日本文化研究所紀要 61, pp85-115
田中暁	1988-00	トマス・マンのオカルト体験	言語文化研究 14, pp329-348
飯沢耕太郎	1987-11	隠されたものの写真史 (スーパー・ネイチャーオカルトと抽象)	美術手帖 587, pp82-88
大滝啓裕	1987-11	オカルティズムの伝統と抽象絵画の夜明け (スーパー・ネイチャーオカルトと抽象)	美術手帖 587, pp36-51
根本順吉	1987-03	科学者をめぐる事件ノト-3-山川健次郎 千里眼事件	科学朝日 47-3, pp68-73
栗原彬, 丸山照雄, 柴田四郎	1986-08	若もの・宗教と現代社会 オカルト的なものへの憧れはなぜ	エコノミスト 64-35, pp102-109
	1986~88	つちのご探偵団 1~35	西美濃わが街 104~139
井上順孝	1985-02	さらばオカルト・ブーム	東京大学宗教学年報 別冊2, pp12-13
河上一雄	1985-00	飛騨における民俗宗教研究への序説-ゴンボ	飛騨史学 6, pp50-56
岡谷公二	1984-08	「妖怪談義」の周辺 (妖怪学入門<特集>)	ユリイカ 16-8, pp68-73
小田晋	1984-08	幽霊と精神病理学 (妖怪学入門<特集>)	ユリイカ 16-8, pp158-164
内藤正敏	1984-08	怪火と科学 不知火の場合 (妖怪学入門<特集>)	ユリイカ 16-8, pp182-193
竹本忠雄	1984-01	ニューサイエンスと東洋 ホログラフィックな結びつき	現代思想 12-1
細野由美	1983-01	ゴンボダネ事例	常民文化 6
細野由美	1980-03	憑きものに関する一考察 飛騨のゴンボダネをめぐって	常民文化 3
田原総一郎他	1979-09	なぜ風説「口裂け女」が走ったか 楽しんだ子どもたち, 抑えた大人たち (あなたと超感覚の世界<特集>)	月刊教育の森 4-9, pp32-45
深作光貞	1979-09	常に消えない日本人のアミニズム 「口裂け女」が駆け回った裏で (あなたと超感覚の世界<特集>)	月刊教育の森 4-9, pp24-31
石毛拓郎	1979-08	「口裂け女」と詩の退却現象(詩時評)	新日本文学 34-8, pp96-99
	1979-05	日本にいた世界一の記憶術家 (記憶のメカニズム<特集>)	科学朝日 39-5, pp43-45
野中涼	1979-03	静坐の創作方法	比較文学年誌 15
(桑谷正道)	1976~81	のつち考 史滴余話 (1)~(60)	飛騨春秋 21-5~26
山田和夫	1974-09	「オカルト」映画のブームについて 「エクソシスト」などを中心に(映画時評)	文化評論 158, pp136-139
吉田光邦	1974-09	オカルトとアール・ヌーボー(芸芸叢書-19-)	日本美術工芸 432, pp66-73
河村望	1974-08	科学と呪術 最近のオカルト・ブームについて (現代社会と科学(特集))	文化評論 157, pp52-61
宮原将平	1974-08	悲合理主義と科学の立場 オカルトの流行に関連して (現代社会と科学(特集))	文化評論 157, pp43-51
井上俊	1974-07	オカルト・ブーム考	展望 187, pp8-11
大下美和子他	1974-06	「四次元世界」からのメッセージ (現代オカルト考(特集))	潮 180, pp324-339
藤田昌司	1974-05	オカルト大流行 合理主義の袋小路を破るか?	学校図書館 283, pp63-65
大谷宗司	1974-03	福来友吉博士の透視・念写研究	防衛大学校紀要 28
松村憲一	1973-12	近代日本の教化政策と「修養」概念 連沼門三の「修養団」活動	社会科学討究 19-1, pp1-26
王丸勇	1973-11	史上人物のカルテ 幻の大蛇とツチノコ(病跡学漫語-13-)	臨床科学 9-11, pp1494-1496
森啓次郎	1973-10	山奥の溪流ぞいのカヤ原にツチノコ(ナノの動物はいらぬ!?)(特集)	科学朝日 33-10, pp39-41
森長英三郎	1973-03	飯野吉三郎恐喝事件 青山隠遁の怪行者(史談裁判-第4集-6-)	法學セミナ 208, pp94-96
和達清夫	1973-03	念写夫人 丸亀千里眼実験顔末	心 26-3, pp18-25
薄田司	1971-09	ある記憶術家の心理	自然 26-10, pp76-79
辻村明	1970-07	現代の祭りとお化け屋敷 (EXPO'70人間と文明(特集))	美術手帖 330, pp52-58
羽鳥一英	1970-05	川端康成と心霊学	国語と国文学 47-5, pp26-53
鷹津義彦	1969-09	新興宗教の季節 近代化の仮面	日本文学 18-9
葛谷利春	1967-00	ごんぼだね考(1)~(5)	飛騨春秋 12-2~7
成瀬正勝	1960-01	白樺派文学の背景としての柳宗悦の論文	国語と国文学 37-1
代情山彦	1958-00	のつち	飛騨春秋 24, pp5-8
小林幹	1957-00	のつち(郷組)	飛騨春秋 1,2 pp17-19
清水新太郎	1957-00	小林先生の「のつち」について	飛騨春秋 13, pp26-27
堤三郎	1957-00	こっくりさま	飛騨春秋 12, p9
堤三郎	1957-00	ごんぼだね	飛騨春秋 12, pp28-30
富田令禾	1957-00	思いつくまに 「のつち」のこと	飛騨春秋 13, p26
編集部	1957-00	「のつち」について	飛騨春秋 14, p26
河野与一	1956-05	記憶術の話	図書 80
福田恒存	1952-12	幽霊訪問記 降霊術を斬る	文芸春秋 30-17, pp174-180
結城梓山	1951-00	犬神・狐憑・牛蒡種	しらまゆみ 9, pp19-23
伊藤逸平	1950-10	幽霊写真叢談	光画月刊 11-4, pp299-300
伊藤金次郎	1949-05	怪行者飯野吉三郎	伝記 3-4, pp10-17
水島紀男	1935-00	江戸時代に於ける美濃の見世物興行	美濃国郷土史壇 1-6, pp2-8
福井薩男	1926-05	科学より見たる所謂心霊術	学習研究 5-5, pp295-303
鷲瓶子	1922-00	喜田博士の牛蒡種観に就て	飛騨史壇 7-7, pp12-14
中山太郎	1921-00	牛蒡種私見	飛騨史壇 6-2~3
福来友吉	1915-00	郷土の記憶 図(飛騨の印象(福来 友吉他))	飛騨史壇 2-1, pp1-17

表4 関連新聞記事

連載	紙面	時期
郷土の誇り 精神界の惑星 熊崎健翁氏(1)	岐阜夕刊	19370926
郷土の誇り 精神界の惑星 熊崎健翁氏(2)	岐阜夕刊	19370927
郷土の誇り 精神界の惑星 熊崎健翁氏(3)	岐阜夕刊	19370928
郷土の誇り 精神界の惑星 熊崎健翁氏(4)	岐阜夕刊	19370930
*怪魚、町に侵入	朝日朝刊	19780511
顕彰碑 恵那市 故喜多広行さんの慰霊碑	中日夕刊	19780824
300年ぶり桃太郎神社再建 加子母村 地区民が浄財募り	朝日朝刊	19900825
飯野吉三郎	朝日朝刊	19440204
無欲 霊験あらたか 風変りな柳津の竜神さま	岐阜夕刊	19520108
民間信仰と迷信 損斐郡下に「壺坂壺験記」現代版信仰で眼病	岐阜夕刊	19521214
竜谷臥石 俗世捨て仙人生活	岐阜夕刊	19540724
死田にも実りの秋 たたり恐れられ耕す 岐阜市	岐阜夕刊	19541009
美濃の幽霊 吉岡勲氏	岐阜朝刊	19550711
山の怪談つづれ 後藤芳雄	岐阜朝刊	19560727
幽霊と色ごと 渡辺露雪	岐阜夕刊	19570829
怪物体 多数の目撃者 ダイダイ色の光 一瞬	岐阜朝刊	19571111
月曜随想 幽霊と犯罪 石木忠雄	岐阜朝刊	19580804
奇術 中村克己	岐阜朝刊	19581211
乗鞍仙人故板殿正太郎さんの碑建立	岐阜朝刊	19620603
長良川に怪物 オットセイの迷子?	朝日朝刊	19650711
ふるさと夜話 里帰りの怪談	中日朝刊	19720816
奥美濃の秘境で幻のツチノコ探し	朝日朝刊	19730517
ツチノコは石がきを登る 美濃市の目撃者	岐阜朝刊	19730807
ツチノコまた出た 高富町で評判	岐阜朝刊	19730819
ツチノコ見た 可児町の高野さん	中日朝刊	19730915
幻の動物 ツチノコ 古事記にも登場	岐阜朝刊	19730926
幻の動物 ツチノコ 学問的データなし	岐阜朝刊	19730927
福来記念館「超能力」モテモテ時代 人気集	毎日朝刊	19740423
各地で幽霊さわぎ オカルトブームの余韻か	朝日朝刊	19751019
ツチノコかヘビか 可児町神崎山古墳での話	中日朝刊	19760623
またツチノコ騒動 美山町	岐阜朝刊	19760920
幻のヘビ ツチノコ見た 美濃市の主婦 想像	中日朝刊	19760925
板殿忠治 板殿仙人の子孫	岐阜朝刊	19780103
鳥類 やはトラツグミ 多治見新興住宅の怪音 丹	岐阜朝刊	19780513
爬虫類 ツチノコ探し回る研究会 美山町	中日朝刊	19780706
岐阜で生まれた口裂け女 騒ぎやと下火へ	岐阜夕刊	19790615
濃飛文学100話 81 ツチノコ騒動	岐阜朝刊	19790829
「白鳥春秋」に口裂け女など満載	岐阜朝刊	19790913
顕彰碑 恵那市 田中守平顕彰碑30周年記念式典	中日朝刊	19810412
岐阜市の夫婦ツチノコ目撃か	中日朝刊	19810826
武儀町乳岩神社の整備終わる	中日朝刊	19850214
テレビ 朝日テレビ「飛騨高山に女の幽霊を見た」高	中日朝刊	19850518
幻のヘビ ツチノコ探偵団結成 ミニコミ誌西	朝日朝刊	19860101
「西美濃わが街」集まれつちのこ探偵団(タ	毎日朝刊	19860506
加子母村 つちのこ木工製品売り出す	中日朝刊	19861109
木曾三川治水 100周年記念事業 ぎふ河童まつり	岐阜朝刊	19870717
岐阜のヘビ伝説 長倉三郎さんに聞いたり	岐阜夕刊	19880101
伝説の奇岩嵐石 上室村の村道沿いに引越	岐阜朝刊	19880104
土屋 河童連邦共和国名誉顧問	岐阜夕刊	19881122
ツチノコ探し 東白川村が懸賞金100万円	毎日朝刊	19890115
東白川村 ツチノコグッズはバンドツキ	朝日朝刊	19890212
映画・ビデオ 映画「大霊界」で名演技の板取、洞戸村民	岐阜朝刊	19890215
洞戸村に大霊界 瞑想の館 丹波哲朗さん建設	毎日朝刊	19890302
ツチノコ探し約170人が申し込み	朝日朝刊	19890411
夜叉ヶ池で村おこし 伝説道中祭	毎日朝刊	19890429
ツチノコ探しで山里大フィーバー 全国から2	毎日朝刊	19890504
加子母村 ツチノコ下駄で村おこし	岐阜朝刊	19890827
映画・ビデオ 最後のゴジラキッ 怪獣造形師 岐阜市の	岐阜夕刊	19891219
村からのレポート 3 東白川村 ツチノコ探し	中日朝刊	19900104
長良川から村設置を 川沿いの関係者に機	中日朝刊	19900114
加子母村で300年ぶり桃太郎神社再建	中日朝刊	19900328
東白川村 ツチノコを探そう 5月5日に多彩な	朝日朝刊	19900428
東白川村に100人ツチノコ探し	朝日朝刊	19900506
みの河童村の発会式 河童連邦共和国	中日朝刊	19900613
河童まつりで無病息災祈る 岐阜護国神社 社	岐阜朝刊	19900729
可児市 鬼ヶ島 よみがえる桃太郎伝説 用地	朝日朝刊	19900904
全国ツチノコ目撃者サミット 23日姪川村で	朝日朝刊	19900908
遊歩人 92 東白川村の村おこしツチノコ	毎日朝刊	19901012
瑞浪市 瑞浪陶磁資料館で陶製河童展	中日朝刊	19910606
岐阜では20、21日河童サミット 22のからっぱ	毎日朝刊	19910717
緒方千徳 霊能者	岐阜朝刊	19910720
高山市勤労青少年ホームで超能力講座開設	朝日朝刊	19920423
東白川村 聖なるツチノコ捕獲作戦本腰(えん	朝日朝刊	19920502
土屋 河童連邦共和国大統領(夏とわたし)	朝日朝刊	19920822
岐阜市での河童村 3人に文化勲章	朝日朝刊	19920901
恵那市にえな河童村が開村	朝日朝刊	19930319
東白川村につちのこ館オープン	毎日朝刊	19930426
東白川村でツチノコ捜索大作戦	岐阜朝刊	19930501
恵那市 えな河童村の創立村民総会開く	読売朝刊	19930726
東白川村でつちのこ捕獲ローラー作戦	岐阜朝刊	19940504
大垣市みの河童村で村民総会	読売朝刊	19940826
ぎふの仲間たち 河童会 上石津町	岐阜夕刊	19941001

連載	紙面	時期
美濃河童新作展・陶器 大垣共立銀行本店で	中日朝刊	19941125
みの河童村の支村が大阪に誕生	岐阜朝刊	19950330
掘野慎吉 岐阜市方県小教師「僧成社夜のプロ	岐阜朝刊	19950714
浅野彬「小学校で怖い話が大ブーム」	岐阜朝刊	19950719
みの河童村の支村が大阪に誕生 大垣市で水	朝日朝刊	19950823
白川町の廃校で映画「学校の怪談2」のロケ	中日夕刊	19960402
東白川村で「つちのこ捜索大作戦」	岐阜朝刊	19960503
下呂町にお化け屋敷登場 東宝映画「学校の	毎日朝刊	19960626
下呂町の合掌村 ハイテクお化け屋敷登場	朝日朝刊	19960704
白川町で「学校の怪談2」試写会	岐阜朝刊	19960704
「学校の怪談2」ロケ地の白川町で「あす」校	朝日朝刊	19960706
下呂町・合掌村にお化け屋敷「学校の怪談2	岐阜朝刊	19960719
下呂町・下呂温泉の合掌村	読売朝刊	19960904
お化け屋敷が大 今夏の入場者数 7万人を突破		
恵那市・笠置山のピラミッド形パテログラフ	岐阜朝刊	19961020
来日した米学者フランク・ジョセフ氏、調査		
岩村町の偉人・飯野吉三郎のはかま姿の写真	中日朝刊	19970318
岩村町出身の飯野吉三郎 揮毫の書染めた	岐阜朝刊	19970326
下呂町で映画「学校の怪談3」ロケ 児童や父	読売朝刊	19970330
下呂町 下呂小学校で学校の怪談3の映画ロケ	岐阜朝刊	19970413
東白川村 つちのこ捜索大作戦 今年の賞金は	岐阜朝刊	19970516
下呂町 ロケが行われた 学校の怪談3 全国に	読売朝刊	19970619
映画「学校の怪談3」ロケ先の下呂町で上映	岐阜朝刊	19970706
岐阜市の岐阜護国神社で河童まつり 園児が	岐阜朝刊	19970707
「学校の怪談-3」 自作を歩く・金子修介	中日夕刊	19970718
日本土鈴館で河童の人形展	中日朝刊	19970824
岐阜市で「みの河童村」の村民総会開催		
大垣市で平成9年度総会	中日朝刊	19970827
「河童連邦共和国」中部4県下合同懇親会、	岐阜朝刊	19970930
昭和54年 口裂け女 古里ぎふの20世紀「庶民の目」からたどる	岐阜朝刊	19990302
塩屋智和・茂和(高山市)兄弟が、コンピュー	朝日朝刊	19990409
多治見市で、陶製のカップを展示した「河童	中日朝刊	19990507
加子母村の「なめくじ伝説」を三年通し狂言	中日朝刊	19990623
下呂温泉で河童連邦共和国の「河童サミット	岐阜朝刊	19990809
ツチノコの里・東白川村が、田舎暮らし希望	中日夕刊	19990827
大垣市で「河童連邦共和国」・みの河童村の	岐阜朝刊	19990831
平成元年 ツチノコ騒動	岐阜朝刊	19990914
萩原町の北中学校の進路講話で、下呂町の中 下呂町で給食		
会社を経営しながら、映画「学	中日朝刊	19991110
八百津町の伊佐治さんが、ヘビ・ツチノコそ	中日朝刊	19991112
瑞浪市のミュージアム中仙道で河童の焼物を	毎日朝刊	20000508
上室村の平湯温泉観光協会は白猿伝説を基に	中日朝刊	20000518
丹生川村で「両面宿禰」の巨大像を作る計画 アフリカ産「ピン		
ガ」とつ木を使い「円	中日朝刊	20000709
坂下町出身の怪奇漫画作家 伊藤潤二原作の	岐阜朝刊	20000811
怪奇漫画家・伊藤潤二	岐阜朝刊	20000828
大垣市で「みの河童村」第10回村民総会、文	岐阜朝刊	20000831
富加町町営住宅で幽霊騒動	毎日朝刊	20001030
丹生川村で「両面宿禰」モニュメント除幕式	中日朝刊	20001105
富加町町営住宅の「怪現象」で町と入居者が 自治会が許可なく		
町有地に建立した慰霊碑を	読売朝刊	20001214
1 幽霊騒ぎは風とともに…(富加町の町	毎日朝刊	20001218
岐阜市の藍川小学校で怪獣「ゴジラ」が核廃	中日朝刊	20001223
東白川村・ツチノコ村おこし12年 明日の話をしよう	読売朝刊	20010103
下呂町でツチノコ騒動、抜け殻見つかると	岐阜朝刊	20010609
美濃加茂市で一時期「ツチノコ」騒ぎとなった	中日朝刊	20010718
東白川村の「つちのこ」・神田卓朗(岐阜女 おもしろ岐阜学入門	岐阜夕刊	20020427
神岡町の町民有志が散策道「がおろの道」で	岐阜朝刊	20020925
神岡町の散策道「がおろの道」の開通記念イ	中日朝刊	20021029
「がおろの道」周辺でホテルを育てようNP 神岡町・つくりネットワーク	中日朝刊	20030513
「花の会」ががおろの道沿いの湿地帯に「鈴	中日朝刊	20030709
東白川村でつちのこフェスタ グラフィック中濃	岐阜朝刊	20040509
つちのこフェスタ2007 完成祝い多彩な 日曜ほっとグラフ	岐阜朝刊	20041121
岩村町の偉人・飯野吉三郎を再評価 27日慰霊祭で顕彰	岐阜朝刊	20050525
生まれはGIFU 1 「口裂け女」なぜ岐阜発	岐阜朝刊	20070310
つちのこフェスタ2007 東白川村で総勢500人	岐阜朝刊	20070504
垂井町青年クラブの35周年記念事業「河童	岐阜朝刊	20070529
笠松町民に親しまれた火の見櫓「怪獣の塔」	岐阜朝刊	20080111
流行の「パワースポット」伊奈波神社、本で	岐阜朝刊	20100403
福来友吉心理学研の資料館「福来記念・山本	岐阜朝刊	20100420
つちのこフェスタ2010 東白川村	岐阜朝刊	20100504
ツチノコ探し20年 東白川村や新湯、今も脈	岐阜夕刊	20100605
「大日本精神団」を組織、恵那市岩村町出身	岐阜朝刊	20101121
郡上市和良「宮地親和会」パワースポットで	岐阜朝刊	20110109
伊奈波神社「パワースポット」景気 総合学習ぎふ科	中日朝刊	20110123
ツチノコ見つけるぞ 東白川村で今年も大捜	岐阜朝刊	20110504
高山出身の心理学者 福来友吉	岐阜朝刊	20110515
本業市議会一般質問 パワースポット選定	岐阜朝刊	20110622
愛国、貧しい者の立場に 故郷に郵便局や駅誘致、「太霊道」創		
始の霊術家 田中守平	岐阜朝刊	20120318
ツチノコは神の化身? 「神道の村」信仰の	岐阜朝刊	20120429

表5 年表

西暦	和暦	月日	事項 ※日本国外の事項
1763	宝暦13	7月21日	佐賀県武雄市の池で龍が目撃される(「甲子夜話」)
1765	明和2	10月25日	相模国大田で雷獣
18世紀末~19世紀			※フランスで動物磁気催眠治療術が大流行
1781	安永10		鳥山石燕「今昔百鬼拾遺」
	天明1	8月	仙台岸(隅田川東岸)の伊達屋敷堀内淵で河童が捕獲される(「耳囊」)
1791	寛政3	5月4日	若狭(福井県)大浜沖に大蛇落下
		5月末	因幡(鳥取県)に雷龍落下
1794	寛政6		越後新潟の香具師が河童
1801	享和1	5月10日	この頃、芸州九日市里へ雷獣が落下
		6月1日	水戸の東浜で河童が網にかかる
		7月21日	会津の古井戸に雷獣が落下
1802	享和2		淀川堤で河童が武士に手を切られる(「奇談諸国便覧」) 琵琶湖竹生島に雷獣が落下
1805	文化2	5月6日	越中国放生淵(放生津)に悪魚が出現
1806	文化3	6月	播州赤穂に雷獣が落下
1823	文政6	8月17日	築地細川邸に怪獣が落下
1840	天保11	6月	柳引道柳沢村で河童が捕獲される
1838	天保9		天理教立教
1848	嘉永1		※アメリカでフォックス家姉妹のボルター・ガイスト事件(ハイズヴィル事件)=近代スピリチュアリズム元年 ※マルクス、エンゲルス『共産党宣言』
19世紀後半			※欧米でテーブル・ターニングが流行
1854	安政1		※このころ、アメリカに300万人の降霊術愛好者、ブームはヨーロッパへ波及
1855	安政2		金光教立教
1860年代			※欧米で心霊写真が流行
1859	安政6		※ダーウィン「種の起源」
1861	文久2		※アメリカでウィリアム・H・マムラーが心霊写真Spirit photographyを撮る(1862発表)、世界初の心霊写真
1868	慶応4/明治1		神仏分離令
1870年代			※ヨーロッパでも降霊術が流行
1870	明治3	8~11月	苗木藩領で徹底した神仏分離(廃仏毀釈)
1871	明治4		このころからメスメリズムが日本伝播
1872	明治5		※イギリスでF・A・ノドソンが心霊写真を撮る
		9月15日	修験道廃止令
1873	明治6	1月15日	梓巫子子憑祈禱狐下げ禁止の件(教部省第2号達)
1874	明治7		医制発布、近代医学(西洋医学)を採用
		6月7日	禁厭祈禱を以て医薬を妨ぐる者取締の件(教部省通達第22号)
1875	明治8	6月7日	郡上郡八幡町:味噌玉より毛の生える怪
1876	明治9	3月14日	元大工町で定時に小石が降る、狐狸の仕業か(「東京絵入新聞」)
明治10年代			横浜の三田弥一が「幽霊の写真」を撮る、国産初の心霊写真か(1878-1879-1880説あり)
明治10~20年代			欧米から催眠術が輸入される、医学治療行為として、のち見世物芸として
1877	明治10		占い禁止令
		7月14日	不破郡大石村:サツマイモから栗の木生える(東京曙新聞)
		9月14日	房州天津(千葉県鴨川市)沖合で漁師が河童を目撃(「かなよみ」19/19)
1878	明治11		熊本鎮台の兵士が「幽霊の写真」を撮る、国産初の心霊写真か
		11月28日	球磨郡原田村で老人が河童と相撲を取る(「熊本新聞」)
1879	明治12		滋賀・三井寺に西南戦争第9連隊戦死者記念碑を建立
		3月4日	近江国長浜門前町古道具商で河童の皿を販売(「読売新聞」)
		7月31日	山口県下長門国豊浦に異獣が落下(「郵便報知新聞」)
1880	明治13		実利行者が恵那山落合道を開く(昭和30年代に廃道)
1882	明治15		熊本の豊瀬某が幽霊の写真を撮る ※イギリスで心霊研究協会Society for Psychical Research設立 このころから記念碑建立が流行
1882	明治15	10月11日	京都府鷹峯で天狗嚙(「西京新聞」)
1883	明治16	12月	畝傍艦行方不明事件、畝傍艦=行方不明の流行語に(1887亡失認定)
1883	明治16	2月9日	方県郡秋沢村:怪夢に出た胎内の子が母を殺す(郵便報知新聞)
		8月23日	羽栗郡直道村:雨を呼ぶ「雨石」(絵入朝野新聞)
		9月12日	高山:白狐の異で狸師たちが同士討ち(絵入朝野新聞)
		10月3日	岩代国伊達郡長岡村の大沼で怪物退治(「開花新聞」)
		11月13日	大野郡三輪村:相撲興行に山が怒って陰火飛ぶ(郵便報知新聞)
1884	明治17		下田に上陸したアメリカ船員によってテーブル・ターニング(コックリさん)が伝わる(1883,1885とも)
		3月16日	大野郡丹生川村:夢のお告げで古銭の壺が出る(東京絵入新聞)
		4月21日	林実利が那智滝で入定
		夏	井上円了が妖怪学研究に着手、東京大学に「不思議研究会」を開設

西暦	和暦	月日	事項 ※日本国外の事項
1884	明治17	7月24日	鳥根県鳥根郡加賀村沖合で奇魚出現(「山陰新聞」)
1885	明治18		箕作元八「奇怪不思議ノ研究」でイギリス心霊研究協会を紹介 川田龍吉?が催眠術の公開実験 ※アメリカに心霊研究協会設立 このころこっくりさん流行が始まる このころから馬島東伯が催眠術を治療に用いる
		4月11日	播磨国飾東(しきとう)郡長柄村で天狗の爪を握り出す(「伊勢新聞」)
		8月27日	北海道札幌で河童が捕まる(「絵入自由新聞」)
		11月21日	新潟県下越後国中魚沼郡寺院小僧が天狗の使いと称する(「絵入自由新聞」)
1886	明治19	1月24日	東京大学「不思議研究会」(井上円了)第1回会合(～1919年)
		夏	コックリさん(降霊術)が流行(～1887) このころから宗教演説会(とくに仏教演説会)が興行化、政談演説会の影響
明治20年代			欧米から催眠術・交霊術が新知識として輸入され、「心霊」という語が定着 記憶術が流行 催眠術ブーム(第1次) 夏期講習会が流行、キリスト教関係から一般へ波及 このころ飛騨で天狗騒動(さらわれる)
1887	明治20		井上円了「妖怪学」,『応用心理学』で「心理療法」紹介 井上円了がこっくりさん占いの原理(自己催眠誘導)を解明 医学博士・大沢謙二が催眠術を導入 ※コナン・ドイルがスピリチュアリズムを知る このころ、宮地水位「異境備忘録」編集し直す
1888	明治21		元良勇次郎が東京帝国大学で精神物理学を講義
		2月1日	医科大学で四ッ谷養種屋秘蔵の人魚を分析(「東京絵入新聞」)
		11月18日	浅草公園池之端の奇物縦覧所(見世物小屋)広告に鬼の首と腕(「東京朝日新聞」)
1889	明治22		筑後国柳川(福岡県柳川市)で河童が妙薬を伝える(「夜窓奇談 全」) 平井金三らが神智学協会会長オルコットを日本に招請 ※ブラヴァツキー「霊智学解説」The Key to Theosophy
1890年代			こっくりさんが流行
1890	明治23	5月28日	鬼の首と腕が見世物に(「東京朝日新聞」)
		7月29日	備後国或山中の寺院から鬼の石棺が出土(「福井新聞」) 漢方医・馬島東伯が催眠術病院を開設 この年から井上円了が全国で講演7113回(～1919)
1891	明治24		井上円了が妖怪学会を設立
1892	明治25		近藤素三「魔術と催眠術」 出口なおが大本教開教(神がかり) 東京帝国大学精神病学教室で催眠術・電気治療を実習 浜口熊蔵が実川行者について那智山で修行
		5月	夏目漱石が「哲学会雑誌」にアーネスト・エイブラハム・ハート「催眠術といかさま」翻訳を掲載
1893	明治26		元良勇次郎が東京帝国大学で心理学・倫理学・論理学第一講座を担当 平井金三が世界宗教会議(シカゴ)に参加、その後、アメリカ各地で仏教講演・心霊科学実験に参加 このころ飛騨でこんぼだね騒動
		6月8-9日	「東京日日新聞」(のち毎日新聞)にイギリスの幽霊写真記事、いわゆる念写
		11月18日	大阪の見世物師が青森県八戸郡に(「東奥日報」)
1894	明治27		二宮尊徳の生地・小田原に報徳二宮神社が創建される 蛭川村に安弘見報徳社が設立される 軍人・中村環、小野福平が催眠術の医療効果を宣伝
		7月25日	日清戦争(～1895)
		9月	浜口熊蔵師・実川行者が入定、熊蔵は那智山を出て和歌山へ
1895	明治28		日清戦争(1894-95)後、清からの日本留学が流行 浴瀑が流行、滝ブーム
1896	明治29		イギリス人落語家・石井ブラック(快楽亭ブラック)が催眠術興行 この年から浜口熊蔵が気合術で全国を巡業
1897	明治30		高島平三郎が催眠事件を実演 濱口熊蔵の気合術が無資格医療で訴えられるが、宗教行為とみなされ放免 古屋鉄石が大日本催眠術協会(のち精神研究会)を設立
明治30~40年代			「修養」ブーム
1898	明治31		泉鏡花「妖怪年代記」 出口王仁三郎が高熊山修行、稲荷講社本部(静岡県清水)で鎮魂帰神法を学び、霊学会を設立
		3月~	
1899	明治32		教祖出口なおの招聘で出口王仁三郎が大本教入信、金明霊学会を設立 松村介石「修養録」、ベストセラーに 青森で幽霊の写りが撮られる 福来友吉が東京帝国大学卒業、同心理学教室に勤務 桑原俊郎が静岡師範学校漢文教師に 濱口熊蔵が違法治療行為で訴えられるが、気合術の実験で実効を認められる

西暦	和暦	月日	事項 ※日本国外の事項
1916	大正5	7月	実行行者33回忌、宝篋印塔に玉垣・戸扉を奉納
		10月	浅野和二郎「余が信仰の径路と大本教」(『人文』大正5年10月号)
		10月16日	三田光一が大垣市で先進修業講演・心靈実験大会、月の裏側を念写
		12月	高橋五郎が大本教に入信、綾部へ移転
		12月9日	夏目漱石没
1917	大正6		上海で霊学会が発足 中国精神研究会が上海支部設立 福来が生命学会を設立 ※コナン・ドイルがスピリチュアリズム普及講演旅行を開始 ※ロシア革命
		4月16日	中村古峽が小説を断念、変態心理・精神医学研究専念を決意
		5月	中村古峽が日本精神医学会を設立
		6月	福来友吉宅で中村古峽の催眠術、森田正馬らが参加
		9月	中村古峽・森田正馬が長野県上諏訪で三田の念写を見る
		10月	日本精神医学会誌「変態心理」刊行(～1926年10月)
		11月	森田正馬が太霊道の講演会を聴講 このころ大本教が大正維新論を展開
			スペイン風邪流行 東京留日中国心靈研究会が上海事務所を設立、のち本部に(1921) 三田光一が岐阜市で念写実験
		4月21～28日	日本精神医学会第1回変態心理学講習会
		11月6日	出口なおが昇天
12月6日	東京麹町の太霊道本部が焼失		
1919	大正8		『日本心理学雑誌』(京都)発刊 福来友吉が高野山で修行 精神病法施行 江間俊一(江間式心身鍛練法)・松本道別(人体放射能療法)・田中守平(太霊道)が霊界倶楽部を組織
		1月	中村古峽が御岳教・大本教鎮魂帰神法の鑑定を依頼される
		4月	片桐龍子が岐阜裁縫女学校(のち岐阜女子高等芸芸学校)を設立
		7月25日	田中守平と大本教の浅野和二郎らが会見
		10月	友清歡真「鎮魂帰神の原理及び応用」
		11月	中村古峽「変態心理の研究」 このころから、機器療法・手技療法が普及
			片桐龍子が忠誠婦徳会を設立 内務省が大本教取締を全国に指令 岡田虎二郎急逝
		4月30日	「霊媒派画家」久米民十郎が帝国ホテルで個展を開催(～5月1日)
7月31日	田中守平が恵那郡武並村に太霊道恵那総本院を設立・移転		
8月～	中村古峽が大本教批判		
9月22日	久米民十郎が佐藤久二と渡米、その後単身渡英(～1921年8月1日) このころ、森田正馬が森田療法を創始		
1921	大正10		ドイツ映画「カリガリ博士」(1919)日本で公開 水野葉舟らが日本心靈現象研究会を結成 福来友吉が真言宗立真宣高等女学校長に(～1926) 友清歡真「霊学笠箒」
		1月	雑誌『精神統一』創刊号
		2月	久米民十郎がニューヨークで個展
		2月12日	第一次大本事件
		5月	田中守平が真霊顕現(神託)を行う
		5月	神国教会堂が完成
		9月～	神国教が本部・北海道・東京・石川・静岡・長崎で霊術講習会を開催(～1924)
		12月27日	太霊道総本院(霊雲閣)が炎上
			太霊道夏期修霊大学を開催 浅野和二郎が心靈科学研究会を発足
		4月	臼井夔男が霊気療法を会得、臼井霊気療法学会を設立
夏～	日本心靈学会が機関誌「日本心靈」を月3回刊行		
1923	大正12		江馬務「日本妖怪変化史」(中外出版) 後藤新平が太霊道総本院を訪問、郵便局・鉄道駅を誘致 東北帝国大学に心理学実験室ができる 神岡鉱業所に鞍馬山天狗の小使を名乗る老人があり、大火予言や治病を行った
		6月	浅野和二郎が大本教を離れ、心靈科学研究会(のち日本心靈科学協会)を設立
		9月1日	関東大震災、久米民十郎が横浜で被災
			日本大学に私学初の心理学実験室ができる 浜口熊嶽が大阪に天命学院を設置(のち東京移転) 鈴木大拙とベアトリスが神智学東京ロッジを設立
1925	大正14		林忠次郎が臼井夔男より霊気を伝授され師範となる 片桐龍子が岐阜実科高等女学校を設立 太霊道総本院の最寄りに国鉄駅が開設される
		2月	臼井夔男が霊気道場を中野区に新築
		7月11日	浅野和二郎が綾部を去る

西暦	和暦	月日	事項 ※日本国外の事項
昭和初期			「文化」が流行語に
1926	大正15/ 昭和1		福来友吉が高野山大学教授に(～1940) 太霊道総本院最寄りに国鉄・武並駅が開業 日本心理学会が活動開始(1927設立)、機関誌「心理学研究」発刊
		3月	臼井夔男が広島県福山で客死
		8月～	田中守平が長崎で亜細亜民族大会に出席、その後、講演巡業
1927	昭和2		西勝造が西式健康法を創始 日本心靈学会が人文書院に改名 福来友吉「観念は生物なり」 田中守平顕彰碑を建立
		1月～	田中守平が福岡で太霊道霊子術実験会を開催
		11月	片桐龍子が雑誌「御国の華」を創刊
		12月	田中守平が満州鉄道クラブ・旅順中学校で講演
1928	昭和3		三井甲之「てのひら療治」がベストセラー 福来友吉が大日本心靈研究所(のち敬神崇祖協会→むすび協会)を設立 永島真雄「手相の神秘」以降、実業之日本社「○○の神秘」シリーズ(～1932)がヒット、占いブームに 清水英範が大日本精神医学会、横井無隣が大日本心療師会を設立 霊界廓清同志会「破邪顕正 霊術と霊術家」二松堂書店
		1月	大日本心靈研究所(のち福来心理学研究所)を開設、福来友吉が所長に
		3月	田中守平が台湾日日新聞本社で講演
		9月	福来友吉が第3回国際スピリチュアリスト会議(ロンドン)で念写研究を発表
		12月14日	田中守平が名古屋で講演中に倒れる
			中村古峽が千葉に中村古峽療養所を開設 福来友吉「精神統一の心理」 この年、臼井霊気療法学会の会員7000人、支部60ヶ所
		1月17日	田中守平が名古屋で客死
1930	昭和5	11月29日	療術行為二閣スル取締規則(警視庁令第43号)、以後、霊術が衰退
			清水英範らが大日本療術師会を設立
1931	昭和6	6月24日	三田光一が月の裏側念写実験
1932	昭和7		片桐龍子が忠誠婦徳会選抜会員による短期講座・国華学園を開校 小川惟精らが日本治療師会(のち全国療術協同組合)を設立 土井晩翠長女照子が没する
		6月23日	福来友吉「心靈と神秘世界」
		12月	※イギリス・ネス湖のネッシー写真が報道される
1933	昭和8	9月9日	土井晩翠長男英一が没する
		11月12日	三田光一が岐阜市公会堂で念写の公開実験、月の裏側を念写
			片桐龍子が皇華聖道会を設立、雑誌「道の華」発刊 土井晩翠が心靈科学研究会へ入会 中村古峽療養所開設 福来友吉「弘法大師の神秘主義」
12月28日	第二高等学校短艇部が松島湾で遭難、霊媒が遭難者捜索、この事件をきっかけに土井晩翠が霊界通信		
1935	昭和10	1月	林忠次郎(林霊気研究会)が高田はわよを治療 岡田茂吉が世界救世教を立教
		12月8日	浅野和二郎が小林寿子を伴い仙台へ、土井晩翠亡児を降霊 第二次大本事件 このころから霊術が衰退
1937	昭和12		高田はわよがハワイに帰国、霊気療法クリニックを開設 中原中也が中村古峽療養所に入院 片桐龍子の皇華聖道会本部を恵那郡武並村(現恵那市)に移転 福来友吉「生命主義の信仰」 浅野和二郎「小桜姫物語」
			※南アフリカ近海でシーラカンスが捕獲され、恐竜生息説
1938	昭和13		※イギリスでテレパシーを使ったパフォーマンスのビデオン夫妻が話題に(メンタリズム)
1940	昭和15		林忠次郎が自死、林霊気研究会を智恵夫人が継ぐ 仏生講者らが実利教会を建立 片桐龍子の皇華聖道会が宗教団体に 実利教会を建立 土井晩翠次女信子が没する
1942	昭和17		※ニューヨーク市立大学・ガートルード・シュマイドラーがESPカードによる透視実験(羊・山羊効果sheep-goat effect)
1945	昭和20		福来友吉・土井晩翠らが東北心靈学研究所(仙台)顧問に
		3月	福来友吉が仙台に疎開
		8月～	終戦後、「神々のラッシュアワー」新宗教叢生
1946	昭和21		東北心靈科学研究会結成、顧問に福来友吉、土井晩翠ら 日本心靈科学協会設立
1949	昭和24		心靈科学研究会設立
1950年代			民話運動が盛んに ※デヴィッド・バーグラスが超魔術的パフォーマンスを確立

特別展「奇なるものへの挑戦 明治大正／異端の科学」について 参考文献リストと年表

西暦	和暦	月日	事項 ※日本国外の事項
1950	昭和25		精神衛生法施行
1951	昭和26		福来友吉の戦犯追放解除
1952	昭和27		福来友吉「日本の最も偉大な霊媒三田光一」をアメリカ誌「サイキック・オブザーバー」に投稿 ※アメリカでアダムスキーがUFOに遭遇する
		3月13日	福来友吉が仙台で没
1954	昭和29	3月2日	棚橋信元が平和教を立教
1955	昭和30		このころ福来友吉未亡人からむすび協会を東北心霊科学研究会へ委託・寄付
1956	昭和31		高山市・城山公園に福来博士記念館が開館
1957	昭和32		小林幹「のつち」、堤三郎「こつくりさま」(『飛騨春秋』12)、以降「のつち」記事(同13～14)
1960年代			ニューエイジ運動
1960	昭和35		福来心理学研究所(仙台)設立
1961	昭和36		戦後第1次古いブーム(～1962)
1964	昭和39		水木しげる「悪魔くん」が貸本用として発表される
1966	昭和41		水木しげる「悪魔くん」が少年マガジンをリメイク、実写テレビ化され、ヒット
		1～7月	テレビ番組「ウルトラQ」放映
		12月14日	実利行者83回忌、御滝本祈願所を設置
1967	昭和42		戦後第2次古いブーム(～1968) 日本催眠医学心理学会で講演「福来友吉の業績について」(東北大学)
		1月	宮崎康平「まぼろしの邪馬台国」、以後、アマチュア研究者による邪馬台国ブーム
1968	昭和43		※作家・佐伯誠一がネス湖探検、レポートが週刊サンデーに掲載される ※エーリッヒ・フォン・デニケン「神々の戦車?」、世界的ベストセラーに
1969	昭和44		デニケン「未来の記憶 超自然への挑戦」(『神々の戦車?』翻訳)、「宇宙考古学」ブーム
1970	昭和45		このころ、広島県・比婆山に怪物ヒバゴン目撃情報
1970～80年代			古代史／超古代史ブーム 心霊写真ブーム
1970年代後半～			新新宗教
1972	昭和47		ユリ・ゲラーがテレビのワイドショーでスプーン曲げ実演 生体エネルギー研究所設立 国際宗教・超心理学会(IARP)設立
1973	昭和48		コリン・ウィルソン「オカルト」翻訳出版 五島勉「ノストラダムスの大予言」 日本超科学会設立
		7～8月	日本テレビ「あなたの知らない世界」
		12月2日～	つのだじろう「うしろの百太郎」が『週刊少年マガジン』(のち『月刊少年マガジン』)にも同時連載)連載(～1976)
1974	昭和49		映画「エクソシスト」(1973)日本公開
		3月7日	ユリ・ゲラーが「木曜スペシャル」出演のため初来日、スプーン曲げをテレビ実演
		5月23日	朝日新聞社会面に「トリックに動揺 テレビ局」
		5月24日	『週刊朝日』にスプーン曲げトリック暴露
		5月30日	『週刊平凡』にスプーン曲げ疑惑記事
		6月5日	『女性セブン』にスプーン曲げ疑惑記事
		6月15日	『週刊読売』にスプーン曲げ疑惑記事
昭和50年代			こつくりさんが大流行
1970年代後半			高田はわよのReikiが全米に広まる
1975	昭和50	7月22日	実利教会の舍利塔を調査
			この頃、超能力ブーム
1976	昭和51		ドキュメンタリー映画「超常現象の世界」日本公開 サイコムトラ、ジェラルド・クロウゼット(オランダ)が来日し、水曜スペシャルで行方不明者を透視
		1月	日本PS学会(のち日本サイ科学会)設立
1977	昭和52		この年、県内で民話・伝説集の出版が相次ぐ
1978	昭和53		映画「スターウォーズ」日本公開 映画「未知との遭遇」日本公開
		4月2日	岐阜児童文学研究会が「民話研究のついで」開催、県内民話の集大成を図る
		12月	岐阜県八百津で口裂け女騒動、その後、全国に波及
1979	昭和54		雑誌「ムー」創刊
		6月15日	口裂け女騒動、「やっつと下火」記事
		6月29日	『週刊朝日』に口裂け女記事
		7月～	「あなたの知らない世界」がレギュラー化(～1994)
			この頃、戦後第3次古いブーム この頃、口裂け女が全国で話題になる
1980年代			宜保愛子の霊視がブームに 心霊写真がブームがピーク
1980	昭和55		高田はわよ没
1981	昭和56		高田はわよのReikiを継承したバーバラ・レイがラディアンステクニーク協会を設立
		4月	武並町連合自治会が田中守平慰霊祭を挙行、以後、毎年実施
		6月	財団法人福来心理学研究所(仙台)、むすび協会より財団名称を変更
1982	昭和57		飛騨福来心理学研究所(高山)設立

西暦	和暦	月日	事項 ※日本国外の事項
1983	昭和58		雑誌「トワイライト・ゾーン」創刊 高田はわよの孫、フィリス・フルモトがレイキ・アライアンス協会を設立
1984	昭和59	2月3日	「金曜ファミリーワイド」でスプーン曲げトリック暴露 『サンデー毎日』で「大迫跡!日本にピラミッドがあった!」キャンペーン(7/1号～1985年3/10号)
1980年代半ば			日本にReikiがインド経由で逆輸入される
1980年代後半			『精神世界』「ニューサイエンス」ブーム
1986	昭和61		雑誌「ハロウィン」創刊 宜保愛子の霊視がテレビで人気に
1987	昭和62		『丹波哲郎の大霊界』がベストセラーに(1989映画化) 三井三重子がバーバラ・レイ「The Reiki FACTOR」を翻訳、ラディアンステクニーク協会によるレイキセミナーを実施 戦後第4次古いブーム(～1989)
1988	昭和63		奈良県下北山村で第1回ツチノコ探検
1989	昭和64 / 平成1		Mr.マリックの超魔術(ハンドパワー)が流行(木曜スペシャル 特番 ～1992) 加子母に稲の子神社ができる 東白川で第1回ツチノコ探検(のち「つちのこフェスタ」)、開村百周年記念行事の一環
		4月	奈良県下北山村にミニ独立国「ツチノコ共和国」建国
		11月	福岡県で集団こつくりさん中毒、週刊誌などで報道される
1990年代			学校の怪談ブーム
1990	平成2		このころ、精神世界ブーム(第3次宗教ブーム)、レイキが日本国内で普及 常光徹「学校の怪談」
1993	平成5		東白川に「つちのこ館」開館
1991	平成3		ポプラ社から「学校の怪談」シリーズ刊行(～1996) 鈴木光司「リング」
		3月17日	NHKスペシャル「立花隆リポート 臨死体験 人は死ぬ時何を見るのか」
1992	平成4		関口淳インテキ記事の取材記事(『週刊新潮』) ※アメリカでNIH(国立衛生研究所)にOAM(代替医療局、のちNCCAM)を設置
1993	平成5		※アメリカでテレビドラマ「Xファイル」放映開始(～2002) 角川ホラー文庫創刊
1994	平成6		「Xファイル」ビデオレンタル開始
1995	平成7		「Xファイル」放映開始 映画「学校の怪談」(～1999、第4作まで) 映画「女優霊」
		3月20日	オウム真理教地下鉄サリン事件
		8月	関口淳取材記事(『Views』8月号)
1997	平成9		映画「CURE/キュア」
1998	平成10		映画「リング」
		2月	フジテレビ・深夜ドキュメンタリー「職業欄はエスパー」
1999	平成11		山口千代子が京都で直伝霊気研究会を設立 映画「リング2」 この頃、オカルトブーム、Jホラー流行
2000年代			この頃、スピリチュアルブーム
2000	平成12		フジテレビ「大東京オカルトツアー 超能力者が挑む怪奇現象の真実!!」 映画「リング0 パースディ」
2002	平成14		映画「呪怨」 映画「ザ・リング」、ハリウッドリメイク版
2003	平成15		映画「呪怨2」
		4～5月	パナウェーブ研究所(白装束集団)がワイドショーで話題に、高山市等を通過
2004	平成16		映画「THE JUON/呪怨」、ハリウッドリメイク版 映画「着信アリ」
2005	平成17		「あなたの知らない世界2005」
2007	平成19		NPO日本レイキ協会設立
2010	平成22		NHK連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」
2011	平成23		「新あなたの知らない世界」
2014	平成26		「妖怪ウォッチ」が子どもたちに大ブーム

岐阜県博物館調査研究報告 第36号

平成27年3月31日 発行

編集・発行 岐阜県博物館
関市小屋名1989（岐阜県百年公園内）

TEL 0575-28-3111

印刷 有限会社 大六印刷